

爵位故事通考

73

6272





73  
6272

正八位大野肅章纂



去五味均平蔵

# 爵位故事通考

明治三十二年十月十五日





明治三十二年十月十五日

皇位繼承法

五八六六 大正南章纂

皇位繼承法  
大正南章纂

緒言

謹テ爵位制度ノ沿革ヲ尋スルニ推古天皇十一年十二月戊辰朔始テ冠位ノ制ヲ設ケ玉ヒテ曰リ以來茲ニ一千三百有餘年其間爵位階級ノ制度ニ於テ幾多ノ变革アリト雖モ近ク慶應幸度ノ变革ヨリ大ナルモノハナカルベシ当取テ改復古而度維新朝儀大ニ革マリ而シテ今ヤ旧慣ノ以テ存スルモノナキカ如シ故ニ朝廷現行ノ儀式ハ皆新規始制ニ成リ而シテ專ラ欧米ノ制度ニ倣ヒタルノ觀ナキ能ハスト雖モ實際ニ於テハ決シテ然ルコトニハアラザルナリ廟堂ノ君子ハ夙ニ時勢ノ進歩ヲ鑑ミ外交ノ禮儀ニ於テ樽俎折衝ノ間ニ最モ慎重ヲ加ヘ努メテ故典ニ據リテ異朝ノ新例ヲ參酌シ徐々整正シ漸ク完備シヨルモノナレハ



百事皆其濫觴ヲラサレシ故ニ今爵位局ニ於テハ授爵叙  
位ニ聯繫スル官職勲等及ヒ衣冠ノ制ニ至ルマテ其故典ヲ  
明カニシテ其泉源ヲ温ネサルヘカラス古人曰フ故ヲ温テ  
新ヲ知ルト是レ此ノ編述ノ必要ヲ生スル所以ナリ  
謹ニ按スルニ慶應三辛十二月征夷大將軍徳川慶喜軍國ノ  
大政ヲ返上シ武門ノ政初メテ朝廷ニ帰シ親王公卿諸侯及  
諸藩ノ徵士貢士等ヲ以テ總裁議定參與ノ職ヲ組織シ天  
下ノ事大小トナク皆此ノ所ニ決ス是ニ於テ攝政関白征夷  
大將軍内覽勅同國事掛議奉武家傳奏守護職耶同代等ノ官  
名及ヒ職等ハ皆廢セテ明治元年二月三日三職ヲ改メ八  
局ヲ置キ尋テ之ヲ廢シ太政官七官ヲ置キ政体大ニ変シ而  
度漸々緒ニ就キ同辛四月廿一日藏人所ヲ廢ス同所ハ弘仁

元年始メテ置カレタルモノニテ常ニ殿上ニ侍リ機密文  
書ヲ掌ル所トス別当アリ公卿第一ノ人之ニ補ス頭ニ人ア  
リ又甲四位ノ殿上人之ニ補ス五位ノ藏人六位ノ藏人アリ  
之ヲ職事ト云ヒ任官叙位等ノ奉宣事務ヲ處理シ来リシヲ  
此ノ日行政官ニ移サレニ辛七月八月官制ヲ定メ一官ハ省  
ヲ置キ全ク大空ノ制度ニ復ス然ルニ兵馬惶惶ノ際朝廷ノ  
儀式ハ悉ク簡易ヲ貴ヒ典例ノ繁飾ハ廢テ之ヲ省キタリ是  
レヨリ位階奉宣ノ事務ハ其式甚ク略セラレタリト雖モ其  
階級ハ正一位ヨリ少初位ニ至ルマテ三十六階依然尚ホ存  
ヤリ矣辛七月八月四位以下上下ノ稱及九位ヲ廢シテ十八  
階トナシ更ニ官位相当ノ制ヲ復ス然ルニ全辛八月廿日又  
正從九位ヲ設テ二十階トナスニ辛六月十七日官武一途上



下悛同ノ 處慮ヲ以テ自今公卿諸侯、稱ヲ廢シ改テ華族ト稱スヘキ旨仰出カレ而シテ華族ノ位ハ從前ノ通り之ヲ有シタルモ三年十一月十九日旧官人諸大夫侍及中大夫等ニ賜リタル位階ハ皆没收セラレ四年五月十四日神官社家ノ世襲ヲ廢シ神官叙爵ノ事ヲ止メテ五年八月十七日僧官ヲ廢シ六年一月十九日僧侶ノ位階ヲ廢ス是ニ於テ平民同ニハ又旧時ノ觀アラサルナリ八年四月十日勲位ヲ設ケ何等賞牒ト稱シ始メテ勲功アルモノニ賜フコトナリシカ九年十月十二日賞勲局ヲ置キ大勲位ノ一階ヲ欽定セラレ十年十二月廿五日ニ至リ勲一等ヨリ八等迄ノ勲章ヲ制定セラレ後各種ノ勲章及ヒ功級ヲ設ケラレ十五年十一月十五日宮内省中ニ華族局ヲ置キ華族ニ關スル事務ヲ取

扱フコトナリ從來華族ヲ取締リタル部長局ヲ廢ス十七年七月七日公侯伯子男ノ五爵ヲ設ケラレ之ヲ華族ニ賜ヒ而シテ華族令ヲ廢ス二十年五月四日叙位條例ヲ定メ正從九位ノ階級ヲ廢シ正一位ヨリ從八位ニ至ル十六階トナシ而シテ位階奉宣ノ事ハ明治元年四月廿一日藏人齊ヲ廢シ之ヲ行政官ニ移シテヨリ太政官内閣ヲ經テ同辛同月六日ニ至リ之ヲ華族局ニ移シ二十一年五月二十八日華族局ヲ爵位局ト改稱シ官制ヲ定メ爵位ニ關スル奉宣事務ヲ掌理セシメ維新以來爵位勲等功級等名譽ノ表章ニ於テ改正又ハ新設ノモノアリト虽其功級ヲ除クノ外大宝以來皆行ハレタル所ノモノニ其ノ銓衡其上奏其奉宣其儀式及ヒ位記辭令等最モ簡畧ニ歸スト虽其必ス故事旧典ノ據ルベキ



モノアリテ杜撰ニ変化シタルモノニアラサルナリ然レニ  
其故事旧典ノ古書傳記ニ太ク乏シク而シテ其儀式慣例  
如キ多クハ口傳ニ屬シ適々旧記ノ存シタルモノアリト  
雖レ各其主任ノ家ニ藏シテ秘密ニ傳ハラレタルモノ維新  
ノ改革文明ノ制度益々進歩スルニ從テ又昔初盛ニ歎セラ  
レタル王政復古ノ形跡更ニ見エサレハ其所有者ハ皆無用  
ノ長物ト認メ之ヲ火中ニ投シタルモノ鮮ウラス是レ此  
書ヲ作ルニ於テ最モ困難ヲ極メタルモノナリ然レニ其中  
舊記中現存スルモノハ拾クホメテ之ヲ拾ヒ而シテ其足ラ  
サルモノハ維新前其局ニ當リタル元藏人子爵勘解由小路  
資生元大内記子爵高辻脩長元少内記正六位山口番昌元  
藏人正六位松尾相願等ニ就キ之ヲ質シ又九條家及ヒ其他

、公卿大名ノ記録ヲ探リ撮家清華堂上諸侯諸大夫女官神  
官僧侶等ノ叙位ニ関スル故事旧典ヲ畧々取調フルコトヲ  
得タルハ之ニ維新以來行ハル、所ノ諸例規ヲ附記シ以テ  
當局者ノ使ニ備フト云云





正一位稀授ノ事

冠位通考ニ曰ク三十階中其一位ハ殊ニ尊ニ正一位ハ奈良朝ニ於テ稀ニ授ヒレコトアレバ其以來ハ存在ノ人ニ賜ハルコトナシ故ニ正一位ハ只神社又ハ贈位ニ限レルモノトナレリ又從一位モ容易ニハ賜ハラレルモノトス古ハ大臣トシテモニ位ナルカ多シト

愚按スルニ古未在世ノ人ニコレ正一位ヲ授ハリレ例ハ曰ク橘諸元曰ク悪美押勝曰ク藤原永年曰ク藤原武智磨而シテ今上天皇ハ三條實美ニ正一位ヲ授リタリ蓋シ異教ナリトス

Blank page with vertical red lines for writing.



叙位考撰 事附任官考課 例  
 文武天皇四年 忍壁親王及藤原不比等 勅云 律令曰 權  
 定也 元ノ太皇元年 各令ト共ニ 叙位考撰ノ 改ヲ 実施ス  
 愚按スルニ 聖年三月 對馬ノ 國 眞金ヲ 貢ス 乃チ 建元ニテ 大  
 室ト云フ 是ヨリ 前年号 ヲリト 雖 氏未ノ 定式トナサズ 大室  
 以降 年ニ 辨ナキモ アルコト 藤ケレハ 正統紀ニハ 今垂ヲ  
 以テ 幸辨ノ 始トシ 爲ス 同時ニ 新ニ 撰定スル 所 律令ヲ 實  
 施シ 官名位 辨ヲ 改制ニ 叙位考撰ノ 事ニ 亦行ハル 此ノ 律令  
 大室令ト云フナリ 柳ニ考撰トハ 戈ヲ 遷ニ 官ヲ 授ケ 考ヲ  
 計ハ 位ニ 叙スルノ 義ニシテ 位ハ 官ニ 伴ヒ 官ハ 位ニ 從フ 故  
 故 來官位 相當ト云フコトナリ 若シ 位卑ケ 官高ケレ  
 ハ 則チ 守ノ 字ヲ 加ヘ 官卑ケ 位高ケレハ 則チ 行ノ 字ヲ 加フ

大室令ト云フナリ 柳ニ考撰トハ 戈ヲ 遷ニ 官ヲ 授ケ 考ヲ  
 計ハ 位ニ 叙スルノ 義ニシテ 位ハ 官ニ 伴ヒ 官ハ 位ニ 從フ 故  
 故 來官位 相當ト云フコトナリ 若シ 位卑ケ 官高ケレ  
 ハ 則チ 守ノ 字ヲ 加ヘ 官卑ケ 位高ケレハ 則チ 行ノ 字ヲ 加フ



叙令ハ大納言ハ正三位ノ官ナルニ從三位ニシテ大納言ニ  
任セラル、時ハ從三位守大納言ト書シ若シ正二位ニシテ  
大納言タル時ハ正二位行大納言ト書ク官位相当トシハ大  
納言從三位ト書スラ例トス因テ按ズルニ考選ノ事ハ官位  
トモ行ハレ而シテ初テ官ニ任セラル、時ハ秀才明經進  
士明法ノ四科ニ試ミテ及第シテ某官ニ任シ相当ノ位階  
ヲ授ケラレ其後ハ彼ノ四喜及四十二最等ノ考定ニ依テ位  
ヲ昇セ又官モ進ズルニモトス大納言ハ正三位ノ官ニ  
選叙令ニ曰ク凡ソ應ニ叙スルキ者ヲ本司八月三十日以前  
ニ校定ス式部ハ十月一日ヨリ起シテ二月三十日ニ盡ク  
大政官ハ正月一日ヨリ起シテ二月三十日ニ盡ク限ノ内ニ  
於テ處分ニ畢ル其忘テ叙スルキ人ハ本司程ヲ量リ申シ送

ハテ省ニ集メシメ日省ハ式部兵部日調フ程ヲ量ルハ  
選中量ハ十リ省ニ集ルニシテハ階ヲ除スル高下ヲ唱示シ及  
テハ凡ソ初位以上長上ノ官ニ近代スルハ選官ヲ謂フ高官ニ  
大位以下考滿ニ進ミ遷ルハ人ニ授ケルニ其五位以上ハ選  
代也若ト失比亦猶六考ヲ以テ限ト為シ更ニ始メテ計フル  
ハ皆六考ヲ以テ限ト為ス六考中ノ中ハ一階ヲ進メテ  
叙シ三考中ノ上及七ニ考上ノ下並ニ一考上ノ中コトニ各  
亦一階ヲ進メテ叙ス一考上ノ上ハ二階ヲ進メテ叙シ  
其四階ヲ進加ス及七考ヲ計ハテ五位以上ニ至ルハケレバ  
奏聞ニシテ別ニ叙ス去ク  
制度通ヲ按ズルニ本朝考課ノ法大率唐ノ法ノ如シ内外文  
武官初位以上毎章ニ當司ノ長官其屬次官以下ノ面々一  
章中ノ功過行能ヲ考メ其優劣ヲ詮議シテ九等ニ定メ章ノ八



月三十日... 仕舞... 京官... 官人... 十月朔日... 大政  
官... 申送... 外國... 今... 十一月朔日... 朝集使... 付... 申... 送  
其... 上... 吟味... 解官... 降... 昇... 進... 口... 狀... 準...  
沙... 汰... アル... コ... ト... ナリ... 文官... 式部省... 属... 武官... 兵部省...  
属... 大... 兼... 少... 忠... 之... 勘... 同... 又... 々...  
考... 課... 令... ヲ... 按... スル... 位... 叙... ス... キ... ノ... 人... 品... 行... 方... 正... ニ... テ... 才... 藝...  
超... 抜... 而... ニ... テ... 治... 國... ノ... 大... 体... 即... チ... 仁... 義... 体... 制... 法... 令... 刑... 罰... ノ... 類... 曉... 通...  
レ... ル... 者... ハ... 皆... 擢... シ... スル... 不... 次... ヲ... 以... テ... ス... 又... 郡... 司... 性... 識... 清...  
廉... 時... 務... 堪... ヲ... ル... 者... ヲ... 取... リ... テ... 大... 領... 少... 領... ト... 為... テ... 強... 幹... 聰... 敏... 之...  
テ... 考... 計... ニ... エ... ヲ... ナル... 者... ヲ... 主... 政... 主... 帳... ト... 為... テ... 其... 大... 領... ハ... 外... 從... 八... 位...  
上... 少... 領... ハ... 外... 從... 八... 位... 下... 叙... ス... 云... 又... 舍... 人... 吏... 生... 兵... 衛... 伴... 部... 使... 部...  
及... 七... 帳... 内... 資... 人... ヲ... 叙... スル... ハ... 並... 八... 考... ヲ... 以... テ... 限... ト... 為... テ... 八... 考... 中...

十... 一... 階... 進... ノ... 四... 考... 中... 四... 考... 上... 十... 一... 階... 進... ノ... 八... 考... 上...  
十... 三... 階... 進... ノ... 叙... ス... 郡... 司... 郡... 團... 叙... スル... 皆... 十... 考...  
以... 限... 十... 為... 十... 考... 中... 十... 一... 階... 進... 又... 五... 考... 上... 五... 考... 上...  
八... 二... 階... 進... ノ... 十... 考... 上... 十... 一... 階... 進... ノ... 叙... ス... 兼... 上... 考... 下...  
考... 十... 一... 階... 進... ノ... 叙... ス... 並... 八... 考... 上... 例... 同... 其... 外... 散... 位... 者... ハ... 番...  
ヲ... 分... ヲ... 上... 下... 階... 十... 二... 考... 上... 以... 限... 十... 為... 十... 二... 考... 中... 一... 階... 進...  
又... 六... 考... 上... 六... 考... 中... 二... 階... 進... ノ... 十... 二... 考... 上... 三... 階... 進... ノ... 叙... 之...  
ヲ... 叙... 之... 相... 折... ヲ... 郡... 司... 同... 其... 分... 番... 二... 考... 及... 七... 長... 上... 八... 考... 上...  
亦... 十... 考... 上... 例... 同... 若... 三... 考... 上... 若... 十... 一... 考... 上...  
ヲ... 以... 限... 十... 為... 十... 帳... 内... 資... 人... 等... 才... 文... 武... 貢... 奉... 堪... ヲ... ル... 者... 並...  
二... 貢... 之... 及... 策... 者... 内... 位... 叙... 之... 落... 第... 者... 各... 本... 主... 還... ス... 本...  
主... 十... 考... 上... 期... 幸... 後... 式... 部... 送... リ... 校... 又... 若... 夫... 職... 事...



任也ハ即チ改テ内位ニ入ル雜色ニ任用セハ考滿ルハ日内  
位ニ叙スベシ若シ無位ノ者ハ考得否ヲ同ハズ年ヲ數ハ  
テ未タ六季ニ滿テサル者ハ皆本貫ニ還スベシ若シ廻テ版  
内資人ニ充テハ亦前勞ニ通計スベシ蕃使ニシテ四週ニ  
滿ル者モ亦然、如クス即チ上考下考アルモノハ前例ニ依  
リ其別勅及ヒ伎術ヲ以テ諸司ノ長上ニ直ル者ハ考限叙法  
並ニ職事ニ同シ  
制度通ニ曰ク本朝ノ制貢奉ニ進士明經秀才明法等六科アリ  
リ其大學ヨリスルヲ奉人ト云ヒ其諸國ヨリスルヲ貢人ト  
曰フ又曰ク本朝選奉ノ法全ク唐ノ制ニ依ル其内唐ニハ進  
士明經等六科カセザラバ本朝ニハ只秀才明經進士明法  
ノ四ツバカリ令ニテテハ又曰ク明經科試ル所ハ經ハ統

テ九經大中小ニ分ツ礼記左傳ヲ大經トス明經科ニテ五經  
ニ通スト云フハ右ノ七經悉ク通スルヲ云フ三礼ヲ合セテ  
一經トスルナリ三經ニ通スト云フハ大中小の内ニテ各一  
經ニ通スルヲ云フ二經ニ通スルト云フハ大經小經ノ内ニ  
テ各一經ニ通スルヲ云フ孰レモ令ニテテハ孝經論語ハ  
兼通スルモノトス餘ニ經籍ノ部ニ之ヲ詳ニス又曰ク明經  
ヲ試ミルノ次第ハ大學祭、學生ニ毎月十日三度ツ、休暇  
ヲ放ス暇ノ前一日ニ博士學者ノ道藝ヲ考試ス讀ト講トニ  
ツアリ讀ヲ試ムルモノハ經ノ内ニテ午言ノ内一所三字ニ  
ハリ紙ヲシテ學者ニ刀ヲ一圖讀セシムルナリ午言ニ滿  
ガレハ試ミテ講ヲ試ムルモノハ二條ヲトシテノ内ニテ大  
義一條ヲ同フ統ニ三條ヲ試ミ二條ニ通スルヲ及第トス一



條ニ通シ又全ク通セザル者ハツレソレ罪アリサテ年ノ才  
ハリニ大學頭助並ニ國司學生ノ藝業優長ナルモノヲ試シ  
一年中受ルトコロノ業ヲ勘定シ大義八條ヲ同ク但シ讀テ  
試ムルコト乖テ終リニハ之レナシハ條ノ内ニテ六以上ヲ  
得ルヲ上トシ回以上ヲ中トシ三以下ヲ下トス三幸ツハ  
ニ下等ニ落テ並ニ大學寮ニ在ルコト九幸ニ及テ及第スル  
コト能ハサルモノハ解退シテ還スナリ學生ニ經ニ通スル  
以上出仕ヲ願フモノハ奉送ヲユルニ又大義一條ヲ同クソ  
ノ内ニテハ得ル以上ハ太政官ニオタル若シ回學生ニ經  
ニ通スルモノハ字ヲ願フモノハ在学九幸ニ滿リヌト雖モ  
式部ニ申送り吟味ノ上大学生ニ補スルナリ又學生講読長  
セズト雖モ又藻ニナラヒ秀才進士オアルモノハ亦奉送ヲ

ユルヌ是マテハ孰シモ大學寮ニテ入コトナリ又曰ク凡ソ  
今番ノ考課ハ每幸ニ本司ノ行能功過ヲ量リテ三等ノ考  
第ヲ立テ議定シテオハリテ具ケニ具由ヲ誌シテ式兵ニ省ニ  
送ル兵衛元ノ衛門内御イツシモ三等ノ考第アリ是ハ唐ノ  
親勲翊衛ノ考第ニ擬セラルタルナリ兵衛ト云フハ即チ軍  
團衛士ノコトナリ  
愚按スルニ往古本邦考課ノ法多クハ唐ノ法ニ倣ハレタル  
モノナレハ其参考トシテ唐ノ制度ヲ誌スバニ唐ノ世ニハ  
考課ノ法四善二十七最ト云フ條目アリ是ヲ上々ヨリ下下  
マテ九等ニ分ケ每幸近侍ヨリ末々マテノ官人凡ソ流内官  
ノ分ヲ吟味ス玄宗ノ開元二十五年定メテ三幸ニ三度考課  
シテ永ク常式トナス



通典曰大唐考課之法有德義清慎公平恪勤各一善自近侍至  
于鎮防並視職事目為之最凡二十七焉

四善之目

德義有聞者為一善 清慎明著者為一善

公平可稱者為一善 恪勤匪懈者為一善

二十七最之目

獻可替否拾遺補闕為近侍之最

銓衡人物擢盡弋良為近侍之最

揚清激濁褒貶必當為考校之最

禮制儀式勤合經典為禮官之最

音律克諧不失節奏為樂官之最

決斷不滯典奪合理為判事之最

部統有方警守無失為宿衛之最  
兵士調集戎裝充備為督領之最  
推鞠得情處斷平允為法官之最  
讎校精審明於刊定為校正之最  
秉肯敷奏吐納明敏為宣納之最  
訓導有方生徒克業為學官之最  
賞罰嚴明攻戰必勝為將帥之最  
禮義興行肅清所部為政教之最  
詳錄典正詞理兼舉為文史之最  
訪察精審禫奉必當為糾正之最  
明於勘覆誓失無隱為句檢之最  
職事修理供承強濟為監掌之最



功課皆充下匠無怨為役使之最  
 晰釋以時收獲刺課為屯官之最  
 謹於益藏明於出納為倉庫之最  
 推步盈虛究理精密為曆官之最  
 右候醫卜効驗居多為方術之最  
 識察有力行旅無壅為同津之最  
 市鄽不擾姦濫不行為市司之最  
 牧養肥碩蕃息孳多為牧官之最  
 邊境肅清城隍修理為鎮防之最  
 九等之分別

一最以上有四善  
 一最以上有三善或无最而有四善  
 一最以上有二善或无最而有三善  
 一最以上有一善或无最而有二善  
 一最以上有無善或无最而有無善  
 為上上  
 為上中  
 為中中  
 為中下  
 為下上  
 為下中  
 為下下

一最以上有二善或无最而有三善  
 一最以上有一善或无最而有二善  
 一最以上有無善或无最而有無善  
 職事廉理善最廉剛  
 愛憎任情處所乖理  
 背公而私職務察厥  
 居官論詐會濁有狀  
 冠位通考曰考撰ノ政ハ冷泉院ノ御宇以來甚ノ緩ニ寛  
 弘長和ノ頃ニ全ク察レ尽キタリト殊ニ下々ノ階級ハ火レ  
 用ナク大位以下ラ一向ニ只賤レキモノトナシ廟堂心ヲ  
 留ルモノナキニ至ルト  
 愚按スルニ古ハ五位以下ノ位ト虽氏考ヲ計ニテ奏聞スル



例ト人而シテ五位以上ハ選叙令ニ年齡皆二十五以上ニ  
アラレハ叙位ノ典ナレ但シ蔭ヲ以テ出身セハ年二十一  
以上ヲ限ルトアリテ最モ嚴格ナルモノナリシモ中古以降  
公卿諸侯ハ皆家格ニ依リ現童ニシテ五位以上ニ叙セラル  
コトナレリ又定考ト云フコトアリ定考ト文字ニカ  
カコトニ讀ム是レハ八月十一日ニ行ハレシ式ナリ  
公事根源ニ曰ク昔者六位以上ノ加階ヲスル人ハ彼ノ藝能  
行跡恪勤ヲ五ウ心テ深爵ヲ給ヒケルナリ上卿官ノ東ノ廳  
ノ座ニツキテ事ヲ行フ次ニ朝所ニ就テ三献ノ儀式アリ次  
ニ宴穩ノ座ニツク又各三献アリカリレノ華ヲ上卿以下ノ  
冠ニ刺ス大臣ハ白菊納言ハ黄菊参議ハリウタシ其外ハ皆  
時ノ華ヲ刺ス造り花ニアラス大カタハ二月ノ列見ニ同シ

式兵ノ兩者ヨリ諸司ノ輩ノ上ヨリ選成スル事ヲ列見ト云  
フ其レヲウキマツテ奏スルヲ擬階ノ奏ト云フ矣人々  
ヲ選ビ出シテ定メ侍ルヲ定考トハ申ス也云々之ヲ略記シ  
テ叙位考選ノ参考ニ資ス

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible due to fading and bleed-through.)







七位上冬省、於、郷、正四位上大輔、正五位上少輔、  
從五位上大丞、正六位上少丞、從六位上大録、正七位上  
少録、正八位上侍從、從五位下而、侍、正六位下大  
内記、正六位上少内記、正七位上大監物、從六位下少監  
物、從八位下各職、大夫、從四位下亮、從五位下大進、  
從六位上少進、從六位下大属、正六位下少属、從八位上  
寮頭、從五位上助、正六位下大亮、正七位下少亮、從七  
位上大属、從八位下少属、大初位上、同正史、大初位上、  
從七位下大令史、大初位上少令史、大初位下彈正、  
三位大弼、正五位下大忠、正六位上少忠、正六位下大  
正七位下少疏、正八位上大國、守、從五位上令、正六  
位下大掾、正七位下少掾、從七位上大目、從八位上少目

八從八位下上中下國、守、令、掾、目、次、第、一、階、下、而、  
其下國、令、置、カ、左、右、近、衛、府、於、大、將、從、三、位  
中、將、從、四、位、下、少、將、正、五、位、下、將、監、從、六、位、上、將、曹、從、  
七、位、下、左、右、衛、門、及、兵、衛、府、於、督、從、四、位、下、佐、從、五、位  
上、大、尉、從、六、位、下、少、尉、正、七、位、上、大、大、志、正、八、位、下、少、志  
八從八位上  
是、其、概、畧、誌、維、新、後、官、位、制、度、ノ、事、リ、ル、所、ノ、參、考、ニ  
供、ス、ル、モ、ナ、レ、ハ、讀、者、其、詳、細、ヲ、知、ラ、ハ、ト、欲、セ、ハ、大、室、令、ノ  
原、文、ニ、據、ル、ノ、旁、ヲ、執、ラ、ゲ、ル、バ、カ、ラ、ス  
愚、按、ス、ル、ニ、源、賴、朝、幕、府、ヲ、録、倉、ニ、同、テ、ヨ、リ、世、ハ、封、建、ノ、制、度  
ト、為、リ、政、權、ハ、總、テ、武、門、ニ、歸、シ、管、領、執、權、ト、出、テ、モ、ア、リ  
テ、國、家、ノ、事、ハ、細、大、ト、ナ、ク、之、ヲ、處、理、シ、ル、ニ、依、リ、大、室、ノ、制



度、全ク行ハレザルコトナレリ後醍醐天皇復古ノ鴻業  
ス大氏ニ至ラズテ遂ニ南北朝ニ分レ村上天皇ノ時ニ於  
テ北畠親房職原抄ヲ筆記シテ帝ニ上リシモ到底行ハレサ  
リシナリ是利氏ノ幕府以來官ハ即ケ名ノミニシテ僅カニ  
朝廷ニ其一部ヲ存セラレタルナリ  
位階ハ勲功ニ依リ加級セシムルノ已ヲ得サルモノアレハ  
其官相当ノ位ヲ越フルモノ多キカ故ニ行守ノ二字ヲ以テ  
大宝ノ制度ヲ維持シ以テ明治維新ノ時ニ迄ブ

宮女官名及セ相當位ノ事  
職官志ニ曰ク後宮ニハ妃二人四品以上夫人三人三位以上  
嬪四人五位以上宮人ノ職掌分テ十二ト為ス之ヲ十二司ト  
謂フ  
内侍司ニハ尚侍二人從五位ニ準シ供奉常侍奏請宣傳及セ  
女孺ヲ檢校シ兼テ内外命婦ノ朝参反セ禁内ノ禮式ヲ知ル  
コトヲ掌ル典侍四人從六位ニ準シ掌侍四人從七位ニ準シ  
二官ノ掌ケ尚侍ニ同シ唯奏請宣傳ヲ得ス女孺一百人ハ  
平城天皇大同ニ幸尚侍ヲ墜セテ從三位ニ典侍ヲ從四位ニ  
掌侍ヲ從五位ニ準ス  
藏司ニハ尚藏一人正三位ニ準シ神璽園契供御衣服中櫛服  
玩珍宝絲帛賞賜ノ事ヲ掌ル典藏二人從四位ニ準シ掌ケ尚



藏ニ同シ掌藏四人七位ニ準シ綵帛賞賜ヲ出納スルコトヲ  
掌ル女孺十人  
書司ニハ尚書一人六位ニ準シ内典經籍及ヒ紙筆几按樂器  
ノ事ヲ掌ル典書二人七位ニ準シ掌サ尚書ニ同シ女孺六人  
藥司ニハ尚藥一人七位ニ準シ醫藥ノ事ヲ掌ル典藥二人八  
位ニ準シ掌サ尚藥ニ同シ女孺四人  
兵司ニハ尚兵一人七位ニ準シ兵器ノ事ヲ掌ル典兵二人八  
位ニ準シ掌サ尚兵ニ同シ女孺六人  
庫司ニハ尚庫一人七位ニ準シ宮周管鑰及ヒ出納ノ事ヲ掌  
ル典庫四人八位ニ準シ掌サ尚庫ニ同シ女孺十人  
殿司ニハ尚殿一人六位ニ準シ興徹膏沐燈油火燭薪炭ノ事  
ヲ掌ル典殿二人六位ニ準シ掌サ尚殿ニ同シ女孺六人

掃司ニハ尚掃一人七位ニ準シ床席簾掃鋪設ノ事ヲ掌ル典  
掃二人八位ニ準シ掌サ尚掃ニ同シ女孺十人  
水司ニハ尚水一人七位ニ準シ漿水雜粥ヲ進ムル事ヲ掌ル  
典水二人八位ニ準シ掌サ尚水ニ同シ女孺六人  
膳司ニハ尚膳一人正四位ニ準シ御膳進食先嘗及ヒ膳羞酒  
饌果蔬等ノ事ヲ掌ル典膳二人從五位ニ準シ掌膳四人六位  
ニ準シ掌サ尚膳ニ同シ女孺十人  
酒司ニハ尚酒一人六位ニ準シ釀酒ノ事ヲ掌ル典酒二人八  
位ニ準シ  
縫司ニハ尚縫一人正四位ニ準シ裁縫衣服纂組兼シ女功及  
朝參ノ事ヲ掌ル典縫二人從五位ニ準シ掌サ尚縫ニ同シ掌  
縫四人參見朝會傘婦ヲ引導スル事ヲ掌ル女孺一百人



凡ノ諸司ノ掌ナリ以上ノ職事ト為ス餘ハ皆散事ナリ考叙法  
一ニ長上ノ例ニ準ス  
東宮ノ宮人及ヒ嬪以上女堅亦皆共ノ如シ  
令外置ク所ノモ、ヲ女御ト云ヒ更衣ト云ヒ御直殿ト云フ  
皆定員ナリ  
西宮記ニ清凉記ヲ引テ曰ク更位十二人  
女御ノ事桓武帝記ニ正五位下紀朝臣乙魚ヲ以テ女御ト為  
ス女御ハ蓋ニ共ニ始マル  
更衣ノ事暖峽帝記ニ從五位下秋藤朝臣高子ヲ更衣ト為ス  
蓋ニ是ヲ始トナス其後歷朝多ク妃夫人ヲ立テズ而シテ女  
御益貴ニ位ハ皇后中宮ニ並、更衣又之ニ並、三代實録ニ  
曰ク大臣、女ヲ以テ女御ト為シ納言、女ヲ更衣ト為ス

句當ノ事禁秘抄ニ曰ク内侍司ハ後高侍ヲ廢シ而シテ掌侍  
ニ權官二人ヲ加ヘ六人ト為シ其一人ヲ句當ト云フ所謂句  
當ノ内侍是レナリ又上臈小上臈下臈等ナリ上臈ハ即ケ典  
侍御臈ヲ供スルコトヲ掌ル其一人ハ宣旨ヲ為シ御直殿別  
當ニ亦上臈ヲ以テ之ヲ為ス小上臈ハ公卿侍臣ノ女ノ官ニ  
在ル者ヲ謂フ中臈ハ即ケ命婦下臈ハ女藏人ナリ  
十二司ノ外又采女司東堅子水取等アリ亦皆女官ナリ其他  
得邊刀自王殿司アリ刀自、内侍所ノ直衛ヲ掌リ主殿ハ殿  
上ヲ洒掃スルコトヲ掌ル皆後世ノ制ナリ  
有職同春ニ曰ク句當内侍ノ事是ハ内侍ノセウ、一臈ヲ申  
スナリ(卷内侍ノ内侍一ヲ句當ノ掌侍ト喚候ナリ)トア  
リ然レ内侍司ニ三アリカ、ス、セ、ト云フ尚侍ハカ







式部卿位姓名

右勅ニテ賜フ五位以上ノ位記、式皆見在、長官一人署ス  
若シ長官ナケレハ則チ大納言及ビ少輔以上式ニ依リ署ス  
兵部モ亦同ニ以下是ニ準ス

奏授位記式

太政官謹奏

本位姓名奉若干其國其郡人今授其位

年月日

太政大臣位姓名 大納言加名

式部卿位姓名

右奏ニテ授フ所本位以下ノ位記式トス

判授位記式

太政官

本位姓名奉若干其國其郡人今授其位

大納言位姓名

式部卿位少輔以上加名

右判ニテ授フ外八位及ビ内外初位ノ位記式トス

清和天皇貞觀元年四月公卿太政官ノ曹司職ニ於テ成選

位記ヲ賜フ

爵位考ニ當時ノ宣制ヲ載スルコト尤ノ如シ

勅旨止宣大余ノ卑聞止宣天安二年成選人等亦其任奉乃

隨亦冠位上賜比治賜止久宣大余ノ卑聞食止宣

庚ニ是  
コリ後

ト奉ニ此事ヲ恩スレ



爵ハ正韻ニ即約ハ功音雀トアリ説文ニ禮器ナリ爵ハ形ニ  
 象リ中ニ壺酒アリ又之ヲ持ツト飲器ナル所以ナリ爵ニ象  
 形モリハ其鳴ノ節々是々ニ取ル字彙ニ其能ク飛シ酒ニ酌  
 レス以テ傲ラズ取ル埤雅ニ一斛ヲ爵ト云フ亦其鳴節  
 ノ以テ荒陰ヲ戒ムルニ取ル又大夫以上ニ燕賞ヲ與ス然ル  
 後爵ヲ賜ヒ以テ有徳ヲ明ニス故ニ命秩ヲ謂テ爵祿爵位ト  
 為ス集韻ニ爵ハ位ナリ廣韻ニ封ナリ殷ハ爵ハ三等周ハ爵  
 ハ五等其三等ハ三先ニ法リ五等ハ五行ニ法ルナリ又廣韻  
 ニ爵ハ量ナリ其職ヲ量シ其戈ヲ尽スナリトアリ  
 禮記ニ王者ハ祿爵ヲ制スル公侯伯子男凡テ五等諸侯ハ上  
 大夫卿下大夫上士中士下士凡テ五等注ニ王者ハ制度ハ祿

爵ハ正韻ニ即約ハ功音雀トアリ説文ニ禮器ナリ爵ハ形ニ  
 象リ中ニ壺酒アリ又之ヲ持ツト飲器ナル所以ナリ爵ニ象  
 形モリハ其鳴ノ節々是々ニ取ル字彙ニ其能ク飛シ酒ニ酌  
 レス以テ傲ラズ取ル埤雅ニ一斛ヲ爵ト云フ亦其鳴節  
 ノ以テ荒陰ヲ戒ムルニ取ル又大夫以上ニ燕賞ヲ與ス然ル  
 後爵ヲ賜ヒ以テ有徳ヲ明ニス故ニ命秩ヲ謂テ爵祿爵位ト  
 為ス集韻ニ爵ハ位ナリ廣韻ニ封ナリ殷ハ爵ハ三等周ハ爵  
 ハ五等其三等ハ三先ニ法リ五等ハ五行ニ法ルナリ又廣韻  
 ニ爵ハ量ナリ其職ヲ量シ其戈ヲ尽スナリトアリ  
 禮記ニ王者ハ祿爵ヲ制スル公侯伯子男凡テ五等諸侯ハ上  
 大夫卿下大夫上士中士下士凡テ五等注ニ王者ハ制度ハ祿



爵ヲ直シト為ス白虎通ニ曰ク爵ハ盡ナリ人カヲ盡ス所以  
是レナリ又禄ハ崇ナリ録ナリ上ハ收録ヲ以テ下ニ接シ下  
ハ名録ヲ以テ謹ニ上ニ事フルナリトアリ礼記ニ公侯ハ田  
方百里伯ハ七十里子男ハ五十里注ニ次地殷ハ夏ノ爵ニ等  
ノ制ニ因ルナリ孟子ニ北鑄同フテ曰ク周室ノ爵禄ヲ班ツ  
フト之ヲ如何孟子曰ク其詳ナルコトハ得ニ聞クヘナラザ  
ルナリ諸侯其己ヲ害スルヲ惡シテヤ而モ皆其籍ヲ去ル然  
レ凡軻ヤ膏ニ其賂ヲ聞ク也天子一位公二位侯一位伯一位  
子男曰ク一位凡テ五等ナリ君一位卿一位上士一位中士一  
位下士一位凡テ六等位ニ矣レ班爵ノ制ナリ五等ハ天下ニ  
通シ六等ハ國中ニ施マシテアリテ天下ニ通スルヲ五等ト云  
ヒ國中ニ通スルヲ六等ト云フモ天子及ヒ君ヲ除ケハ孰レ

五等トナリ礼記ノ所謂王者ノ制ト云フモ是レナリ天  
子ノ制地方千里公侯ハ皆百里伯ハ七十里子男ハ五十里凡  
テ四等五十里ナル能ハズレテ天子ニ遠セテ諸侯ニ附スレ  
テ附庸ト曰フトアリテ小國ノ地五十里ニ是ラナルモノ自  
ラ天子ニ遠スル能ハズ大國ニ因リ姓名ヲ通スル者ヲ附庸  
ト云フサレ此ノ附庸ナルモノハ五等ノ内ニハ教ハテルナ  
リ然ルニ本文之ヲ今ニ四等ト云ヒシハ文章上ノコトニ  
シテ即チ天子ナリ公侯ナリ伯ナリ子男ナリトシテ四等ト  
ハ云ヒシナルヘシ故ニ其實ハ公侯伯子男ノ五等ニ外ナラ  
ザルナリ  
趙子徳ノ曰ク天ヲ父トシ地ヲ母トシテ之レカ子タル者ハ  
天子ナリ爵位盛大ニシテ私ナキヲ以テ徳トスル者ハ公ナ



リ外ニ作候シテ人ニ君タルヲ以テ徳トスルモノハ侯ナリ  
以テ人ニ長タルニ是レル者ハ伯ナリ其徳ノ以テ人ヲ養フ  
ニ是レルモノハ子ナリ男ハ任ナリ任ハ安ナリ而シテ其徳  
ノ以テ人ヲ安スルニ是レル者ハ男ナリ命ヲ出シテ以テ衆  
ヲ正スニ是レル者ハ君ナリ進退ヲ知テ而シテ其道ヲ達ス  
ルモノハ卿ナリ智以テ人ヲ帥ユルニ是レルモノハ大夫ナリ  
リ以テ人ニ事フルニ是レル者ハ士ナリト  
愚按スルニ爵ノ出所ハ雀ノ形ニ象リタル酒盃ヲ以テ之ヲ  
賢也ノ切傍者ニ賜ヒ其位ヲ定メタルニ起因シタルモノト  
知ラレ之レヨリ爵ハ名譽ノ稱蹄トナリ支那古代ノ君主改  
治ニ用テル所ノ秩序的ノ制度ニシテ王者ヲ群臣ヲ馭スル  
唯一ノ具トナス然ルニ本朝ハ古来五爵ノ制ナシ只朝臣

、從五位下ニ叙セラル、コトヲ叙爵ト云ヒナリ蓋シ從  
五位、宣旨ハ昔者ハ勅授式ニシテ侯伯ニ賜フモノ即ケ國  
主ノ相当位ナレハ支那ノ諸侯ニ擬シ卑ニ其位ヲ爵ト稱シ  
從五位下ニ叙スルヲ叙爵トハ云ヒシナルハシ古来慈惠ヲ  
行フモノニ爵何級ヲ賜フトアルヲ歴史上屡々散見スルモ  
皆下級ノ位階ヲ賜ヒタルハ疑ヒナキモノトス又穀ヲ糶シ  
民ヲ賑ヌモノニ位ヲ授ケラレタル等皆同ニ意味ナルカ如  
シ  
明治十七年七月始テ五等ノ爵ヲ設ケラル曰ク公侯伯子男  
而シテ其公爵ヲ授ケラレタル者ハ公卿ニナリテハ五摂家  
武家ニナリテハ徳川將軍家ヲ當然トシテ而シテ進新ノ際  
偉勳ヲ奏シタル嶋津毛利三條岩倉ノ諸家ヲ加テ侯爵ハ徳



川三家又ハ十八國主ノ内其大藩一現未トシ五石以上藩ヲ  
中藩一石以上一並ニ清華ノ諸家及ヒ維新ノ偉勲ナル者ニ  
授ケラルル伯爵ノ諸侯ノ中藩以上又ハ公家ノ大臣家羽林家  
大納言家及ヒ維新ノ功勞者ニ賜ヒ子爵ハ小藩ノ諸侯及ヒ  
平公家一般ニ授ケラルル而シテ男爵ハ公卿諸侯ノ家ヨリ新  
分家セラレノルモノ及ヒ大藩諸侯ノ附家老等ノ新華族  
ニ賜ヒタルモノ但シ從來ノ家格ヨリ上級ノ爵ヲ賜リタル  
モノアルハ皆勲功ニ因ルモノトス是ニ於テ本朝五爵ノ制  
始テ行ハル

位事  
字音ニ位ハ于愧ノ切正也列也莅也中庭ノ左右之方位ト云  
易ニ艮ノ卦ニ君子思フト口其位ヲ出テ不注ニ范氏曰  
ク物各其所ヲ得而シテ天下ノ利得矣又ニ女ハ位ヲ内ニ正  
シ男ハ位ヲ外ニ正ス書ニ盤盥既ニ遷ヲ厥ノ居ニ假ヲ尊人  
乃々厥ノ位ヲ正ス漢書ニ趙充國ノ曰ク古レ幸老クリ爵位  
已ニ極マル豈ニ一時ノ事ニ伐リテ以テ明主ヲ欺カンヤ周  
礼家宰ニ祿位以テ具士ヲ取ス韓詩外信ニ孔子曰ク祿位尊  
盛ナル者ハ之ヲ守ルニ卑ラ以テス淨任子ニ一心之道ハ色  
色モ活ス能ハズ榮位モ動ス能ハズ礼記ニ君子ハ其位ニ素  
心ヲ行テ其外ヲ顧ハス潛夫論ニ寵位以テ我ヲ尊ズニ是ラ  
又卑賤以テ己ヲ卑ムニ是ラ又晋書景帝記ニ天子詔シテ曰



ク夫レ徳ノ茂ナル者ハ位尊ヲ庸ノ大ナルモノハ禄厚ヲ古  
今通義也云々  
凡ソ位トハ古来坐立スル場所ヲ云ヒレモ人ニレテ之ヨリ  
転ニテ遂ニ朝廷班列ノ順序ヲ次第スル階級ニ用ヒタルコ  
ト又疑フベカラス  
本朝ニアリテモ亦同意味ニレテ古事記神代十三ノ卷ニ故  
爾詔天津日子蕃能通々藝命而離天之石位押命天之八重多  
那雲而云々傳云天之石位青記ニ皇孫ノ離天磐座云々天  
磐座此ヲ云阿麻能以敷程羅又皇孫於是脱離天磐座ナド見  
ヘ又引開天ノ磐座トモアリ大校ノ詞ニ天之磐座放トアリ  
位ハ座ト同久羅韋ノ座居ノ意ナリ又人ニ坐ル所ノシナ  
ラヌ物ヲ据ル臺ナドモ久羅ト云フ又倉鞍ナドモ同意ノ名

ナリ  
若櫻宮ノ卷ニ於是其伊呂翁水津別命參赴令竭云々今日  
留安間而先給大臣位明日上留其山口即造後宮忽為豐樂乃  
於其卑人賜大臣位而官令拜卑人觀喜以為一遂一志  
傳ニ大臣位大臣ハ位ニハ非ラサル位ト云フハ古言ナリ  
官ト位ト別レテ後ノ心ヲ以テ思ハハイカバナレトモ其レ  
ハ後ノ世ノ心ナリ古ハ位ハ即チ官ニ在テ別ニハアラス  
況ンヤ大臣ハ古ハ官ニハ非ラズ兼稱ニテ其レニモ自ラ  
其位アリシナリ青記皇極ノ卷ニ擬大臣位ニ天智ノ卷ニ授  
大職冠與大臣位統記廿五詔ニ奉乃大臣乃位仁仕奉之武流  
事乎廿七詔ニ右大臣藤原朝臣遠婆左大臣乃位授賜比云々  
吉備朝臣仁右大臣之位授賜廿一詔大政大臣之位亦上賜比



十下官位トハ別ニアル世ニナリテスラ尚ホ古言、依ニ如  
此言ヘクトアリ是ニ録テ之ヲ考ルニ昔、本朝ニ於テ位ト  
去ヒシハ單ニ其居ル所ヲ指シタルモ、  
リ始テ階級ノ制行ハレ位字ノ適用全ク定リシルモ、如  
シ以下位階ノ沿革ニ付キ故ヲ類集シテ之ヲ説クベシ

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 皇、天、皇、十、一、年、十、二、月、辰、朔、壬、申、始、テ、冠、位、ノ、制、ヲ、行、フ、

冠位階級ノ事

推古天皇十一年十二月辰朔壬申始テ冠位ノ制ヲ行フ  
大徳小徳大仁小仁大禮小禮大信小信大義小義大智小智並  
ニ十二階並ニ當色大絶ヲ以テ縫ヒ頂ニ撮リ總テ農ヲ如ク  
ニシテ縁ヲ看ク  
冠位通考ニ曰ク、時群臣諸氏ヲ十二等ニ別ケ、各大小ノ  
冠ヲ賜ヒ尊卑ノ驗トナス蓋シ冠ハ即テ位ナル故ニ冠位ト  
ハ云フナリト  
愚按スルニ當時尊卑ノ別ハ家ニ屬シテ而シテ其身ハ  
帝ニ同階ニアリテ次第ニ轉昇スルコトヲ得ス猶今ノ公侯  
伯子男ノ爵位ニ華族ニ賜ハリタルト義同シキカ如シ矣  
冠位ノ轉昇セサル制度ハ大化三年即チ孝徳ノ朝迄行ハレ



ナルモノト知ラル其時代凡四十五年間トス  
孝徳天皇大化三年七色一十三階ノ冠ヲ制ス。一曰ク織  
冠大小ニ階アリ織ヲ以テ之ヲ作リ繡ヲ以テ冠ノ縁ヲ裁ス  
服色並ニ深紫ヲ用フニ曰ク繡冠大小ニ階アリ繡ヲ以テ  
之ヲ為リ其冠ノ縁服色並ニ織冠ニ同シ三曰ク紫冠大小  
ニ階アリ紫ヲ以テ之ヲ為リ織ヲ以テ縁ヲ裁ス服色並ニ淺  
紫ヲ用フ四曰ク錦冠大小ニ階アリ其大錦冠ハ大仙錦  
ヲ以テ之ヲ為リ織ヲ以テ冠ノ縁ヲ裁ス其小錦冠ハ小仙  
錦ヲ以テ之ヲ為リ大仙錦ヲ以テ冠ノ縁ヲ裁シ服色並ニ  
真緋ヲ用フ五曰ク青冠青絹ヲ以テ之ヲ為リ大小ニ階アリ  
其青冠ハ大仙錦ヲ以テ冠ノ縁ヲ裁ス其小青冠ハ小仙  
錦ヲ以テ冠ノ縁ヲ裁シ服色並ニ紺ヲ用フ六曰ク黒冠

大小ニ階アリ其大黒冠ハ車形錦ヲ以テ冠ノ縁ヲ裁ス其小  
黒冠ハ菱形錦ヲ以テ冠ノ縁ヲ裁シ服色並ニ縁ヲ用フ七  
曰ク建武初ニ又黒絹ヲ以テ之ヲ為リ冠ノ縁ヲ裁ス〇當時  
左右大臣ハ省百官ヲ置レテ一層ニ唐ノ郡縣ヲ制度ニ倣ハ  
レタレト冠位轉昇ノ事モ亦是レヨリ行ハレタレト知  
ルベシ  
愚按スルニ茲ニ十三階ト定メテレタレト推古朝十三階  
ノ制ニ只一階ヲ増シ後世ノ位階ノ如ク次第ニ轉昇スル冠  
位トナリシヲ知レリ何トナレハ未段ニ於テ立身ノ階ヲ設  
ケ次第ニ進階ノ道啓ケタレバナリ  
孝徳天皇大化五年二月冠位十九階ヲ制ス。一曰ク大織  
二曰ク小織三曰ク大繡四曰ク小繡五曰ク大紫六



二曰ク小紫七三曰ク大華上八三曰ク大華下九三曰ク小華  
上十三曰ク小華下十一三曰ク大山上十二三曰ク大山下十  
三三曰ク小山上十四三曰ク小山下十五三曰ク大乙上十六  
三曰ク大乙下十七三曰ク小乙上十八三曰ク小乙下十九三  
曰ク立身

天智天皇三年春二月天皇大皇弟三宣命レ冠位階名ヲ増換  
セシム大織小織大縫小縫大紫小紫大錦上大錦中大錦下  
小錦上小錦中小錦下大山上大山中大山下小山上小山中小  
山下大乙上大乙中大乙下小乙上小乙中小乙下大建小建是  
ヲ二十六階ト為ス  
天智天皇十年正月甲辰東宮大皇弟冠位制度ノ事ヲ施行ス  
冠位通考ニ曰ク此ノ時代ヨリ始テ冠位階名ヲ一位二位三

位四位五位ト稱スルコトニナレリ高ニテ親王諸王ノ位ヲ  
設ケラレ親王ニハ一位二位ヲ賜リ諸王ニハ三位以下ヲ賜  
ハリレトアリ  
愚按スルニ冠ノ制作ハ別ニ見ルニヤモナケレハ冠ハ親  
王諸王ヲ通シテ一様ナリシモノナラバ因果レテ然レハ其  
ノ時代ヨリ位記様ニモリ行ハセラルコト疑ヒナキカ如レ  
天武天皇十四年正月丁卯更ニ爵位ヲ辨ラ改メ仍テ階級ヲ  
増加スル明位ニ階淨法四階每階廣アリ並ニ十二階以前諸  
王以下ノ位  
愚按スルニ諸王以上ノ位トアルヲ以テ觀レハ親王諸王ノ  
位ハ混同シテ設ケラレタルモノ如レト雖モ例皆親王ニ  
ハ高級ヲ授ケラレタルモノ知ラレ



大宝以降ハ親王ノ位階ヲ品ト称シ一品ヨリ四品ニ至リ而  
シテ親王ハ皆五位以上ナリシニ諸王ノ位ハ何レノ頃ヨリ  
カ其实ナキニ至レリ然ルニ明治ニ十年二月皇室典範ヲ欽  
定セラレ其筭三十條ニ皇族ト称フルハ太皇太后皇太后皇  
后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王  
妃女王ヲ謂フ又其筭三十一條皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテ  
ハ男ヲ親王女ヲ内親王トシ五世以下ハ男ヲ王女ヲ女王ト  
ス又其三十二條天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇  
元后姉妹ノ女王ヲル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス  
トアリテ親王諸王ノ名義ヲ明カニセラレタリ古来親王ニ  
何品ノ宣下アリシモハ其筭五十九條ヲ以テ親王内親王  
女王王ノ品位ハ之ヲ廢ストアリテ大宝以降ノ叙品ノ制全

止ム  
正位四階直位四階勳位四階務位四階追位四階進位四階每  
階大廣アリ並ニ四十八階以上諸臣ノ位ハ安ノ階級ハ次第  
ヲ正大一正廣一正廣一正大ニ正廣ニ正大ニ正廣ニ正大四  
正廣四ト唱ヘタリ  
冠位通考ニ曰ク是レマシハ冠位ノ進ムゴトニ朝廷ヨリ其  
色ノ冠ヲ賜ハリ而シテ之ヲ階級ノ驗トシタリシラ安度ノ  
制ヨリ其事ヲ停止シ位記ヲ賜リ而シテ冠ハ皆詠紗器ヲ通  
用シタリト或ハ然ラム歟



位記階級ノ事

文武天皇大宝元年三月甲午始ニ新令ニ依リ官名位階ヲ改メ位冠ヲ賜フコトヲ停メ易フルニ位記ヲ以テ衣服色ノ制ヲ定ムル親王ニ明冠四階諸王ニ淨冠十階合セテ十八階トシ諸臣ニ正冠六階直冠八階勳階四階進冠四階進冠四階合テ三十階トス  
大宝以降傳フル所ノ位階明冠四階ハ一品ニ品ニ品四品ニテ之ヲ親王ノ位トス淨冠十階ハ正從一位正從二位正從三位正從四位上下正從五位上下ニテ之ヲ諸王ノ位トス從前ノ制ハ明位四階淨位十階合テ十八階諸王以上ノ位トスリシヲ矣時ヨリ親王ニハ品ト稱シテ諸王ニ別ケ諸王ハ諸臣ニ視ヘテ位ト稱セリ正冠六階ハ正從一位正從二位正



從三位合テ六階ヲ云ヒ直冠八階ハ正從四位上下正從五位  
上下合テテ八階ヲ云ヒ劔冠四階ハ正從六位上下合テテ四  
階ヲ云ヒ髻冠四階ハ正從七位上下合テテ四階ヲ云ヒ追冠  
四階ハ正從八位上下合テテ四階ヲ云ヒ進冠四階ハ大初  
位上下合セテ四階ヲ云フ而シテ此ハ階級ハ明治二年六月  
ヲ行ハレ来レリ  
國史畧ニ曰ク位記ハ告身ナリ是ヨリ先キ凡ソ位ニ叙スル  
者各々賜フニ奉階ノ冠又以テ今乃チ代フル位記ヲ以  
テス復階冠ヲ用ヒナリ  
驪野嘶餘ニ曰ク攝家清華ヲ始メ堂上地下社家等總テ越階  
スルコトナレ又地下ニハ上階ノモノ少シ云々

位記勅奏判授及ヒ内外區別ノ事

位記勅奏判授及ヒ内外區別ノ事

選叙令ニ曰ク凡ソ内外ノ五位以上ハ勅授内八位外七位以  
上ハ奏授外八位及ヒ内外ノ初位ハ皆官ノ判授ナリ  
國史略ニ曰ク天智帝ノ崩スル明年三月皇太子内小七位阿  
曇輪敷ヲ筑紫ニ遣ヒ國表ヲ唐使郭務悰ニ告ケシハ務悰官  
屬ヲ率テ素服シテ哀ヲ擧ケ東ニ向ケ誓着ス注ニ曰ク内位  
始テ此ニ見ニ式部式ニ外位ハ内位ノ上ニ列スルコトヲ得  
ス  
愚按スルニ凡ソ位ニ内外ヲ別ケタルハ別義アルニアラ  
ズ其内位ハ皆位田ヲ付セラレタルモノヲ云ヒ外位ハ只階  
級ニ止マルモノヲ云フ







- 壹 爵，字義
- 貳 位，字義
- 三 冠位階級，事
- 四 位記階級，事
- 五 叙位考樞，事
- 六 官位相當，事
- 七 女官相當位，事
- 八 上古位記例狀，事
- 九 中古位記例狀，事
- 十 叙位奉宣，事
- 十一 陣宣下式，事
- 十二 消息宣下式，事

一、...  
 二、...  
 三、...  
 四、...  
 五、...  
 六、...  
 七、...  
 八、...  
 九、...  
 十、...  
 十一、...  
 十二、...



- 十三 神位記宣下式，事
- 十四 親王位記宣下式，事
- 十五 入道親王位記宣下式，事
- 十六 內親王位記宣下式，事
- 十七 女王位記宣下式，事
- 十八 授閑家位記宣下式，事
- 十九 華族以下位記宣下式，事
- 二十 將軍家位記宣下式，事 女房位記，件
- 廿一 武家位記宣下式，事
- 廿二 地下位記宣下式，事
- 廿三 社下位記宣下式，事
- 廿四 諸大臣位記宣下式，事

- 廿五 女脚位記宣下式，事 附女院位記
- 廿六 地政所位記宣下式，事
- 廿七 宮女位記宣下式，事
- 廿八 神位，事
- 廿九 任子蔭叙，事 附華族嫡子叙位，起因
- 三十 伊勢内外宮神官，事
- 卅一 禰宜叙位，事
- 卅二 僧侶官位，事
- 卅三 女子叙位，事
- 卅四 外國人叙位，事
- 卅五 贈位，事 附外國人贈位，事
- 卅六 藏人所，事 附非藏人出納所象瀧口，事



卅七

官位署式，事

卅八

紛失位記更換，事

卅九

叙位者名簿，事

四十

有位者條名，事

四十一

印章，事

四十二

俸祿，事

四十三

版制，事

四十四

勲位，事

四十五

公卿，事

四十六

攝家，事

四十七

清華，事

四十八

大臣家以下平公家，事

四十九

官務局務，事

五十

德川家本宗及三家三卿，事

五十一

國主諸侯，事

五十二

拾万石以上諸侯，事

五十三

四品家諸侯，事

五十四

城主家諸侯，事

五十五

無城諸侯，事

五十六

諸大夫，事

五十七

諸社諸寺傳奏，事



爵ノ字義

爵ハ正韻ニ即約ノ切音雀トアリ説文ニ礼器ナリ爵ノ形ニ象  
 象ト中ニ鬯酒ヲ又之ヲ持ツト飲器ナル所以ナリ爵ニ象  
 ルモノハ其鳴ノ節々々々ニ取ル字彙ニ其能ク能ク酒ニ酌  
 レテ以テ傲ヲ示スニ取ル埤雅ニ一外ヲ爵ト云フ亦其鳴節  
 ヲ以テ荒淫ヲ戒ムルニ取ル又大夫以上ニ燕賞ヲ與ヘ然ル  
 後爵ヲ賜ヒ以テ有徳ヲ章ニス故ニ命秩ヲ謂テ爵禄爵位ト  
 為ス集韻ニ爵ハ位ナリ廣韻ニ封ナリ殷ノ爵ハ三等周ノ爵  
 ハ五等其三等ハ三先ニ法リ五等ハ五行ニ法ルナリ又廣韻  
 ニ爵ハ量ナリ其職ヲ量テ其才ヲ盡スナリトアリ  
 愚按スルニ我々朝ニハ古来五爵ニ制ナリ然レ氏朝臣ノ從  
 五位下ニ叙セラルルコトヲ叙爵ト云ヒナリ蓋シ從五位



ノ宣旨ハ昔者ハ勅授ニシテ侯伯ニ賜フモノ即チ古ヘノ國  
守ノ位ナレバ支那ノ諸侯ニ擬シ單ニ其位ヲ爵ト稱シ在  
伯ト有リ叙爵ト謂ヒシモノナラハカ  
古来慈善ヲ行フモノニ爵何級ヲ賜フトアルコト歴史上集  
々散見スルモ皆下級ノ位階ヲ賜リタルハ疑ヒナキモノト  
ス又穀ヲ糴シ民ヲ賑スモノニ位ヲ授ケラレタル等皆同シ  
筆鋒ナルカ如シ

明治十七年七月始ニ五等ノ爵ヲ設ケラレ曰ク公侯伯子男  
其公爵ヲ授ケラレタルモノハ公卿ノ五攝家並ニ徳川將軍  
家及ニ維新ノ際偉勲ヲ奏シタル島津毛村三條岩倉家ノ如  
キ侯爵ハ徳川三家十國守ノ内其大藩並ニ清華ノ諸家及  
ニ維新ノ功勞者伯爵ハ諸侯ノ中藩以上公家ノ大臣家羽林

家大納言家及ニ維新ノ功勞者又子爵ハ小藩ノ諸侯及子公  
家一般ニ授ケラレ而シテ男爵ハ多クハ公卿諸侯ノ家ヨリ  
令家ニタルモノ及ニ大諸侯ノ附家走等ノ新華族ニ賜リ  
ルモノ  
但シ勲功ニ依リ家格アリ一級ノ上爵ヲ賜リタルモノモ少  
ナラズト雖比令爵ノ字義ニ關スル例ヲ奉テレハ凡ソ左ノ  
如シ  
一官爵ハ礼記ニ論定テ然ル後之ニ官ニ任シテ然ル  
後之ニ爵ニ位定テ然ル後之ニ祿ス  
一五爵ハ因礼典命諸侯ノ五儀ヲ掌ル疏ニ是レ五等ノ爵  
ニ據テ五儀ト為ス史記周本紀武王封功臣謀士注ニ正義ニ  
曰ク按スルニ周ノ封ハ五等ノ爵ヲ以テス



一尊爵一 一書案德報功傳 一復アレバ尊アニ爵ヲ以テ功  
アレバ報スルニ禄ヲ以テ又孟子曰ク夫レ仁ハ天ノ尊爵ナ  
リ  
一夭爵一 一孟子ニ仁義忠信善ヲ樂テ倦ニサル此レ夭爵ナ  
リ蔡邕張元祠堂碑ニ夭爵ニ豊ニシテ人爵ニ薄シ  
一人爵一 一孟子ニ公卿大夫此レ人爵ナリ徐陵與陳司空書  
ニ方ニ人爵ノ重キヲ窮メ以テ非常ノ功ニ報セム  
一名爵一 一傅亮演慎論ニ君子ハ名爵ヲ香餌ニ同フス  
一宗爵一 一史記平津侯主父傳ノ贊ニ寵ハ宗爵ヲ備ヘ身ハ  
肺腑ヲ受ク  
一豊爵一 一風俗通ニ昔子憂心戦レレハ則ク瘦セ通勝テハ  
肥ク加テ何ニ必スレモ高録ト豊爵トヲ以テ歎誌トセムヤ

一頭爵一 一韋少翁自効ノ詩ニ赫カタル頭爵我レヨリ之ヲ  
隊スト  
一重爵一 一唐書敬播傳ニ高官重爵ハ本蔭ニ惟レ子孫ニ  
速ニ向メ昆季ニ及ハス又王粲ノ辭論ニ爵ヲ以テ賞ト為セ  
バ氏ヲ勸メテ貴ヲ省ク故ニ古人爵ヲ重スルナリ  
一寵爵一 一韓非子曰ク事ニ任スル者ハ重テ其寵ヲレテ必  
ズ爵ニフラシムル母レ官ニ處ル者ハ私ニ其利ヲレテ必ス  
禄ニテラシムル母レ故ニ民爵ヲ尊ンテ禄ヲ重ンス  
一班爵一 一左傳ニ朝ニハ以テ班爵ノ義ヲ正シ長幼ノ序ヲ  
紳ヲ又大國ニ事フルニハ班爵ヲ失フコトナク而ノ敬ヲ加  
フルハ礼ナリ  
一進爵一 一蜀志李嚴傳ノ注ニ李嚴亮ニ書ヲ與ヘ亮ニ勸ム



ルニ宜ク九錫ヲ受ケ爵ヲ進メテ王ト称スベシ  
一増爵一ハ白虎通ニ伯ニシテ功アレバ  
鉅壺ヲ賜ヒ爵ヲ増シ侯ト為ス  
レテ候トナシ子男ニシテ功アレバ虎賁ヲ賜ヒ爵ヲ増シ  
伯ト為シ復タ功アレバ鉅壺ヲ賜ヒ爵ヲ増シ侯ト為ス  
一敗爵一ハ孟子ニ一タビ朝セサレハ則チ其爵ヲ敗ス前秦  
録ニ苻堅大秦王ト称シ請キ皆爵ヲ敗シテ公ト為ル  
一降爵一ハ史記衛康叔世家注ニ宗隱ニ曰ク康誥ニ称ス而  
ニ命シ東土ニ侯トラシム則チ康叔ハ初メ已チ封シ侯ト為  
ルナリ子康伯ハ此ト即チ伯ト称スル者ハ方伯ト伯ト謂フ  
ノ子ニ至テ即チ爵ヲ降シテ伯ト為ルニアラザルナリ頃  
庚ニ至テ德衰ハ諸侯ヲ監セズ乃チ本爵ニ從テ侯ト称ス  
一削爵一ハ史記淮南衛山傳ニ膠西王ハ議ニ曰ク淮南王安

是ノ大逆無道ナリ當ニ其法ニ伏スベシ宗室ハ幸臣ヲ近ケ  
法中ニアラザルヌノヲ相教フル能ハサレハ當ニ皆官ヲ免  
シ爵ヲ削ルベシ  
一復爵一ハ史記管蔡世家ハ贊ニ胡能ク改メ行ハハ其爵ヲ  
克復ス  
一辭爵一ハ説苑ニ君ニ事セ其言ヲ進ムルヲ得サレハ則チ  
其爵ヲ辞ス其義ヲ行フヲ得サレハ則チ其禄ヲ辞ス  
一封爵一ハ史記高祖功臣年表封爵ノ誓ニ曰ク黄河ヲシテ  
帶、如ク泰山ヲシテ礪、如クナラシメハ國以テ永ク寧ク  
爰ニ苗裔ニ及ブ  
一授爵一ハ劉勰新論ニ君子ハオラ量テ而ノ任ヲ授ケ任ヲ  
量テ而メ爵ヲ授ク



一 襲爵一ハ王制ニ曰ク大夫ハ爵ヲ世々ニセズ此ニ世臣アル者ハ子賢ナレハ父ハ爵ヲ襲クコトヲ請フ  
一 千乘爵一ハ新語ニ太公布衣ヨリ三公ノ位ニ昇リ千乘ノ爵ヲ享ク

一 大夫爵一ハ晁補之謁岱祠詩ニ松ヲ大夫ノ爵ニ列ス愚按スルニ爵ノ出所ハ崔、形ニ象リタル洵盃ヲ以テ之ヲ賢クノ功勞者ニ賜ヒ其位ヲ定メタルニ起因シタルモト知ラル是レヨリ爵ハ名譽ノ称号トナリ支那古代ノ君主政治ニ用フル所ハ秩序的ノ制度ニシテ王者ハ群臣ヲ取スル唯一ノ具トナス禮記ニ王者ノ祿爵ヲ制スル公侯伯子男凡テ五等諸侯ノ上大夫卿下大夫上士中士下士凡テ五等注ニ王者ノ制度祿爵ヲ重シト為ス自虎通ニ曰ク爵ハ盡ナリ人

才ヲ盡ス所以是レナリ又祿ハ榮ナリ録ナリ上ハ収録ヲ以テ下ニ授ル下ニ名録ヲ以テ謹テ上ニ事フルナリトテ礼記ニ公侯ハ田方百里伯ハ七十里子男ハ五十里注ニ此地穀ハ夏ノ爵三等ノ制ニ因ルナリ孟子ニ比錡同テ曰ク周室ノ爵祿ヲ班ツコト之ヲ如何孟子曰ク其詳ナルヲ得テ聞クベカラザルナリ諸侯具己ヲ告スルヲ惡シテヤ而モ皆其籍ヲ去ル然レハ軒ヲ廢シ其略ヲ聞ク也天子一位公一位侯一位伯一位子男同ク一位凡テ五等ナリ君一位卿一位上士一位中士一位下士一位凡テ六等注ニ此レ班爵ノ制ナリ五等ハ天下ニ通レ六等ハ國中ニ施ストアリテ天下ニ通スルヲ五等ト云ヒ國中ニ通スルヲ六等ト云フ天子及ヒ君ヲ除ケハ執レモ五等トナリ礼記ノ所謂王者ノ制ト云フモ



天子ノ制地方千里公侯ノ皆百里伯ノ七十里子男ノ五十里凡シ四等五十里ナル能ハス天子ニ違セズ諸侯ニ附スルヲ附庸ト云フトアリテ小國ノ地五十里ニ是ラカハスノ自ラ天子ニ違スル能ハス大國ニ因リ姓名ヲ通スル者ヲ附庸ト云フカテ此ノ附庸ナルモノハ五等ノ内ニハ數一ガルナリ然ルニ本文之ヲ今ヲ四等ト云ヒルハ文章上ノコトニシテ即チ天子ナリ公侯ナリ伯ナリ子男ナリトシテ四等ト云ヒシナルハ故ニ其實ハ公侯伯子男ノ五等ニ外ナラザルナリ  
 詩成徳ノ曰ク天ヲ父トシ地ヲ母トシテ之レヲ子ナル者ハ天子ナリ爵位盛大ニシテ私ナキヲ以テ徳トスル者ハ公ナリ外ニ作候トシテ人ニ君トシテ以テ徳トスルモノハ侯ナリ

以テ人ニ長ナルニ是レモナク伯ナリ其徳ヲ以テ人ヲ養フニ是レモナク子ナリ男ハ任ナリ任ハ安ナリ而シテ其徳ノ以テ人ヲ安スルニ是レモナク男ナリ命ヲ出シテ以テ象ヲ正スニ是レモナク君ナリ進退ヲ知シ而シテ其道上ニ是レモナク卿ナリ智以テ人ヲ帥ケルニ是レモナク大夫ナリ才以テ人ニ事ルニ是レモナク士ナリト云フカテ凡シテ是レノ字義ニ關スル例ヲ奉ラレハ凡ソ左ノ如シ  
 位ハ手愧ノ切正也剛也菴也中庭ノ左右之ヲ位ト云フ易ニ艮ノ卦ニ君子思フトコト其位ヲ出シテ注ニ范成ノ曰ク物各其所ヲ得而シテ天下ノ理得矣  
 位ノ字義ニ關スル例ヲ奉ラレハ凡ソ左ノ如シ  
 一正位ハ易ニ女ノ位ヲ内ニ正シ男ノ位ヲ外ニ正ス書ニ



盤庚既遷之居ル故ヲ奠ノ乃ケ歟ノ位ヲ正ス  
一爵位ハ漢書趙充國ノ曰ク吾レ年老リ矣爵位已ニ  
極ル豈ニ一時ノ事ニ依リテ以テ明立リ欺カム哉  
一禄位ハ國礼家宰ニ禄位以テ其士ヲ取ス韓詩外傳ニ孔  
子曰ク禄尊盛ナル者ハ之ヲ守ルニ昇ラ以テス  
一官位ハ潘夫論ニ曰ク凡ソ四海ノ内ハ堅人ノ子孫ニ遺  
ス所以ナリ官位職事ハ羣臣ノ其身ヲ寄ス所以ナリ  
一高位ハ孟子ニ惟仁者ハ宜ク高位ニアルベシ既馮代曹  
公書ニ高位重爵坦然觀ルベシ  
一榮位ハ淨任子ニ一心之道ハ聲色ニ汚不能ス榮位モ  
動不能ハズ  
一功位ハ漢書高后紀ニ二年春詔ニ曰ク今列侯ノ功ヲ

差次シテ以テ朝位ヲ定メ之ヲ高廟ニ藏シ世々嗣ヲ絶ツ  
ナリ各其功位ヲ襲フシト欲ス  
一名位ハ晉書王沈ノ傳ニ名位ヲ談スルモ公論媮ヲ以  
テ勢ニ附ス管子ニ人ノ名位ハ殊ナラザルヲ得ズ  
一盛位ハ史記楚元王傳ニ今將軍盛位ニ當リ韓愈襄陽  
ノ與フル書ニ高才ハ戚々ノ窮リ多ク盛位ハ赫々ノ光リ無  
シ  
一極位ハ宋書武帝記ニ桓玄雄豪ヲ以テ推サレ一朝ニ  
テ使テ極位ヲ有ス  
一上位ハ礼記ニ上位ニアリテ下ヲ凌カズ淮南子ニ忠正  
ニシテ上位ニアリテ執リ事ヲ當メハ則テ讒佞多ク非進ム  
ニ由リシ矣



一 下位 一ハ礼記ニ下位ニアリテ上ヲ授ケズ又下位ニアリ  
テ上ニ護ラレサレハ民得テ治ム心カラズ矣  
一 授位 一ハ春秋ニ王官ノ掌ハ當ニ才ヲ以テ位ヲ授ケズシ  
向ルニ伯糾ハ父ノ職ヲ授シ出テ列國ニ聘ス故ニ名ヲ書シ  
以テ之ヲ譏ル

一 增位 一ハ魏志王昶傳ニ官ニ居ル者其職ニ久クシ治績アリ  
レハ則ケ位ヲ増シ爵ヲ賜フ  
一 賜位 一ハ獨斷漢ノ制功徳優盛朝廷異ナル所ハ特進ノ  
位ヲ賜ヒテ三公ノ下ニ在リ  
一 受位 一ハ周礼大宗伯ニ九儀一命職ヲ受ケ再命服ヲ受ケ  
三命位ヲ受ケ春秋ニ位ヲ受ケ職ニ居ル者ハ忠善ヲ效スヲ  
思フテ日夜自ラ進テ顧忌スル所ナシ

一 尸位 一ハ太康尸位逸豫ヲ以テ厥ノ徳ヲ滅ホス漢書朱雲  
傳ニ雲曰ク今朝廷大臣上以テ主ヲ匡ニ能ハス下以テ民  
ヲ益スルヤハ皆尸位素餐孔子ノ謂ケル鄙夫與ニ君ニ事  
フバカラズ苟クモ之ヲ失ハムトテ患ヘテ至ラサル所ナ  
シ  
一 素位 一ハ礼記ニ君子ハ其位ニ素ニテ行フ其外ヲ願ハス  
一 竊位 一ハ潜夫論ニ竊位以テ我ヲ尊ブニ是ラズ卑賤以テ  
己ヲ卑ムニ是ニス  
一 登位 一ハ晋書景帝記ニ天子詔シテ曰ク夫レ徳ノ茂ナル  
者ハ位尊ク庸ノ大ナル者ハ禄厚ク古今ノ通義也其位ヲ相  
國ニ登セ邑九千カヲ増シ蹄ヲ大都督ニ進メ以テ元勳ヲ彰  
ニス



一追位一、張說裴行儉神道碑、生テ台階ニ登ラズ致シテ  
靈庫ニ追位ス

古事記神代十三、卷ニ故南詔天津日子喬能通々藝命而離  
天之不位押分天之八重多那雲而云々

傳ニ天之石位書記ニ皇孫、離天磐座去々天磐座也ヲ云河  
麻能以蘇矩羅又皇孫於是脫離天磐座トアリ見ハ又引同天磐

座トアリ大被、詞ニ天之磐座故トアリ位ニ座ト同シ久  
羅幸ハ座居、意ナリ又人、座ル所、シナラズ物ヲ据ル曼

トドモ久羅ト云フ又倉鞍トドモ同意、名ナリ  
若櫻宮、卷ニ於是其伊呂翁水雫別命參赴令謁云々中略

今日留此間而先給大臣位。明日上留其山口。即造伎宮  
忍為豐樂。乃於其年人賜大臣位。而官令梓。年人

歡喜以為遂志

傳ニ大臣位、大臣位ニハ非ラケルヲ位ト云フハ古言ナ  
リ官ト位ト別レ後ハ心ヲ以テ思ハカバナレト云々其

レハ後ノ世ノ心ナリ古ハ位ハ即チ官ニ在テ別レハナリ  
不況ヤ大臣ハ古ハ官ニ非ズ褒稱ニテ其レニモ自ラ其ノ

位ナリトナリ書記皇極、卷ニ擬大臣位、天智ノ卷ニ擬大  
織冠典大臣位續紀廿五、詔ニ本乃大臣乃位仁仕ハ奉之武流

事乎廿七、詔ニ右大臣藤原朝臣遠婆左大臣乃位授賜比  
云々吉備朝臣仁右大臣之位授賜世一ノ詔ニ大政大臣之位

亦上賜比ト官ト位ト別ニアル世ニナリテスラ尚ナ古  
言、依ニ如此言ハリトアリ是ニ錄テ之ヲ考フルニ昔ハ本

朝ニ於テ位ト云々ハ軍ニ其居ル所ヲ指シタルモノニシ



テ推古ノ朝ヨリ始テ階級ノ制行ハレ位字ノ適用全ク定リ  
タルモノ、如シ以下位階ノ沿革ニ付故事ヲ類集シテ之ヲ  
説クベシ

冠位階級ノ事

推古天皇十一年十二月戊辰朔壬申始テ冠位ノ制ヲ行フ  
大徳小徳大仁小仁大禮小禮大信小信大義小義大智小智並  
ニ十二階並ニ當色ノ絶ヲ以テ縫心頂ニ撮リ終テ囊ノ如ク  
ニシテ縁ヲ着ク  
冠位通考ニ曰ク此ノ時群臣請成ヲ十二等ニ別テ各大小ノ  
冠ヲ賜ヒ尊卑ノ驗トナス蓋シ冠ハ即テ位ナル故ニ冠位ト  
ハ云フナリト  
愚按スルニ當時尊卑ノ別ハ家ニ屬シ而シテ其身ハ帝ニ同

階ニアリテ次第ニ轉昇スルコトヲ得ス猶ホ今ノ公侯伯子  
男ノ爵位ノ華族ニ賜リタルト義相同シキカ如シ此ノ冠位  
ノ轉昇ニサレテ制度ハ大化三年即チ孝徳ノ朝マテ行ハレタ  
ルモノト知ラル其ノ時代凡四十五年間トス  
孝徳天皇大化三年七色一十三階ノ冠ヲ制ス  
一ニ曰ク織冠大小ニ階アリ織ヲ以テ之ヲ為リ緋ヲ以テ冠  
ノ縁ヲ裁ス服色並ニ深紫ヲ用フニニ曰ク緋冠大小ニ階ア  
リ緋ヲ以テ之ヲ為リ其冠ノ縁服色並ニ織冠ニ同シ三ニ曰  
ク紫冠大小ニ階アリ紫ヲ以テ之ヲ為リ織ヲ以テ冠ノ縁ヲ  
裁ス服色並ニ淺紫ヲ用フ四ニ曰ク錦冠大小ニ階アリ其大  
錦冠ハ大伯仙錦ヲ以テ之ヲ為リ織ヲ以テ冠ノ縁ヲ裁ス其  
小錦冠ハ小伯仙錦ヲ以テ之ヲ為リ大伯仙錦ヲ以テ冠ノ縁



ヲ裁シ服色並ニ真緋ヲ用フ五ニ曰ク青冠青絹ヲ以テ之ヲ  
為リ大小二階アリ其青冠ハ大伯仙錦ヲ以テ冠ノ縁ヲ裁ス  
其小青冠ハ小伯仙錦ヲ以テ冠ノ縁ヲ裁シ服色並ニ紺ヲ用  
フ六ニ曰ク黒冠大小二階アリ其大黒冠ハ車形錦ヲ以テ冠  
ノ縁ヲ裁ス其小黒冠ハ菱形錦ヲ以テ冠ノ縁ヲ裁シ服色並  
ニ緑ヲ用フ七ニ曰ク建武初位又  
名立身黒絹ヲ以テ之ヲ為リ冠ノ  
縁ヲ裁ス  
當時凡右大臣八省百官ヲ置レテ一向ニ唐ノ郡縣制度ニ倣  
ハレタルハ冠位轉昇ノ事モ亦是レヨリ行ハレタルモノト  
知ラル  
愚按スルニ茲ニ十三階ト定メラレタルハ推古ノ朝十二階  
ノ制ニ只一階ヲ増シ後世ノ位階ノ如ク次第ニ轉昇スル冠

位トナリシヲ知レリ何トナレハ未段ニ於テ立身ノ階ヲ設  
ケ次第ニ進階スルノ道啓ケタルバナリ  
孝徳天皇大化五年二月冠位十九ヲ制ス  
一ニ曰ク大織二ニ曰ク小織三ニ曰ク大繡四ニ曰ク小繡五  
ニ曰ク大紫六ニ曰ク小紫七ニ曰ク大華上八ニ曰ク大華下  
九ニ曰ク小華上十ニ曰ク小華下十一ニ曰ク大山上十二ニ  
曰ク大山下十三ニ曰ク小山上十四ニ曰ク小山下十五ニ曰  
ク大乙上十六ニ曰ク大乙下十七ニ曰ク小乙上十八ニ曰ク  
小乙下十九ニ曰ク立身  
天智天皇三年春二月天皇大皇弟ニ宣命シ冠位階名ヲ増換  
セシム  
大織小織大繡小繡大紫小紫大錦上大錦中大錦下小錦上小



錦中小錦下大山上大山中大山下小山上小山中小山下大乙  
上大乙中大乙下小乙上小乙中下乙下大建小建之ヲ二十六  
階ト為ス

天智天皇十年正月甲辰東宮大皇帝第冠位制度ノ事ヲ施行ス  
冠位通考ニ曰ク此ノ時代ヨリ始テ冠位ノ階名ヲ一位二位  
三位四位五位ト稱スルコトニナレリ而シテ親王諸王ノ位  
ヲ設ケラレ親王ニハ二位ニ賜ハリ諸王以下ニハ三位  
以下ヲ賜ハリシトアリ

愚按スルニ冠ノ制作ハ別ニ見ルヘキモノナケレハ冠ハ親  
王諸王ヲ通シテ一様ナリシモノナラムカ果シテ然レバ此  
ノ時代ヨリ位記様ノモノ行ハレタルコト疑ヒナキカ如シ  
大武天皇十四年正月丁卯更ニ爵位ノ階ヲ改メ仍テ階級ヲ

増加ス

明位ニ階淨位四階毎階廣アリ並ニ十二階以前諸王以上之  
位

愚按スルニ諸王以上ノ位トアルヲ以テ之ヲ考フレハ親王  
諸王ノ位ハ混同シテ設ケラレタルモノ、如シト雖凡例皆  
親王ニハ高級ヲ授ケラレタルモノト知ラル

大室以降ハ親王ノ位階ヲ昂ト稱シ一昂ヨリ四昂ニ至リ而  
シテ諸王ハ皆五位以上ナリシヲ諸王ノ位ハ何レノ頃ヨリ  
カ其實ナキニ至レリ而シテ明治二十年二月皇室典範ヲ制  
定セラレ其條三十條ニ皇族ト稱フルハ大皇太后皇太后皇  
后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王  
妃女王ヲ謂フ又第三十一條皇子ヨリ皇玄孫ニ至ル迄ハ男



ヲ親王女ヲ内親王トシ五世以下ハ男ヲ王女ヲ女王トス又  
 三十二條天皇支系ヨリ入テ大統ヲ兼ケルトキハ皇兄弟姉  
 妹ノ王女王ナル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ストアリ  
 テ親王諸王ノ名義ヲ明カニセラレタリ而シテ親王ニ何品  
 ノ宣下アリシモハ其榮五十九條ヲ以テ親王内親王女王  
 ノ品位ハ之ヲ廢ストアリテ大室以降ノ叙品ノ制全ク止シ  
 正位四階直位四階勳位四階終位四階進位四階追位四階每  
 階大廣アリ並ニ四十八階以上諸臣之位  
 此ノ階級ノ次序ヲ正大一正廣一正大ニ正廣ニ正大三正廣  
 三正大四正廣四ト唱ハタリ  
 冠位通考ニ曰ク是レテハ冠位ノ進ムガトニ朝廷ヨリ其  
 色ノ冠ヲ賜ハリ而シテ之ヲ階級ノ驗トシメリシラ此度ノ

制ヨリ其事ヲ停止シ位記ヲ賜ハリ而シテ冠ハ皆漆紗冠ヲ  
 通用シノリト成ハ然ラシカニ今ハ其ノ制ハ  
 文武天皇大寶元年三月甲午始テ新令ニ依リ官右位號ヲ改  
 ノ位冠ヲ賜フコトヲ傳ノ易フハ位記ヲ以テニ服色ノ制  
 ヲ定ム  
 親王ニ明冠四階諸王ニ淨官十四階合テ十八階トシ諸臣ニ  
 正冠六階直冠八階勳冠四階追冠四階進冠四階合テ三十階  
 トス  
 大室以降傳フル所ノ位階明冠四階ハ一品ニ品三品四品ニ  
 テ之ヲ親王ノ位トス淨冠十四階ハ正從一位正從二位正從  
 三位正從四位上下正從五位上下ニテ之ヲ諸王ノ位トス從



前ノ制ハ明位四階淨位十四階合セテ十八階ハ諸王以上ノ位ナリレラ女時ヨリ親王ニハ品ト稱シテ諸王ニ別テ諸王ハ諸臣ニ視ヘテ位ト稱セリ正冠六階ハ正從一位正從二位正從三位合セテ六階ヲ云ヒ直冠八階ハ正從四位上下正從五位上下合セテ八階ヲ云ヒ勅冠四階ハ正從六位上下合セテ四階ヲ云ヒ正從七位上下合セテ四階ヲ云ヒ追冠四階ハ正從八位上下合セテ四階ヲ云ヒ初位上下合セテ四階ヲ云ヒ向レテ此ノ階級ハ明治ニ奉六月マシ行ハレ来レリ

國史畧ニ曰ク位記ハ其身ナリ是ヨリ先キ凡ソ位ニ叙スル者各賜テ本階ノ冠ヲ以テス今乃々代ワルニ位記ヲ以テ復テ階冠ヲ用ヒサレナリト

以 (芝久保町 大室屋製)

位記勅奏判授及内外區別事

選叙令ニ曰ク凡ソ内外ノ五位以上ハ勅授内八位外七位以上ハ奏授外八位及ヒ内外ノ初位ハ皆官ノ判授ナリト

國史略ニ曰ク天智帝ノ崩スル明年三月皇太子内小七位阿曇稻敷ヲ筑紫ニ遣ヒ國表ヲ使郭務儰ニ告ケレハ務儰官爲ラ奉テ素服レテ哀ヲ舉ケ東ニ向テ誓首ス注ニ曰ク内位始テ此ニ見ル式部式ニ外位ハ内位ノ上ニ列スルコトヲ得ス

愚按スルニ凡ソ位ニ内外ヲ別ケタルハ別儀アルニアラス其内位ハ皆位田ヲ付セテタルモノヲ云ヒ外位ハ只階級ニ止マルモノヲ云フ

正從品位讀方ノ事



唐書職官志曰正從一稱凡文官九品有正有從四品  
以下有上下為三十等ト是レ其出所ナラン歟

和名鈔曰品稱讀ハ之奈一正四位上於保伊與豆乃

久良并乃加美豆之奈從八位下比呂伊夜豆乃久良并乃之毛

豆之奈上下ヲ拳ケレハ則々具余ハ知ルベキナリ大初位小

初位初讀如字ト正ヲ於保并ト云フハ大從ヲ比呂伊ト云フ

ハ廣トテ天武帝十四年制ニ階コトニ大廣ヲ置カレタル

大廣トテ義ヲ受ケ字ヲ正從ニ改メラレシナリ

正一位稀授ノ事

冠位通考曰ク三十階中其一位ハ殊ニ尊ニ正一位ハ奈良

朝ニ於テ稀ニ授ヒレコトナレ其以未ハ存在ハ人ニ賜

ハルコトナレ故ニ正一位ハ只神位又ハ贈位ニ限レル云ノ

トナレリ又從一位モ容易ニ賜ハラケル云ノト云古ハ大

臣トテモ二位ナレト多ク授ケル事ナリ

愚按スルニ古來在世ニ正一位ヲ授ケル例ハ曰

ク橘諸兄曰ク惡美ヲ押勝曰ク藤原永手曰ク藤原武智磨而

レテ今上天皇ハ三條實美ニ正一位ヲ授ケリナリ蓋シ異

數ナリトス

驢野嘶餘ニ曰ク樞家清華ヲ始メ堂上地下社家等總シ越階

スルコトナレ又地下ニハ上階ノモノ少シ云々

叙位考撰ノ事附任官考課ノ例

文武天皇曰辛巳壁親王及ヒ藤原不比等ニ勅シテ律令ヲ撰

定セシメテ大宝元年各令ト共ニ叙位考撰ノ政ヲ實施ス

愚按スルニ聖德太子三月對馬ノ國黃金ヲ貢ス乃々建元ニシテ大



宝ト云フ是ヨリ前キ年号アリト云ニ未ク定式トナサズ大  
宝以降年号ヲ辨ナキモノアルコト藤ケレハ正統紀ニハ今幸  
ヲ以テ年号ノ始ノト為テ同時ニ新ニ撰定スル所ノ律令ヲ  
實施シ官名位號ヲ改製シ叙位考撰ノ事モ亦行ハル此ノ律  
令ヲ大宝令ト云フナリ抑モ考撰トハ大ニ選ビ官ヲ授ケ考  
ヲ計ハ位ニ叙スルノ義ニシテ位ハ官ニ伴ヒ官ハ位ニ從フ  
右未官位相当ト云フコトアルナリ若シ位卑ク官高ケレハ  
則ケ守ノ字ヲ加ヘ官卑ク位高ケレハ則ケ行ノ字ヲ加フ及  
令ハ大納言ハ正三位ノ官ナルニ從三位ニシテ大納言ニ任  
セラル、時ハ從三位守大納言ト書シ若シ正二位ニシテ大  
納言ナル時ハ正二位行大納言ト書ス官位相当スレハ大納  
言從三位ト書スヲ例トス同テ按スルニ官ニ任セラル、時

12 (聖久保町 大藏司)

ハ秀才明經進士明法ノ四科ニ試ミラレ及第シテ某官ニ任  
シ相當ノ位階ヲ授ケラル其後ハ彼ノ四善及四十二最等ノ  
考定ニ依リ位ヲ昇セ又官モ進メラル、モノトス  
選叙令ニ曰ク凡ソ應ニ叙スル者ヲ奉司八月三十日以前  
ニ授定メ式部ハ十月一日ヨリ起シ十二月三十日ニ迄  
限、内ニ於テ處分ニ畢リ其應ニ叙スル者ハ本司釋ノ量  
リ申シ送りテ省ニ集メシメヨ 省トハ式部兵部ヲ謂フ程ヲ  
唱示シ及ビ選中ノ御座ヲ被許セシムル公為ノニ式部兵部ノ  
ニ省ニテ凡ソ初位以上長上ノ官ニ選代スルハ卑官ヨリ  
ルヲ調フ此ノ選代ハ下考福ヲ進ニ選ルノ人ニ依ルナリ其  
五位以上ハ選代ハ下考福ヲ進ニ選ルノ人ニ依ルナリ其  
ニ始テ計督大考ヲ以テ限ト為ス六考中ノ中ナレハ一階ヲ  
進メテ叙シ三考中ノ上及ビ二考上ノ下並ニ一考上ノ中テ



トニ各亦一階ヲ進メテ叙ス一考上ノ上ナレハ二階ヲ進メ  
テ叙シ其四階ヲ進加メ及ヒ考ヲ加ヘテ五位以上ニ至ルニ  
テハ奏聞シテ別ニ叙ス云々  
制度通リ按スルニ本朝考課ノ法大率唐ノ法ノ如ク内外文  
武官初位以上毎年ニ當司ノ長官其屬次官以下ノ面々一年  
中ノ功過行能ヲ考ヘ其優劣ヲ詮議シテ九等ニ定メ年ノ八  
月三十日ニテニ仕舞ヒ京官畿内ノ官人ハ十月朔日ニ太政  
官ニ申シ送リ外國ノ官人ハ十一月朔日朝集使ニ付シテ申シ  
送り其上ニテ吟味アリテ解官貶降並ニ昇進ノ口ケ狀ニ準  
ニテ沙汰アルコトナリ文官ハ式部省ニ屬シ武官ハ兵部省  
ニ屬シ大丞少丞之ヲ勘同ス云々  
考課令ヲ按スルニ位ニ叙スヘキノ人品行方正ニシテ才藝

超抜而シテ治國大体即ケ仁義休制法令刑罰ノ類ニ曉通シ  
タル者ハ皆擢ニスルニ不次ヲ以テス又郡司ニハ性識清廉  
時務ニ堪フル者ヲ取リテ大領少領ト為シ強幹聰敏ニシテ  
書計ニエミナル者ヲ主政主張トシ其大領ハ外從八位上  
少領ハ外從八位下ニ叙ス云々又舍人史生兵衛伴部使部及  
ヒ帳内資人ヲ叙スルハ並ニ八考ヲ以テ限ト為シ八考中ト  
ラハ一階ヲ進メ四考中四考上ナラハ二階ヲ進メ八考上ナ  
ラハ三階ヲ進メテ叙ス郡司軍團ヲ叙スルニハ皆十考ヲ以  
テ限リト為ス十考中ナラハ一階ヲ進メ五考上五考中ナラ  
ハ二階ヲ進メ十考上ナラハ三階ヲ進メテ叙ス兼テ上考下  
考アラハ准折シテ並ニ八考ノ例ニ同シ其外散位ノ者ハ番  
ツ合々上下皆十二考ヲ以テ限ト為ス十二考中ハ一階ヲ進



メ六考上六考中ハ二階ヲ進メ十二考上ハ三階ヲ進メテ之  
ヲ叙シ相折ラフ郡司ニ同シ其分番ニ考及セ長上ハ考及セ亦  
十考ノ例ニ同シ若シ三考以上ヲ經ル者ハ並ニ十一考ヲ以  
テ限ト為ラ帳内資人等才文武ノ貢奉ニ堪フル者ハ並ニ  
貢シ及第ノ者ハ内位ニ叙シ落第ノ者ハ各本主ニ還ス本主  
十キ者ハ期年ノ後式部ニ送り候スベシ若シ夫レ職事ニ任  
セハ即チ改メテ内位ニ入ル雜色ニ任用セハ考滿ルノ日内  
位ニ叙スヘシ若シ無位ノ者ハ考ノ得否ヲ同ハス年ヲ數ハ  
テ未メ六年ニ滿テサル者ハ皆本貢ニ還スヘシ若シ廻リ帳  
内資人ニ充テハ亦前考ヲ通計スベシ蕃ニ使ヒテ四週ニ  
滿ル者又亦此ノ如ク又即チ上考下考ニ依リ前例ニ依リ  
其別勅及セ伎術ヲ以テ諸司ノ長上ニ直ル者ハ考限叙法並

ニ職事ニ同シ  
制度通ニ曰ク奉朝ノ制貢奉ニ進士明經秀才明法等ノ科アリ  
其大學ヨリスルヲ奉人ト云ヒ其諸國ヨリスルヲ貢人ト  
云フ又曰ク奉朝選舉ノ法全ク唐ノ制ニ因リ其内唐ニハ進  
士明經等ノ科サマサマアリ奉朝ニハ只秀才明經進士明法  
ノ四ツバカリ令ニマラハル又曰ク明經科試ル所ノ經ハ總  
テ九經大中小ニ合ツ礼記左傳ヲ大經トシ毛詩<sup>周</sup>禮儀禮ヲ中  
經トシ周易尚書ヲ小經トシ明經科ニテ五經ニ通スト云フ  
ハ右ノ七經悉ク通ズルヲ云フ三礼ヲ合セテ一經トスルヲ  
リ三經ニ通ズト云フハ大中小ノ内ニテ各一經ニ通ズルヲ  
云フニ經ニ通スト云フハ大經小經ノ内ニテ各一經ニ通ズ  
ルヲ言フ孰シモ令ニマラハル孝經論語ハ兼通スルモノト



ス餘ハ經籍ノ部ニ之ヲ詳ニス又曰ク明經ヲ試ムルノ次  
ハ大學寮ノ學生ニ毎日十日ニ度ク、休暇ヲ放ス暇ノ前一  
日ニ博士學者ノ道藝ヲ考試ス読ト讀トニツアリ読ヲ試ム  
ルモ、ハ經ノ内ニテ千言ノ内ニ一升三字ニハリ紙ヲシテ學  
者ニアタヘ周讀セシムルナリ千言ニ滿テザルハ試ミテ講  
ヲ試シルモノハ二條ゴトニシ、内ニテ大義一條ヲ問フ統  
テ三條ヲ試ミ二條ニ通スルヲ及第トス一條ニ通シ又全ク  
通セザル者ハワレソレ眾アリサテ年ノオハリニ大學頭助  
並ニ國司學生ノ藝業優長ナルモノヲ試ミ一年中受タルト  
コロノ業ヲ勘定シ大義八條ヲ問フ但シ讀ヲ試ムルコト年  
ノ終リニハ之ニテハ八條ノ内ニテ六以上ヲ得ルヲ上トシ  
四以上ヲ中トシ三以上ヲ下トス三年ワケテ下等ニ落シ

12 (生久保町 大學頭助)

並ニ大學寮ニ在ルコト九年ニ及テ及第スルコト能ハサル  
モノハ解退シテ學ハスナリ學生ニ經ニ通スル以上出仕ヲ  
願フモノハ奉送ヲユルシ又大義一條ヲ問ヒソノ内ニテ八  
ヲ得ル以上ハ太政官ニオケル若シ國學生ニ經ニ通スルモ  
ノ、學ヲ願フモノハ在學九年ニ滿テヌト雖モ武部ニ申送  
リ吟味、上大學生ニ補スルナリ又學生講説長セズト雖モ  
文藻ニナラヒ秀才進士オアルモノハ亦奉送ヲユルス是レ  
知ハ孰レモ大學寮ニテ、コトナリ又曰ク凡ソ合番ノモノ  
ハ毎年ニ本司ノ行能切過ラ量リテ三等ノ考第ヲ立ツ議  
定シオハリヲ具テ、其由ヲ誌シテ武兵ニ省ニ送ル兵衛並  
ニ衛門門部イワシモ三等ノ考第アリ是ハ唐ノ親魚翎衛ノ  
考第ニ擬セラレタルナリ兵衛ト云フハ即ケ軍團衛士ノコ



トナリ

愚按スルニ往古本邦考課ノ法多クハ唐ノ法ニ倣ハレタリ  
之ノヤレハ其参考トシテ唐ノ制度ヲ誌スルニ唐ノ世ニハ  
考課ノ法四善ニ十七最ト云フ條目アリテ是ヲ上上ヨリ下  
下ニテ九等ニ分テ毎年近侍ヨリ末ニテノ官人凡流内官  
ノ分ヲ吟味ス玄宗ノ開元二十五年定メテ三年ニ三度考課  
シテ永ク常式トナス  
通典曰大唐考課之法有德義清慎公平恪勤各一善自近侍至  
千鎮防並擬職事目為之最凡ニ十七焉

四善之目

德義有聞者為一善  
清慎明著為一善  
公平可稱者為一善  
恪勤匪懈者一善

二十七最之目

猷可贊否拾遺補頤為近侍之最  
銓衡人物擢盡才良為近侍之最  
揚清激濁褒貶必當為考校之最  
札制儀式動合經典為禮官之最  
音律克諧不失節奏為樂官之最  
決斷不滯典奪合理為判事之最  
部統有方警守無失為宿衛之最  
兵士調集戎裝克備為稽饋之最  
推鞠得情慶斷平允為法官之最  
雖校精審明於判定為校正之最  
兼育數養吐納明敏為宣納之最



訓導有方生徒充業為學官之最  
 賞罰嚴明攻戰必勝為將帥之最  
 禮義興行肅清所部為政教之最  
 詳錄典正詞理兼舉為文史之最  
 訪察精審彈箠必當為糾正之最  
 明於勘覆警失無隱為句檢之最  
 職事修理供養強濟為監掌之最  
 功課皆充丁匠無怨為役使之最  
 所釋以特收獲剝課為化官之最  
 謹於蓋藏明於出納為倉庫之最  
 植步盈虛究理精密為曆官之最  
 右候醫卜効驗居多為方術之最

識察有方行旅無壅為國津之最  
 市鄣不擾姦濫不行為市司之最  
 牧養肥碩蕃息孳多為牧官之最  
 邊境肅清城隍修理為鎮防之最  
 九等之分別

一最以上有四善為上上  
 一最以上有三善或無最而有四善為上中  
 一最以上有二善或無最而有三善為上下  
 一最以上有一善或無最而有二善為中上  
 一最以上或無最而有一善為中中  
 職事廢理善最弗聞為中下  
 安惰任情廢所不理為下上



背公而私職務廢闕 為下中

居官諂詐貪濁有狀 為下下

冠位通考ニ曰ク考擢ノ政ハ公衆院ノ御宇以來甚ノ緩ニ寛  
弘長和ノ頃ニ全ク察シ尽キテリト殊ニ下々ノ階級ハ少シ  
モ用ナク六位以下ラ一向ニ只賤シキモノトナシ廟堂心ヲ  
留ルモノナキニ至ルト  
愚按ルルニ古ハ五位以下ノ位ト雖凡考ヲ計ヘテ差開スル  
ヲ例トス向メ五位以上ハ選叙令ニ年數皆ニ十五以上ニテ  
ラケレハ叙位ノ典ナシ但シ蔭ヲ以テ出身ハ年二十一以  
上ヲ限ルトアリテ最モ嚴格ナルモノナリシモ中古以降公  
卿諸侯ハ皆家格ニ依リ兒童ニシテ五位以上ニ叙セラル  
トトナレリ

又定考ト云フコトアリ 定考ト文字ニカクテ考是ト是レハ  
月十一日ニ行ハレニ式ナリ 公事根原ニ曰ク昔ハ六位以上ノ加階ヲスル人ハ彼ノ藝能  
行跡恪勤ヲエラビテ保爵ヲ給ヒケルナリ上卿官ノ東ノ廳  
ノ座ニウキテ事ヲ行フ次ニ朝所ニ就テ三献ノ儀式アリ次  
ニ宴饗ノ座ニウク又各ニ献アリカサレノ華ヲ上卿以下ノ  
冠ニ刺ス大臣ハ自蕭納言ハ黃菊參議ハリウタン其外ハ皆  
時ノ華ヲ刺ス進リ華ニアラス大カタハ二月ノ列見ニ同シ  
武兵ノ兩省ヨリ諸司ノ輩ノ上日ヲ選成スル事ヲ列見ト云  
フ共シヲカキアツメテ奏スルヲ擬階ノ奏ト云フ此人々  
ヲ選ヒ出シテ定メ侍ルヲ定考ト申ス也云々之ヲ略記シ  
叙位考選ノ参考ニ資ス



官位相當ノ事

大寶元章正一位太政大臣藤原不比等勅ヲ奉ニ律令ヲ撰ニ  
官位相當ノ制ヲ定ム  
大寶ノ新令始メテ行ハレ官位相當ノ制ニ亦實施セラル其  
官位令ニ於テ詳ニ記スル所アリト雖凡今便宜ニ依リ職原  
抄ヲ略シ其相當ヲ掲クベシ先ツ神祇官ニ於テ伯ハ從四位  
下大副ハ從五位下小副ハ正六位上大祐ハ從六位上少祐ハ  
從三位下大史ハ正八位下小史ハ從八位上太政官ニ於テ太  
政大臣ハ正從一位左右大臣ハ正從二位太納言ハ正三位中  
納言ハ從三位少納言ハ從五位下大外記ハ正六位上少外記  
ハ正七位上而シテ左右大辨ハ從四位上左右中辨ハ正五位  
上左右少辨ハ正五位下下左右大史ハ正六位上左右少史ハ

正七位上各省ニ於テハ卿ハ正四位上大輔ハ正五位上少輔  
ハ從五位上大監ハ正六位上少監ハ從六位上大録ハ正七位  
上少録ハ正八位上侍從ハ從五位下而シテ侍<sup>鑿</sup>ハ正六位下大  
内記ハ正六位上小内記ハ正七位上大監物ハ從六位下少監  
物ハ從八位上各職ハ大夫ハ從四位下亮ハ從五位下大進ハ  
從六位上少進ハ從六位下大屬ハ正八位下少屬ハ從八位  
上寮頭ハ從五位上助ハ正六位下大允ハ正七位下少允ハ從  
七位上大屬ハ從八位下少屬ハ大初位上司正ハ正六位上祐  
ハ從七位下大令史ハ大初位上少令史ハ大初位下彈正平ハ  
從三位大弼ハ正五位下大忠ハ正六位上少忠ハ正六位下大  
疏ハ正七位下少疏ハ正八位上大國ノ守ハ從五位上少國  
六位下大掾ハ正七位下少掾ハ從七位上大目ハ從八位上少



目ハ從ハ位下上中下國、守外掾目ハ次第ニ一階ヲ下ス而  
シテ其下國ニハ叙シ置カス尤右近衛府ニ於テ大将ハ從三  
位中將ハ從四位下少將ハ正五位下將監ハ從六位上將曹ハ  
從七位下九衛門及兵衛府ニ於テ督ハ從四位下佐ハ從五位  
上大尉ハ從六位下少尉ハ正七位上大志ハ正八位下少志ハ  
從八位上  
是レ其概略ヲ誌シ維新後官位制度ノ改リナル所ノ参考ニ  
供スルモノナレハ諸君其詳細ヲ知シテ欲セバ大室令ノ原  
文ニ按ル、旁ヲ執ラサルヘナラス  
愚按スルニ源賴朝幕府ヲ鎌倉ニ開テヨリ世ハ封建ノ制度  
トナリ政權ハ總テ武門ニ歸シ管領執權トド出テモ人アリ  
テ國家ノ事ハ細大トク之ヲ處理シタルニ依リ大室ノ制

度ハ全ク行ハレザルコトナレハ後醍醐天皇復古ノ鴻業  
ニ大成ニ至ラズニテ遂ニ南北朝ニ分レ村上天皇ノ時ニ於  
テ比島親房職原抄ヲ筆記シテ帝ニ上リシニ到底行ハレサ  
レシナリ是利氏ノ幕府以來官ニ即ケ名ヲ得ニシテ僅ニ朝  
廷ニ其一部ヲ存セラレタリナリ  
位階ハ勤切ニ依リ加級セシムルノ已ヲ得ナレバカレハ  
其官當リ位ヲ越フルモノ多キカ故ニ行守ノ二字ヲ以テ大  
室ノ制度ヲ維持シ以テ明治維新ノ時ニ迄テ  
宮女官名及相當位ノ事  
職官志ニ曰ク後宮ニハ妃ニ人四品以上夫人三人三位以上  
嬪四人五位以上宮人ノ職掌分テ十二ト為ス之ヲ十二司ト  
謂フ



内侍ニハ尚侍ニ人從五位下ニ準ニ供奉常侍奏請宜傳及ヒ  
 女孺ヲ檢校シ兼テ内外命婦ノ朝参及ヒ禁内ノ禮式ヲ知ル  
 ヲ掌ル典侍四人從六位ニ準ニ掌侍四人從七位ニ準ニ二  
 官ノ掌十尚侍ニ同ニ唯テ請宜傳ヲ得ズ女孺一百人  
 平氏天皇大同二年尚侍ノ陞セテ從三位ニ典侍ヲ從四位ニ  
 掌侍ヲ從五位ニ準ス  
 藏司ニハ尚藏一人正三位ニ準ニ神璽同契供御衣服巾櫛服  
 玩寶絲帛賞賜ノ事ヲ掌ル典藏二人從四位ニ準ニ掌十尚藏  
 ニ同ニ掌藏四人七位ニ準ニ絲帛賞賜ヲ出納スルヲ掌ル  
 女孺十人  
 書司ニハ尚書一人六位ニ準ニ内典經籍及ヒ紙筆几按樂器  
 ノ事ヲ掌ル典侍二人七位ニ準ニ掌十尚書ニ同ニ女孺六人

藥司ニハ尚藥一人七位ニ準ニ醫藥ノ事ヲ掌ル典藥二人八  
 位ニ準ニ掌十尚藥ニ同ニ女孺四人  
 兵司ニハ尚兵一人七位ニ準ニ兵器ノ事ヲ掌ル典兵二人八  
 位ニ準ニ掌十尚兵ニ同ニ女孺六人  
 園司ニハ尚園一人七位ニ準ニ宮園管鑰及ヒ出納ノ事ヲ掌  
 ル典園四人八位ニ準ニ掌十尚園ニ同ニ女孺十人  
 殿司ニハ尚殿一人六位ニ準ニ輿織膏沐燈油火燭薪炭ノ事  
 ヲ掌ル典殿二人八位ニ準ニ掌十尚殿ニ同ニ女孺六人  
 掃司ニハ尚掃一人七位ニ準ニ牀席灑掃鋪設ノ事ヲ掌ル典  
 掃二人八位ニ準ニ掌十尚掃ニ同ニ女孺十人  
 水司ニハ尚水一人七位ニ準ニ漿水雜粥ヲ進ムル事ヲ掌ル  
 典水二人八位ニ準ニ掌十尚水ニ同ニ采女六人



膳司ニハ尚膳一人正四位ニ準シ御膳進食先嘗及ヒ膳厨酒  
醒果蔬等ノ事ヲ掌ル典膳二人從五位ニ準シ掌膳四人六位  
ニ準シ掌ナ尚膳ニ同シ采女六十人  
酒司ニハ尚酒一人六位ニ準シ釀酒ノ事ヲ掌ル典酒二人八  
位ニ準ス  
縫司ニハ尚縫一人正四位ニ準シ裁縫衣服纂組兼テ女功及  
ヒ朝奉ノ事ヲ掌ル典縫二人從五位ニ準シ掌ナ尚縫ニ同シ  
掌縫四人參見朝會命婦ヲ引導スル事ヲ掌ル女孺一百人  
凡ノ諸司ノ掌以上ヲ職事ト為ス餘ハ皆散事トシ考叙法一  
ニ長上ノ例ニ準ス  
東宮ノ宮人及ヒ嬪以上女豎皆此ノ如シ  
舍外置ノ所ノモノヲ女御ト云ヒ更衣ト云ヒ御匣殿ト云フ

皆定負ナシ  
西宮記ニ清凉記ヲ引テ曰ク更衣十二人  
女御ノ事桓武帝記ニ正五位下紀朝臣乙魚ヲ以テ女御ト為  
ス女御ハ蓋ニ比ニ始ナル  
更衣ノ事嵯峨帝記ニ從五位下秋篠朝臣馬子ヲ更衣ト為ス  
蓋ニ是ヲ始トナス其後歷朝多ク妃夫人ヲ立テテ而シテ女  
御益々貴ニ位ハ皇后中宮ニ至テ更衣又之ニ至テ三化室録  
ニ曰ク大臣ノ女ヲ以テ女御ト為シ納吉ノ女ヲ更衣ト為ス  
句當ノ事禁秘抄ニ曰ク内侍司ハ後高侍ヲ祭マ而シテ掌侍  
ニ權官二人ヲ加ヘ六人ト為シ其一人ヲ句當ト云フ所謂句  
當ハ内侍是トナリ又上臈小上臈下臈等アリ上臈ハ即ケ典  
侍御膳ヲ供スルヲ掌ル其一人ハ宣旨ヲ為ル御匣殿別當



毛亦上臈ヲ以テ之ヲ為ス小上臈ハ公卿侍臣ノ女ノ官ニ在  
 ル者ヲ謂フ中臈ハ即テ命婦下臈ハ女藏人ナリ  
 十二司ノ外又采女司東鑿子水取等アリ亦皆女官ナリ其他  
 得選乃自主殿司アリ乃自ハ内侍所ノ直衛ヲ掌リ主殿ハ殿  
 上ヲ洒掃スルヲ掌ル皆後世ノ制ナリ  
 有職同答ニ曰ク勾當内侍ノ事是ハ内侍ノセウノ一臈ヲ申  
 スナリハ答内侍ノ内第一ヲ勾當ノ掌侍ト喚候ナリトア  
 リ總ニ内侍司ニ三アリカニ、スケ、セウ、ト云フ尚侍ハ  
 カニナリ典侍ハスケナリ掌侍ハ之レセウナリ  
 上古位記例狀ノ事  
 嵯峨天皇弘仁九年三月制ス五位以上ハ位記改テ漢様ニ從  
 フ

12 (芝久保町大藏庫)

選叙令ニ按スルニ凡ハ内外五位以上ハ勅授内八位外七位  
 以上ハ奏授外八位及内外初位ハ皆官ノ判授トアルヲ以テ  
 位記書式ニ於テ勅奏判各其体ヲ異ニス其例下ノ如シ  
 勅授位記式 一公式令一  
 中務省  
 本位姓名年若干令授其位  
 年月日  
 中務卿位姓名  
 大政大臣位姓名 大納言加名  
 式部卿位姓名  
 右勅ニテ賜フ五位以上ノ位記ノ式皆見在ノ長官一人署ス  
 若シ長官ナケレハ則テ大納言及少輔以上式ニ依テ署ス兵



部之亦同之以下是之在ス

奏授位記式

太政官謹奏

本位姓名年若干其國其郡人今授其位

年月日

太政大臣位姓 大納言加名

式部卿位姓名

右奏之授之所六位以下、位記式トス

判授位記式

太政官

本位姓名年若干其國其郡人今授其位

大納言

式部卿位姓少輔以上加名

右到之授之外八位及内外初位、位記式トス

清和天皇貞觀元年四月公卿太政官、曹司廢ニ於テ成選、

位記ヲ賜フ

爵位考ニ當時ノ宣制ヲ載スルコト尤、如シ

勅旨止宣大命 衆聞食止宣天安ニ年成選人等、其任奉

乃隨テ冠位上賜比治賜止宣大命 衆聞食止宣史ニ是

乃隨テ冠位上賜比治賜止宣大命 衆聞食止宣史ニ是

貞觀六年三月勅之ヲ位記、例状ヲ定ム

位記例状 朝野群載

親王

中務地居磐石望重維城敦序茂親深有恒典宣中朝柴用照



寵光可依前件王着施行

孫王

中務天授遺芳帝業餘韻褒賞攸鐘何混俗流宜授宗爵以移  
朝章

大臣

燮理陰陽廣亮天地總百僚而能輯執九西而不愆宜加宗  
以移朝章

丞議以上

請恭在位久弼可機金望惟諧政績允懋宜加宗

散三位 二位同

請恭在位愈望惟諧慶賞攸鐘仰惟令典宜擢榮光以移朝章

致

久疲官途已請懸車敬光之迥仰可光榮宜昇崇班用慰衰暮

高辻家ノ記録ニ云ク凡ソ位記ニハ式位記兵位記、而様ア

リ後令ハ文官ノ位記ハ或部省官之ヲ司リ武官ノ位記ハ兵

部省官之ヲ司ルモノトス又云ク位記一卷ハ中姓戸輩ヲ載

スルハ三人ニ過キ又第一叙人公卿ニ於テハ第ニ中務第ニ

外記也、外ハ姓戸ヲ載セテハ又云ク凡ソ位記ニ書載

スル輩有服解人者名字ニ字ヲ書ナズ尤モ内記ノ故實ニリ

上古ハ社司國造等位記身ヲ安ル如シ

五條為定曰ク唯服解ノミナラズ混穢未着陣不在京等ノ人

者名字ヲ書カハルナリ但中務式部西輔ノ中此ノ如キ障リ

アル者ハ權官ヲ用フ正權共ニ障アルトキハ正官ヲ載セ名

字ヲ除ク爾自以下大臣ノ中障アルトキハ朝臣ノ二字ヲ除



其餘中啓卿納言外記辨録等，中障了此者，名字ヲ除ク  
例トス

仁和寛字時代、位記

時平大臣也加元服叙正五位下位記狀

無位藤原朝臣時平 攝贈納言相廣

中啓伯禽封魯辟疆侍中隆南時平名又之子功臣之嫡及此良

辰加汝元服鳳毛酷似爵命宜殊万依前件主者施行

仁和二年正月二日

無位藤原朝臣忠平 純納言

中啓光功名臣後胤遺種非唯悅當時之商量亦感農日之所托

宜授爵命用異 宗可依前件主者施行

寛平七年八月三十一日

蔭孫藤原朝臣忠教

可叙從五位下媼子内親王臨時申

應徳三年二月十九日

藏人左衛門權佐藤原朝臣奉

文官以下造官人常陸守下向等此、狀ヲ用

性理恪勤功効克宣屢賞攸鍾仰惟令典宜授榮爵用光朝章

武官 臨時加級ト云凡猶ホ共、狀ヲ用

表節兵欄宜勤羽衛精試無懈夙夜在公宜授榮爵用旌寵章

秀才 六位新叙共、狀ヲ用、加級、時純傳狀、用

心

孫弘勤業仲舒垂惟鷄距學優麟角功竟音聲之有琴瑟人倫  
之有罔孔宜授恩祿以起常倫



紀傳 加級之ヲ用フ  
矣輟不竭談天無究貫穿六經馳九流宜增榮壽日照儒門  
侍讀

詠天不究矣輟無竭况侍惟恆奉按詩書宜增榮壽日照儒門

明經 業高重席名顯瘦平為孔堂之棟貴儒津之舟楫宜榮好爵用

明法 銳意憲法留心平文鞫鞠通理輕重得所宜按榮爵以勸名

家 精心技築激想之基輕重斯分忽微莫失宜按榮爵以光朝章

年 通習漢音克傳師法詳調既恢清濁合流宜按榮爵用穆朝章

音 陰陽 帆夫棗地探願究精倚伏既明祥妖斯驗宜按榮班式勸日者

天文 究精教象推步天文為允觀掌中照靈室宜按榮班以旌遠術

曆 推策黃錢究教書精分至不愆端餘斯辨宜按好爵以旌殊能

漏刻 勤心銅史守業全德暑漏無愆明宵有記宜按好爵以旌殊能

祭主 祿宜 祭主神主請社同用之

但讓他人用回用狀



修其祝嘏致敬明神言念精驗天地之災祥明人靈之禍福宜  
獲帝爵以旌藝能誠仰可褒進宜校崇爵式先祠壇

十人

十明分沛万象極精驗天地之災祥明人靈之禍福宜校崇爵  
以旌藝能

醫師

酌訓炎軒陶凡後鶴醫家深術人命所懸宜校崇班式勅後字  
循吏

判符為宰視民如子仁以為任政績有聞慶賞攸鍾仰惟令典  
宜校崇爵用光朝章

軍功  
風登戎秩善旌武威踐水草於喧寒看勁誠於夷險宜增崇爵

以申朝漿

雜藝樂藝同之

性理恪勤功效克宜願解筥曲筋力衰弊宜校崇爵式勅後進  
後叙

先罹跡網下千秋官憲法攸中理存不忍今望曆已周恩波頌  
蕩宜脩典薦旒使自新可

舞妓

伎妙柳樹鈴杵梨園飄薄羅而惺鼻起急管而骨輕宜校崇  
以耀教坊

鎮府

風莅邊銜類經戰事善諒戎落騎焉安之宜校崇班式光朝漿  
罔用



肆勤南畝力東坡終傾家資以助國用不有褒賞何能勸人  
宜降及世之榮中併發農之功

依子功授父母壽

其性理忠恪夙夜在公褒賞收降統被平生宜加寵光以弘愛  
敬

授實慧律師父依伯霜長久壽

無曩績殊有可優加以年齡已過耄暮宜昇崇貴用照恩魁

內親王

懿德已懿禮儀恒極天之仁妹家之慈母宜增崇壽以遵彝典

女御

德教已備芳徽久彰婦人之所儀彤管之所記宜增崇壽式照  
恩魁

乳母

國風有肅敬範可觀包珣琬以為心望松筠而立節悅朕襁褓

乳養義深推燥施濕不敢告勞宜崇用報其功

命婦 新叙同之

回德先備六行率修婦人之儀彤女史之可託宜授崇壽式穆

朝章

先朝女御

昔事先帝宣禮後房淑範夙彰芳徽長扇婦人之攸儀彤管之

可託宜授崇壽式照恩魁

大臣室 撰錄同

夙標婦德率嫡宰臣琴瑟克諧松夢交蔚宜授崇壽以穆國風

公卿室

並女



系儀內照淑廟外彰貞潔之標晚節惟懋宜加崇班以先朝章  
工巧 大工香匪同之  
思入神妙術長機同公輸童生仲若由誕宜校寵章用勵工匠  
佛師 佛師之朝後法教上人位狀忠貞作  
勅神妙出精佛像隨平公代之遺跡綜衡之後昆宜校階級之  
珠式勵之道

僧綱

僧上

勅智惠岑高著搜月朗持三密之法印作四輩之儀形佛教稱  
魚稱讚之功五法豈忘崇飾之義  
僧都  
勅三明已達十德能圓佛法之眼心結徒之領袖內家既有異

地之殊特典何無階級之別

律師

勅勤修香火堅護木地若海桐其法稿練故推作宗首宜裝白  
費用勸緇徒

右大臣奉勅律師以上位記上永為恒例者

貞觀六年三月十四日

今按法稿狀同用律師狀

以下應柱史抄補

女院

無位藤原朝臣 一子

右可

中務德教惟懋芳徽養薰養姑射山之深窈彰婦道之早樹



宜換崇爵式照恩程可依前件三者施行

永久五年十二月 日

御乳母

中務德嬰孩端力乳養及洎勝冠繁見為宜加崇爵之漿用  
散抱育之心可依云々

尚

中務專精龍篆擅美靈章文書芝司八體莫謬宜授崇級以  
勅後生可依云々

春宮亮

中務青宮當任丹墀宜勤抽其精誠之節期此王佐之職宜  
增二級用照一門可依云々

以下擬任破秋補

無位藤原朝臣藤子

右可從五位下

中務四德去備六行相談談敬賞收錄女史所記宜授崇爵式  
親殊畢可依云々

永享二年正月廿八日

又加級下様

從五位下藤原朝臣藤子

右可從五位上

中務淑春不缺柔順之彰女史所記敬賞云々宜授崇爵用  
耀朝章可依云々

永享二年十二月廿七日

中古位記例狀事

柱礎抄  
馬過家  
備忘録



先瑞書二行書之

叙人之位也 若公卿者不書尸名也

瑞書之在序上三字許置副書始之位記必之中務也其次

行書在序下可字自前之行下書新叙之位又叙爵之人之

分上古者如女房位記加無位二字近例不加之也

次書位記之次

為是云新作之時是也 增字數必四行書之

先祭瑞書叙中務二字中務有司次書其詞大若四言也或

又五言六言相文又有逐韻者有不逐也四章特兩端也但

於新作之文者尤可逐之於例文者不逐也汝汝叙人無殊

事者可用例文依一段朝條賜階級之人用新作也文既不

多之間以四言為本五言六言或支書之全篇短封也又式

位記文者盡仁義之道德無位記文者書武勇之威雄也

如此書終又有例狀可依前件文之末盡述之也

去位記狀抑於宜校二字者叙爵之人可用之時加級輩者或宜

加增宜申等之字可用也

次書年月日依前一行一字

次書中務省三人位署一人和卿一人者少輔位署如恒皆書連之

名字下仁書宜奉行之三字極及卿下仁書宣字大輔下

書奉字大輔下仁書奉字少輔下仁書奉行字卿關為定云

同之時者大輔下仁書宜字少輔下仁書奉行二字也一人

之時者三字皆一仁雙書也又此位署仁有加臣字為定云

御之親王位之抑御為關者中務卿關可為如此為定云卿

故不書臣字大輔少輔亦同上為定云王官關止書又云正官

名字並親大輔少輔亦同上為定云王官關止書又云正官

有以障時裁權官正權共有障者裁正若各為關者叙位以前

大內記奏聞其由而令任其人者柱下古來之故實也為定云



如時位記亦其處年月日仁相副引下書之通計書之

次納言位署載之

其樣當官兼官位階臣字名字等也不載

至最末之納言名字下仁等言之二字書之言十人。權中納

又言。有障時。唯除名字。未着一障。亦同。除名字。

次有例狀制附外施行謹言是也奉行仁書之書此二行同通

次年号月日載之如前

次制可二字書之自年号上而與前平頭書之

次書外記位署

先日月辰時書此四字也同前年号其下仁位階當官兼官

姓尸各等載畢又臣字不載之無記大外記者除名字

次載中并

官及名字計也外記位署仁相双而引下書載之此并之辨

於式位記必用无中辨也為定云。中并欠之時

次授政以下大臣位署次第書連之當官位階等之下仁加朝

臣二字不載姓名字等又不不載臣字先以授政或同白有

政之時。次太政大臣。次左大臣。次右大臣。次内大臣等也。但

官位者可依時之間不可為一定又有兼官可書如之或授

政太政大臣或同白内大臣或右大臣正二位兼行内近衛

大將或征夷大將軍從一位行左大臣兼右近衛大將朝臣

等也若又前同白為太政大臣者可書或同白之上又同白

雖内大臣猶可書載左大臣之上太政大臣為同時或太政

大臣同付之或一向不載其官古章之中兩端也大臣有

同者即不載之也有定云。大臣有障之



次式部省官書載之是依式部

先載卿位者必為親王兼官故親王位者載之官字不若無

當官者式部卿可載之為定去有障時除

次大輔位者載之兼官者本官若無大輔者可用捨大輔正

權共為例者式部大輔可載之以下皆不加臣子為

正權共有障時載

又式部少輔為兩人者一人者此所載之一人者奉行之處

可載之少輔為一人者必

又為兵位記者官書連之先卿為公卿兼官本若為例者兵

部卿可載之

次大輔正權之間任當官可載之皆為例者又大輔為例者

時者即不載之異干式部大輔推也仍失誤綱言兼官者

不可和之兵

次載大辨若為兼官者本官兼國等書載之不載也依式位

記用凡大辨兵位記用右若無現在之時左大大辨

可載之為定去大并有

次書載新叙之人於此既可書

先上告字書之其下書叙人之位署為定去位姓

者不載尸其名字下奉字書之

次又有制狀為定去判書如右一行奉之

次奉行之位署載之必用式部少輔兵位記用兵為兼官者

本官並兼國等載之不加姓尸若作此人之任記時則可

有障時載正權共

兵部少輔為例者之時用大輔例永德二年正月六日叙任



進

從五位上守兵部大輔懷直

次載錄三人無其人時官計り載之也。三人相並書之。

式部少輔字通程仁引下書之。兵位記

次幸瑞月日

抑位記一卷之中載性尸輩不過三人也。第一叙人。於公

不載。第ニ中務第ニ外記。此外者不載性尸也。凡書載位

記輩有服解人者不書名字二字也。尤為內記故實上古

者。社司國造等位記專如此。陣為定去。不唯服解混載。未着

字也。但中各式部兩輔之中。有如此障者。用。推官。正推共

有障者。載。正官。除。右字。因。以下。大臣之中。有障者。除。朝

臣之。字。其餘。中。各。卿。納。言。外。記。并。錄。之。中。有。障。者。除。右。字。也。

殊遠近代廢絶之間。略而不記。為定誌之。

右吉式。說明。依。近代位記。實例。掲。以。奉。照。

資。又。式位記。標。

右。可。某。位。

中務。

、可依前件主者施行

某。幸。月。日。

二。昌。行。中。務。卿。部。仁。親。王。

正。四。位。下。行。中。務。卿。輔。臣。卜。部。朝。臣。行。崇。奉。

正。四。位。下。行。中。務。少。輔。臣。藤。原。朝。臣。隨。資。行。

宣



正二位行樞大納言兼右近衛大將臣 家厚  
 正二位行樞大納言臣 輝弘  
 正二位行樞大納言臣 實堅  
 正二位行樞大納言臣 基豐  
 正二位行樞大納言臣 實萬  
 正二位行樞大納言臣 通知  
 正二位行樞大納言兼左近衛大將春宮大夫臣輔照 忠杏  
 正二位行樞大納言臣 齊敬  
 樞大納言正三位臣 幸經  
 正二位行樞中納言臣 光成  
 正二位行樞中納言兼春宮樞大夫臣 建通

正二位行樞中納言臣 言知  
 正二位行樞中納言臣 隆生  
 正二位行樞中納言臣 顯隆  
 正二位行樞中納言臣 通理  
 正二位行樞中納言臣 隆光  
 從二位行樞中納言臣 資善  
 從二位行樞中納言臣 實久  
 公遵等言  
 制書如右請奉  
 制附外施行謹言  
 某年月日  
 制可



月日辰時正白位下行大外記兼掃部頭助教中原朝臣師 德

左中辨俊長

園白大政大臣從一位朝臣

從一位行左大臣朝臣

從一位行右大臣朝臣

從一位行內大臣兼東宮傳朝臣

式部卿

正三位行式部大輔

正四位上行左大臣兼春宮亮

告某位

判書如右符到奉行

正五位下行式部少輔兼備前守

義脩

為定

光政

大録 帝久

少録

少録

某年月日

中務權官位署

從四位上行中務權大輔臣卜部朝臣之隆

正四位下行中務權少輔臣丹波朝臣賴易

新大外記位署

從四位下行大外記兼造酒正中原朝臣師身

式部權官位署

正三位行式部權大輔兼大學頭

以長

正五位下行式部權少輔伊豫守

帝成



兵位記、樣現任今天行十四年正月

右可某位

中務、

、可依前件主者施行

其年月日

二品行中務卿齋仁親王治部卿三上

正四位下行中務大輔臣卜部朝臣行字奉宣

正四位下行中務少輔臣藤原朝臣隨資行

正二位行權大納言兼右近衛大將臣家守

正二位行權大納言臣輝弘

正二位行權大納言臣實堅

正二位行權大納言臣登豐

正二位行權大納言臣實萬

正二位行權大納言臣通和

正二位權大納言兼左近衛大將春宮大夫臣輔熙

正一位權大納言臣忠香

正二位行權大納言臣齊敏

權大納言正三位臣幸經

正二位行權大納言臣光成

正二位行權中納言兼春宮大夫臣建通

正二位行權中納言臣言知

正二位行權中納言臣隆生

正二位行權中納言臣顯孝



正二位行權中納言臣

通理

正二位行權中納言臣

隆光

從二位行權中納言臣

資善

從二位行權中納言臣

實久

從二位行權中納言臣

公遠等寺

制書如右請奉

制書外施行謹言

某年月日

制可

月日辰時正四位下行大外記兼掃部頭中納言朝臣師德

右中辨俊克

同日大政大臣從一位朝臣

12 (堂久保町 大聖廟製)

從一位行充大臣朝臣

從一位行右大臣朝臣

從一位行內大臣兼東宮侍朝臣

兵部卿國

從四位上行兵部大輔

芝德

正三位行右大辨兼解白長官

聯長

告某位某姓某尸某名奉

制書如右符到奉行

從四位下兵部少輔兼因幡守

嘉純

大錄氏萬

少錄

少錄



某年月日

中務權輔位署

從四位上行中務權大輔臣

正四位下行中務權少輔臣

卜部朝臣久隆  
丹波朝臣賴易

新大外記位署

從四位下大外記兼酒正中原朝臣

師身

兵部權輔位署

正四位下行兵部權大輔兼伊勢守

俊彥

從四位下行兵部權少輔兼伊香守

寬盛

治部位記，樣以今天保十四年正月  
現任旨之

入道二品某親王

右可二品或一品

勅

、、、、可依前件立者施行

某年月日

二品行中務卿詔仁親王

宣

正四位下行中務大輔臣卜部朝臣行字奉

正四位下行中務少輔臣藤原朝臣隨資行

奉

勅如右牒到奉行

某年月日

正三位行治部卿

久雄

從四位下行治部大輔

惟和

正四位上行左大辨兼春宮亮

光政



告入道二品或一品某親王奉  
勅如右符列奉行

從四位上行治部少輔兼攝磨守

廣秋

大録  
大明

少録

少録

某年月日

中務權輔位署

從四位上行中務權大輔臣卜部朝臣

久隆

正四位下行中務權少輔臣丹波朝臣

賴易

治部權位署

正四位上行治部權大輔主殿頭兼左京大夫

以齊

正五位下行治部權少輔兼筑後守

茂文

以上高辻家記録抜書ナリ

子爵青山家藤山所藏、位記並ニ口宣按ヲ寫シ茲ニ夫考

ノ一助トナス

一口宣狀

、堅一尺一寸五分

上卿

油小路大納言

寛文九年十二月廿七日

宣旨

從五位下藤原宗俊

宣叙從四位下

茂  
ノ  
ナ  
ク  
ナ  
リ

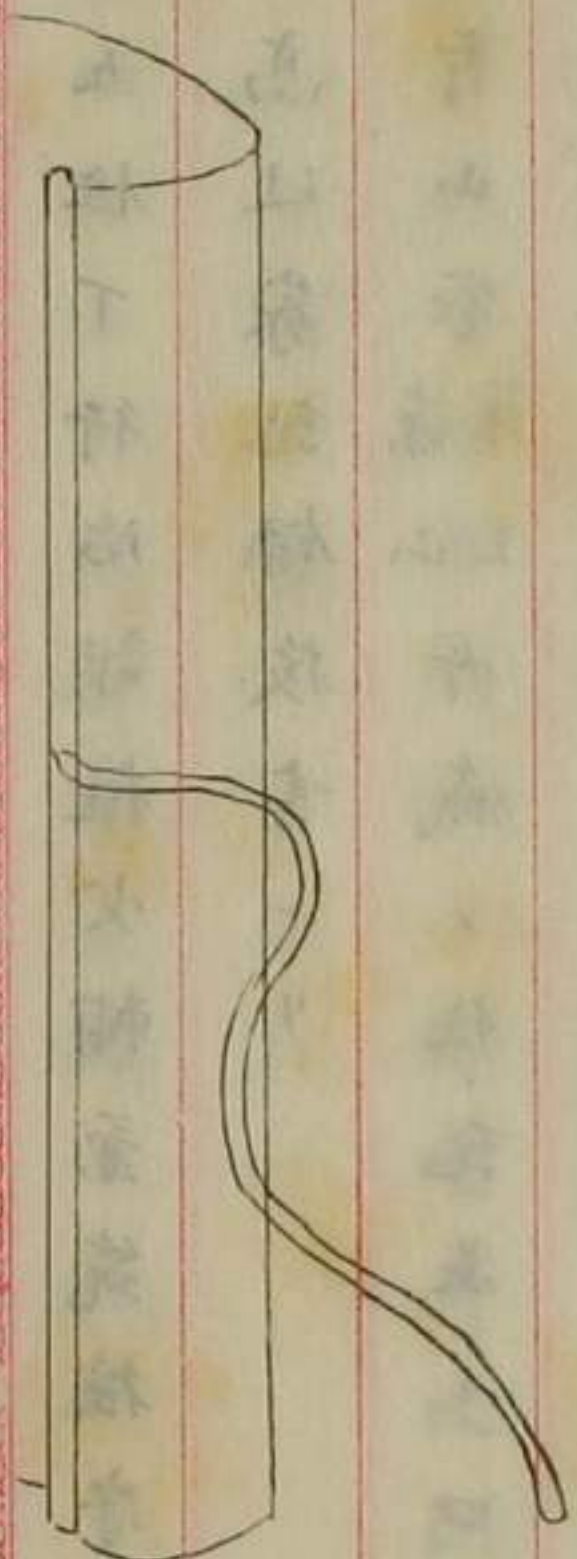


藏人尤少辨之藤資為奉

古紙質氣色奉書

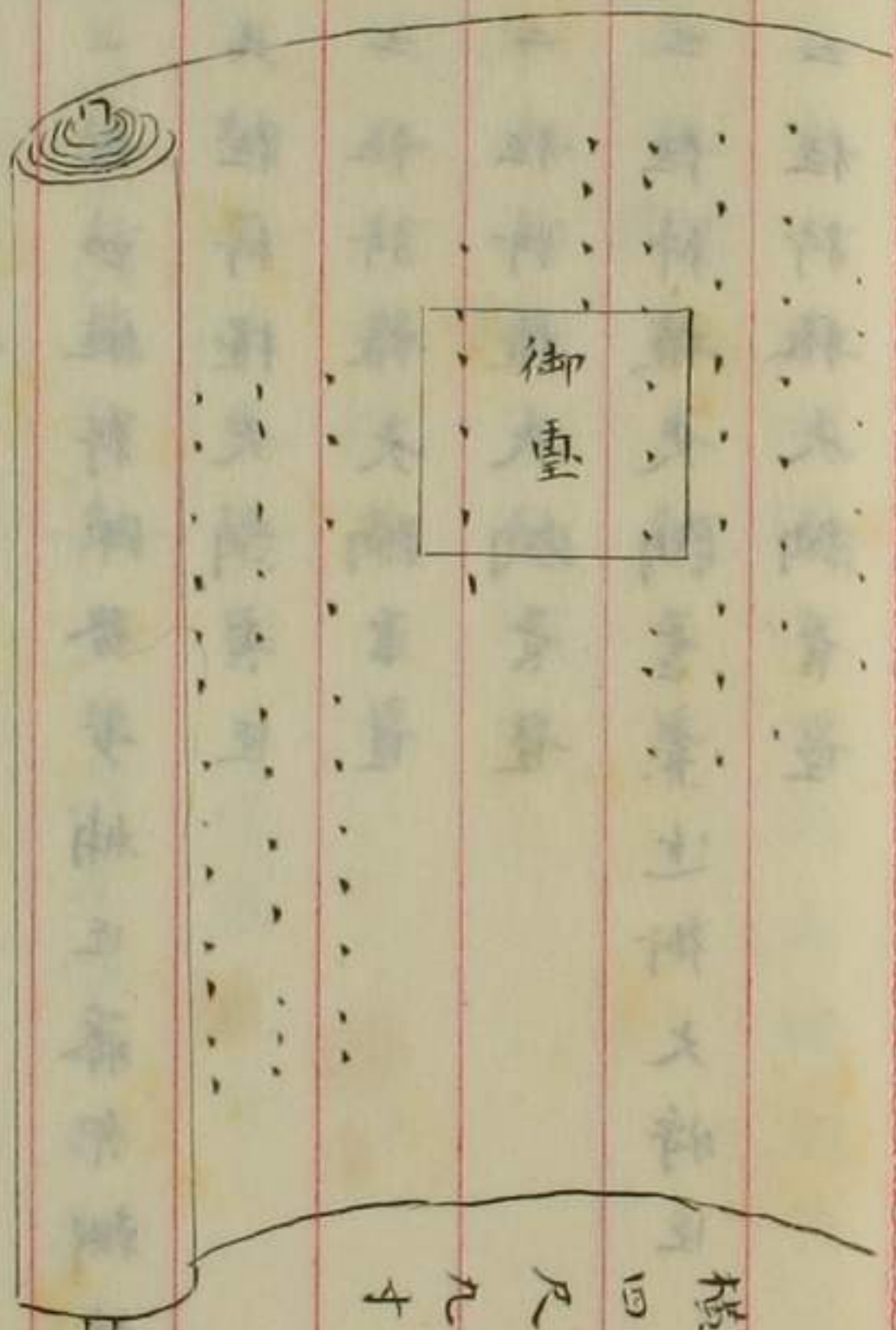
口宣按

一位記卷



聖八寸七步

御璽



從五位藤原朝宗俊

右可從四位下

中務表節兵禰宣勤羽衛精

誠無懈夙夜在公宜增朝章

式加階級可依前件主者



御  
行

寬文九年十二月二十七日

無品中務卿長仁親王

宣

從四位行中務大輔臣源朝資冬 奉

正四位行中務少輔臣藤原朝祐宣 行

正二位行權大納言臣

永敷

正二位行權大納言臣

隆貞

正二位行權大納言臣

俊廣

正二位行權大納言兼近衛大將臣

實能

從二位行權大納言臣

通茂

從二位行權大納言臣

經光

從二位行權大納言臣

公規

從二位行權大納言臣

定誠

從二位行權大納言臣

内房

權大納言正三位臣

基賢

從二位行權中納言臣

為條

從二位行權中納言臣

為庸

正三位行權中納言臣

照房

正二位行權中納言臣

雅房

正三位行權中納言臣

資照

正三位行權中納言臣

實起

權中納言從三位臣

賴孝



權中納言從三位臣  
制書如右請奉  
制附外施行謹言

通名等言

寛文九年十二月二十七日

制可 御璽

月辰時正四位行大外記兼掃部頭中納言

右中辨資廉

関白正二位朝臣  
大政大臣  
左大臣  
右大臣正二位朝臣

内大臣正二位行充近衛大将朝臣  
兵部卿  
從四位行兵部大輔  
参議正四位行右大辨  
告從四位下藤原朝臣宗俊奉  
制書外右符到奉行  
正四位行兵部少輔

永直

御璽

大録  
少録  
少録

寛文九年十二月二十七日



一口宣按

堅一尺一寸一分

上卿 日野中納言

天明五年十二月十八日 宣旨

藤原忠祐

宣叙從五位下

奉

藏人名中兼右衛門權佐藤原昶定

宣旨 宣叙 從五位下

寸法前二同

上卿 日野中納言

天明五年十二月十八日 宣旨

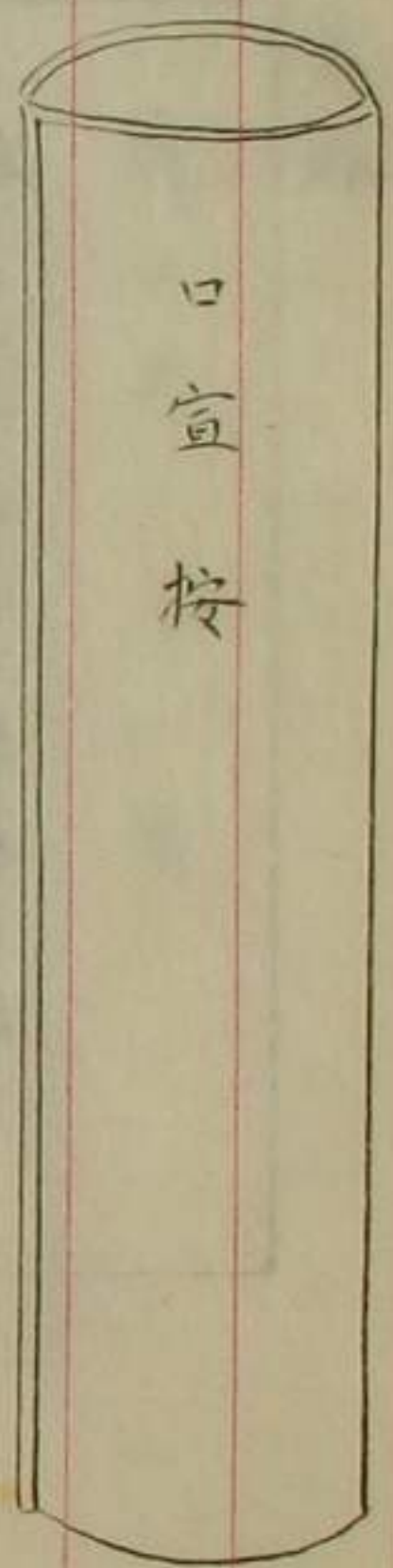
從五位下 藤原忠祐

宣任下野守

奉

藏人名中兼右衛門權佐藤原昶定





一宣旨

堅一尺二寸三分

從五位下藤原朝臣忠祐

從二位行權中納言藤原朝臣資矩

宣奉 勅件人宣令任

下野守者

蘇 1 八 九 4

紙質緞紙

天明五年十二月十六日外記兼掃部頭朝臣師賢

奉

分

神階位記ノ様

柿本社

右可正一位

中務千載垂光萬邦

仰德究誠直於神道

同蓋集千歌林宜枝

極位式翹詞壇可依

前件三者施行



享保八年二月一日

二品中務卿永親王

宣

正四位下行中務大輔臣藤原朝臣 國廣奉

從五位下行少外記兼守中務少輔少內記中原朝臣 績永行

正二位行權大納言臣

通躬

、、、、、、、、、、、、

致孝

、、、、、、、、、、、、

冬熙

、、、、、、、、、、、、

惟通

、、、、、、、、、、、、

基長

從二位

公澄

從二位行權大納言臣

兼廉

、、、、、、、、、、、、

尚房

從二位權大納言兼右近衛大將臣

幸教

從三位守權大納言臣

、、

從二位行權中納言兼左衛門督臣

隆典

、、、、、、、、、、、、

公詮

正三位行權中納言

基喬

、、、、、、、、、、、、

治房

從少納言從三位臣

重孝

、、、、、、、、、、、、

公福

、、、、、、、、、、、、

隆成

、、、、、、、、、、、、

光崇

權中納言從三位臣

雅李等言

別書如右請奉



享保八年二月一日

判可

月日辰時從五位上行大外記兼掃部頭造酒正直講中京朝臣

師岑

左中辨賴胤

同自從一位朝臣

太政大臣 闕

從一位 左大臣 朝臣

右大臣 正二位 朝臣

內大臣 正二位 兼行左近衛大將朝臣

無品 式部卿

正三位 行式部大輔

大議從三位 行左大辨

資時

資長

告柳本社奉

判書如右符到奉行

式部少輔從五位下宣成

大錄

少錄

少錄

享保八年二月一日

太政官符石見國

應奉神位記事

納韓櫃志合

使從四位下行侍從卜部朝臣兼雄

神部志人

從志人

從樹人

充夫二人

充夫五人



右正二位行權大納言源朝臣通躬宣奉  
勅為奉

柿木大明神位託差件等

人宛使登遣者國宜兼知

依益施行仍須國牧宰察

齊擇定便所共使者共披

讀宣命然後國司請取

位託奉之不得違失符列

奉行

正四位上行左中弁藤原朝臣

從五位上主殿頭兼左大史小槻宿禰判

天保八年二月一日

奉

（正久保町大藏屋敷）

地下位記，樣

藤原朝臣義方

右可正六位下

敷性理恪勤功効克宣

慶賞收鐘仰惟令典宜

按采級用光朝章可依

前件主者施行

天保四年七月九日

式部卿 關

正三位行式部大輔臣菅原朝臣為之

正三位下行式部少輔臣菅原朝臣長熙

正二位行權大納言臣

家學

行奉

宣



粹弘

寶堅

基豐

寶萬

通和

雅光

忠杏

齊敬

公久

寶輝

經剛

正二位行權大納言兼皇太后宮大夫臣

正二位行權大納言臣

正二位行權兼皇太后宮權大夫臣

正二位行權大納言臣

正二位行權大納言臣

兼右近衛大将臣

從二位行權大納言臣

正二位行權中納言臣

正二位行權中納言臣

正二位行權中納言臣

正二位行權中納言臣

從二位行權中納言兼右衛門督臣

從二位行權中納言臣

從二位行權中納言臣

從二位行權中納言臣

正三位

權中納言從三位臣

制吉如右請奉

制附外施行謹言

天保四年七月九日

制可

月最時從四位下行大外記兼掃部頭造酒正助中寮中辨正房

師德



園自從一位朝臣

太政大臣

從一位行左大臣朝臣

從一位行右大臣朝臣

內大臣正二位兼行左近衛大將朝臣

式部卿

正三位行式刀大輔

左議正四位上兼行左大辨

告正六位下藤原朝臣義方奉

制書如右并到奉行

正五位下行式部少輔

大錄常久

長熙

12 (卷八) 藤原朝臣

大錄常久

少錄胤典

天保四年七月九日

仁和寬字時代一位記

時平大臣始加元服叙正五位下位記狀

兼位藤原朝臣時平 攝贈納言

中務卿兼封魯碎彊侍中咨雨時平名父之子功臣之嫡及

此良辰加汝元服鳳毛醜似爵命宜殊万依前件主者施行

仁和二年正月二日

兼位藤原朝臣忠平

紀納言

右可正五位下

中務先功名臣後胤遺種冰唯悅當時之器量亦感最日之



附此宜授爵命用異寔宋可依前件主者施行

寬平七年八月二十一日

蔭孫藤原朝臣忠教

可叙從五位下母子内親王睦時中

應德三年二月廿九日

藏人左衛門權佐藤原朝臣奉

凡位記ハ高辻家記録ニ武家ト雖位三位以上ハ式位記曰

位以下ハ皆無位記ナリ又三位以上ハ必ス新作ノ文四位

以下ハ例状ヲ用フトアリ

位記裝束ノ事

位記ノ裝束ハ内記式ニ三位以上ハ白紙ノ表白吳綾ノ裡紫羅

綺ノ帶黃楊ノ軸親王ノ位記ハ白紙ノ表白吳綾ノ裡紫羅

標綠綾ノ裡羅綺ノ帶赤木ノ軸五位以上ハ白紙白標ノ帶厚

朴ノ軸位ニ準ニ律師ハ五位ニ準ス位記ノ料ノ雜物色紙羅綾綺帛帶軸等其用フハキノ數ヲ量

リ奏文ヲ作リ内侍ニ進ノ奏覽畢ノ羅綺帛帶ノ即チ内侍所

ヨリ之ヲ行フ色紙ハ藏人所ニ受テ赤木黃楊厚朴等ノ軸ハ

内匠寮ニ受リ

柱史抄ニ後世位記代ヲ用フル例アリト云ハリ即チ延喜二

十一年正月廿五日未朝ハ舍人敷忠加元服即仰令授從五位

下參入侍所令右近衛少將伊衡唱叙之伊衡進跪御前階展紙

叙之上是ハ舍卒位記ヲ書スル能ハズ地紙ヲ以テ位記ノ代

トナス云々

愚按ハハ位記ハ古来前記ノ如ク鄭重ノ者ニシテ其位造



儀式ニ亦嚴格ナリシモ後世ニ至リ位記ハ只武家ニ於テ  
僅ニ行ハレ公卿ハ嘗テ之ヲ賜ハリタルモノアルコトナ  
レ正平ノ初ノ是利尊氏大ニ其志ヲ得ルニ及ビ肆ニ膏腴ノ  
地ヲ割キ以テ己ニ有テ下ニ公卿ノ食邑ヲ奪ヒ以テ其功臣  
ニ賞與シ而シテ供御缺乏ト云ハ取テ之ヲ觀ニスル未朝憲  
益々振ハス徳川幕府ニ及テハ特ニ朝廷供御ノ額ヲ定メ公  
卿食録ノ制ヲ立テ京都所司代ヲシテ之ヲ監督セシムルニ  
至リ遂ニ玉帛ノ事式微儀々雅々儀式ノ典敗糴修マラス其  
位記ノ如キモ裝束ノ様ヲ整ツコト能ハス實ニ此費用ヲ亦  
スルノ費ナキヲ如何ニテ肅章之ヲ勸解由小踏資生子爵ニ  
聞ク後世ハ之ヲ略シ職事ヨリ口宣按ヲ以テ宣命スルコト  
ナレリト其口宣按トハ前ニ示シノル如ク鼠色ノ奉書紙

ニ先ツ上卿姓納言ト書シ以テ辛跡月日ヲ書シ其下一字ヲ  
離シテ宣旨ト書シ次ニ辛跡ヨリニ字程下ケ叙スハキ人ノ  
姓名ヲ書シ進階ナレハ位姓名ヲ書ス又次ニ一字下ケテ宣  
叙何位ト書シ未行ニ藏人頭并姓名奉ト書スモノヲ云フ其  
宣下ノ當日攝家及清華ハ職事ヨリ諸大夫ヲ禁中ニ召出シ  
之ヲ侍達ス以下ハ使ヲ以テ其家ニ送付ス後又之ヲ畧シ捨  
又ラ以テ叙位セラルコトナレリ其文トハ議奏ヨリ宣  
下ノコトヲ職事ニ下知スレハ職事ハ即チ奉書紙ニ某何位  
宣下候御重々々仍チ申入候也恐惶謹言ト認メ之ヲ卷キ旅  
リ其上ヲ結フ如クニ捨リタルモノヲ捨文トハ云フナリ而  
シテ之ヲ使ニ托シ本人ノ家ニ送付ス本人直ニ某何位宣下  
謹ニ畧リ兼候也恐惶謹言ト認メ職事ハ差出スモノトス然



レ氏一位ノハ口宣按ヲ用テ檢文ハ用ヒタルノ例ナリト  
ス但レ武家社家等ニハ必ス正式ノ位記ヲ賜フモノトス  
叙位奉宣ノ事附拜賀ノ事

嵯峨天皇弘仁元年始メ藏人所ヲ置キ殿上ニ侍レ機密文書  
ヲ掌ラシム  
職原抄ニ曰ク太政官中少納言ハ昔者重職ナリ三人必ス侍  
從ヲ兼テ拾遺補欠ノ任ナリ弘仁ノ御宇藏人所ヲ置クノ後  
其職掌侍中ニ遷ル仍テ少納言ハ只餘印等ノ事ヲノシ掌ル  
其職太政官中務省ヲ兼マルナリ云々又外託ハ恒例臨時ノ公  
事除目叙位等ノ事奉行ノ官ナリ尤モ重職ナリ又中務省中  
内記ノ官アリ偶門中文筆ニ堪ル者之ニ任ス詔勅宣命ヲ

草スル故ナリ上下諸人ノ位記悉ク内記ノ奉行スル所ナリ  
故ニ中務ノ被官ト虽以別ニ内記局ト云フ  
爰ニ禮儀類典ヲ圖スルニ其第ニ十四卷叙位ノ部ニ於テ叙  
位奉宣ノ手續ヲ詳載セルモノヲ得メレハ尤ニ之ヲ寫シ以  
テ参考ニ備フ

薩戒記曰應永世三垂正日六日辛丑今日被<sub>レ</sub>行叙位昨日依<sub>レ</sub>御  
哀日延引也奉行左頭中將隆夏朝臣也予可<sub>レ</sub>參傳之由有<sub>レ</sub>其催  
仍<sub>レ</sub>天終刻著束帶<sub>ニ</sub>藤繪細劍<sub>ニ</sub>文帶<sub>ニ</sub>紺地<sub>ニ</sub>先<sub>ニ</sub>參院<sub>ニ</sub>先是頭中將參<sub>レ</sub>  
入於殿上遷書小紙紙草云々予正三位事欲<sub>レ</sub>申入之處已小紙  
紙決定畢云々不運之至也即奉<sub>レ</sub>御所<sub>ニ</sub>殿御盃<sub>ニ</sub>教<sub>レ</sub>猷<sub>ニ</sub>頭中將<sub>ニ</sub>書<sub>レ</sub>進  
小折紙草了先奉<sub>レ</sub>内<sub>ニ</sub>是内覽奉<sub>レ</sub>聞<sub>ニ</sub>撰定等<sub>ニ</sub>早<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>沙汰<sub>ニ</sub>之由依  
仰云々誓之<sub>ニ</sub>岡白<sub>ニ</sub>奉<sub>レ</sub>入<sub>レ</sub>付<sub>レ</sub>章室<sub>ニ</sub>中納言<sub>ニ</sub>宗<sub>ニ</sub>堂<sub>ニ</sub>被<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>出<sub>レ</sub>小紙<sub>ニ</sub>紙<sub>ニ</sub>上<sub>ニ</sub>皇



召中下給小批紙被仰曰造閱自早乃可有中決決之由可申者  
予於中門前相跪奉之申仰之肯閱自披見之被示曰房平可為  
叙晉不被載其由清書之時可書載之由可披露者即被退出予  
降地雖可致禮甚而深泥珠不便仍不及其儀其肯示付侍從番  
長了丑終刻予奉內干時未及申文內覽之依窮辱無為術立  
又女媧局方休息職事等西三等平臥此所演判許由文內覽閱  
向被候鬼同頭中將以下職事四人著小板敷藏人左右并資親  
由覽可有憚之由頭中將或不審而方里小站大納言不可憚之  
由被命仍各內覽之先例憚四人之條勿滿也或又不憚之由  
可憚一一起起內覽之次又奏聞如恒次於鬼同攬定藏人左右  
辨理經直取目六之近代申文教少或部民部左右衛門等申  
之又左右近衛府奏兵作藏人方之由內之進職事也其後任  
斷已未成有近代叙位奏聞攬定之時申文之故尋取之由  
職事奏聞攬定盛御魂箱置御座計也

此是久保町大藏所藏

六位藏人等無其器用故取此後則可有出御之由有其聞之處  
以今御睡眠終夜御火飲之故云云諸人惘然頭中將觀其事之  
由奏聞遂以天明日出之程可有出御之由頭中將示人人仍右  
大將清通既筆着新藤中納言藤光令予等看陣予等宜在門外  
納言相連着方里小路大納言自宣仁門外退歸俾立陣後是大  
納言後着陣而忘却故着陣下殿由所被示也頭中將降爰  
朝臣於奧座仰大將曰今日可有叙位儀一召仰諸司別退歸仰  
申式日被行時無之為六月之時可有召仰之由予凡諫之或說  
強式同下召仰之由但不可然之由見內記也  
次大將起座移着端座兼入崩於九袖內以死手取出之被直指  
召官人令鼓杖使被仰下可召大外記之由師勝朝臣着靴被仰之  
旨外記稱唯退出次又以官人召辨俊回奏上奉仰退歸此間因  
向起殿上座被着御前座見及也次藏人尤近將監藤原懷藤



二福十四 着靴之次 大将令官人召外記 檯大外記 中原師野  
着靴奉仰 退入林 筭文列三小 灰中 原師野 清原親 檯  
座出南一間 可被出南 經軒廊南壇 列三東二間 西儀也 共  
殿上 小 庭 等依 深 泥 也 柳 北 四 裡 兩 儀 之 時 用 軒 廊 而 先 納 言  
列 在 西 一 間 以 東 今 同 伴 同 稱 有 水 仍 寄 東 被 之 之 間 冬 該 列 之  
兩 下 殿 次 方 里 小 陸 大 納 言 出 宣 仁 門 東 行 進 之 右 大 將 東 方 次 新  
藤 中 納 言 起 座 進 之 東 納 言 東 方 軒 廊 東 一 次 手 揖 起 座 着 背 揖  
出 陣 南 一 間 東 行 經 納 言 後 入 軒 廊 東 一 間 東 方 立 南 殿 而 階 前  
揖 已 上 列 納 言 西 上 北 向 奉 議 南 上 西 面 也 次 外 記 捧 筭 文 列  
納 言 後 軒 廊 次 大 將 揖 不 揖 離 列 頗 北 行 之 西 揖 器 之 狀 見 遣 外  
記 方 外 記 奉 進 奉 筭 大 將 指 筭 取 筭 外 記 退 次 大 將 揖 時 離 離  
列 經 軒 廊 北 壇 上 並 孔 雀 間 代 壇 上 等 用 祿 相 從 昇 高 遣 戶 奉 進  
入 東 庭 南 妻 戶 置 筭 更 出 妻 戶 自 黃 子 着 座 大 將 置 筭 退 之 間 大

以 (堂久傳町 大聖廟)

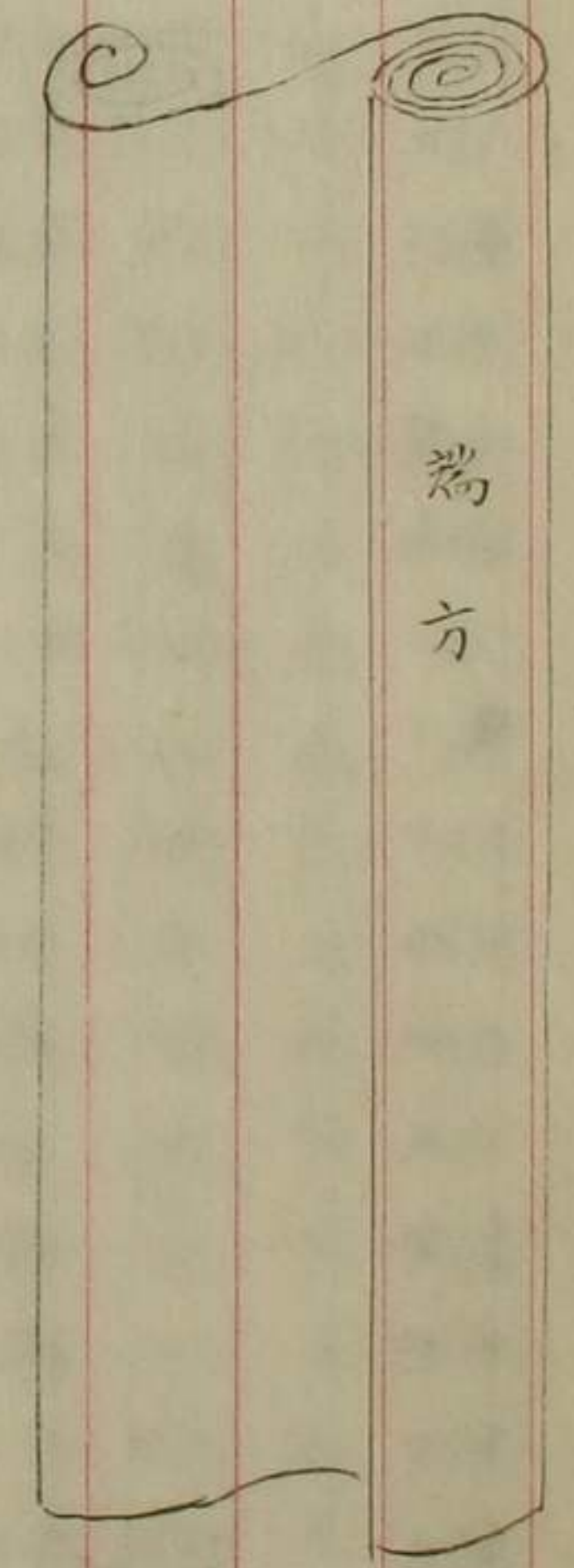
納言揖離列 經大将跡進立 大臣列 程 不 揖 見遣外記 方外記  
未進 奉筭 大納言指 筭 頗 見 筭 納 物 取 筭 外 記 復 列 揖 之 後 大 納  
言 捧 筭 揖 納 言 曰 離 列 奉 上 置 筭 着 座 其 儀 如 大 將 次 新 藤 中  
納 言 進 之 如 大 納 言 取 筭 揖 予 同 時 奉 揖 納 言 離 列 之 後 則 予 揖  
離 列 經 納 言 等 跡 於 軒 廊 北 壇 上 納 言 取 筭 揖 上 並 孔 雀 間 代  
壇 上 於 庭 中 西 行 入 無 名 門 出 神 仙 門 北 所 於 否 脫 下 揖 昇 背 脫  
腕 着 殿 上 基 盤 向 揖 即 又 揖 起 座 於 上 戶 經 黃 子 入 東 庭 南 妻  
戶 着 座 有 揖 錄 于 筭 文 之 公 卿 之 儀 法 先 朝 如 此 或 不 着 殿 上  
筭 又 列 在 軒 廊 而 予 納 言 之 儀 法 今 日 景 西 脚 休 止 於 深 泥 猶  
日 按 之 晴 儀 納 言 之 儀 法 今 日 景 西 脚 休 止 於 深 泥 猶  
進 着 殿 次 閑 白 起 座 予 退 是 經 黃 子 入 額 間 被 着 同 座 予 退 之 後  
大将 桐 待 御 皆 不 起 座 仍 閑 白 被 氣 色 主 上 御 座 次 大将 揖 起 座  
經 黃 子 奉 進 入 御 座 間 跪 第一 圓 座 今 夜 同 座 二 枚 敷 東 方 同 御







已上大概如此也。志中樣：言也。未言字以前。如此押重。能  
 抑升。置座前。開墨漆。筆書後。取為氣色。被書之。雖不知可否。  
 今日之儀。大概注之。此大將又  
 見存。仍受口。似之人也。  
 此後。原火植。衝更。國自前藏人辨。後國。納言前在教。予前藏人懷



12 (卷之八) 大藏經

藤等也。次勸孟頭中將藏人辨等也。次大將申事由。召予也。只日予  
 揖地。坐。下長押。經。蓋子。冬進。入高間。於大將。坐下方。不揖候。大將  
 仰云。院。宮。脚。申。文。取。遣。也。但。遣。字。不。令。聞。予。如。唯。起。十。左。迴。退。歸。於  
 殿上。尋。頭。中。將。係。奉。行。向。之。也。云。令。予。取。出。納。被。授。予。院。並。光。範  
 門院。已上。兩。通。也。予。取。副。易。院。脚。申。文。在。右。方。女。院。脚。申。文。在。左  
 欲。未。進。之。處。後。國。曰。暫。不。可。持。卷。之。由。國。自。被。命。之。也。者。仍。予。於  
 南。寺。戶。西。邊。伺。見。脚。前。之。儀。前。方。里。小。路。大。納。言。賜。孟。復。座。先。置  
 孟。於。前。後。易。揖。此。儀。如。何。先。遣。所。為。賜。孟。不。揖。之。酒。有。孟。之。由。也。  
 引。寄。襪。取。孟。如。飲。後。次。人。取。易。云。今。日。大。納。言。所。為。又。有。子。納  
 飲。後。日。見。花。小。內。大。臣。之。託。之。處。作。持。孟。淺。揖。又。持。易。之。時。席。揖  
 是。故。穿。又。口。傳。云。云。如。此。託。者。可。有。持。放。然。而。不。持。孟。也。今。日。大  
 納。言。所。為。遠。對。端。云。云。如。此。託。者。可。有。持。放。然。而。不。持。孟。也。今。日。大  
 終。寄。襪。取。孟。投。兼。納。言。藤。納。言。受。之。相。待。予。着。座。氣。色。也。仍。予。經  
 蓋。子。冬。進。入。高。間。跪。候。大。將。被。叙。式。爵。之。間。予。相。待。也。各。任。了。後



大將顧座下，仍予取御申文二通於左手，以右手取筭置右方。帶  
之人置於右，不取御申文於左右手取，直以文下方為大將方，亦  
通一皮 奏之。大將自袖下被取之，予取筭不揖。先予於此所稱  
度，故不可揖 逆行，退歸，自起，坐。予入北第一間簾中，召藏人  
由，兄御記 為，召大進，取，回，自，座，自，簾，下，指，入，退下。主上先是入御也。  
大次，予叙之。召男共召藏人，辨後，回，召入內，一加階，物文，後，回，持  
大入內，物文，有懸，中一加階，不候之由。次叙，臨時，輩，被叙，四位之  
程，藤納言，起，登，退，予一身，在座，各叙之。被披，見，薄，間，予起，在，退，先  
是，回，自，自，登，盤，所，方，退，出，給，也。仍被奏，薄，之時，頭，中，將，候，廊，中，退，  
給，濟，是，回，自，仰，歎，次，回，予，候，下，侍，邊，殿，上，看，伺，見，殿，上，儀，新，藤，中  
納言，兼，着，端，座，中，程，次，大將，取，副，爵，於，為，入，上，戶，着，與，在，小，登，盤  
程，夫座大臣府也，如何，又帝 同，納言，納言，揖，起，登，進，奇，大將，置，薄，  
後，既，御，椅子，前，候，之，飲，可，尋，同

於登盤上被授之。納言取，副爵，於，為，下，背，脫，着，香，出，神，仙，無，名，等  
門，向，陣，血，被，着，端，座。置，薄，於，座，前，次，予，外，出，宣，仁，門，着，攝，教，稱，如  
次，納言，召，官人，令，敷，紙，便，仰，可，召，外，記，之，由，中原，師，野，着，紙，納言  
門，諸，司，次，次，有，被，仰，事，召，中，啓，輔，不，奏，者，可，用，代，之，由，款，次，雖，召  
辨，不，候，仍，大，位，史，參，上，大，不，款，可，依，仰，事，也。納言，被，仰，座，可，令，敷  
之，由，掃，部，寮，敷，座，於，軒，節，南，間，上，卿，不，被，召，仰，仍，大，內，記，於，宣，仁  
門，外，示，之，令，敷，改，北，間，次，內，記，在，敷，南，間，寮，官，等，未，練，近，日，皆，此  
此，次，納言，以，官人，召，大，內，記，為，清，朝，臣，着，紙，納言，故，薄，內，記，中，不  
可，然，之，由，退，歸，未，曾，同，事，也。大，內，記，令，持，位，記，於，少，內，記，着，座，少  
內，記，同，着，在，次，納言，召，大，內，記，內，記，內，起，登，參，進，賜，薄，後，座，一  
入，眼，了，這，上，之，先，是，納言，召，官人，召，外，記，令，置，視，續，紙，於，夫，識，座  
前，次，納言，目，予，予，退，在，是。御，記，日，不，論，座，上，下，起 跪，膝，行，着，上，第







筆用之也。或懷中筆於陣後遺外託令入管云云。仍爭先爭動  
紙一故既紙中卷之卷上下也。遺之故。以同手取續紙。以左右手  
如易持之。頗后向在下方也。置紙於座前。聊刷衣裳。亦置紙於帕  
上。以左手捕之。以右手取懸紙端。方與方卷取之。以左手暫置  
續紙於座前。有左以左右手卷面。懸紙之細卷。以右手橫入。現舊下  
方。道按板下。不交左手。抑又於食指與中指之次。取續紙。有卷者  
為用意也。可卷。逆之紙。以統一板。所并懸紙。是若故實。外託之所  
為也。又今一卷流。或如帶。不卷之。以紙裹。為面卷也。初流紙。不  
尤大切也。仍於伴一卷。看置座前也。只一卷。卷與之也。領  
持。揚取本卷。方於左手。以右手自端。終持之。及半之後。置右方於  
昨上。此後。然置帖上。卷終。逆之畢。以在右手自與卷。逆之如帶。卷  
了。置硯筆。事座之間。或又自  
柳先終紙。次擱墨。深筆者。御前儀也。先擱墨。深筆。次卷。逆。紙。者

為陣儀之由。中山內大臣殿。御說之由。注云。曰。大朝言。經房卿說  
然而。是兩說之由。同所被仰也。云。尤可。就彼儀也。但永方。元辛  
七月五日。御說。用如此也。  
次取簿。如易持之。頗后向在下方。付帖。披之。其儀如前。以右手自  
端。卷。寄之。至。回位。程。不披之。攝。押。付之。披。與。方。不。及。從。回。位。下。篇  
之。程。折。逆。以。與。卷。入。下。以。左。手。押。伴。折。目。入。右。手。於。下。取。卷。頗。引  
披。當。中。程。置。之。為。軸。代。是。准。除。目。大。同。作。法。也。抑。至。從。回。位。上。篇  
披。置。之。事。非。齋。託。說。而。今。按。也。廣。展。置。之。時。若。忘。卻。回。位。五。位。篇  
書。過。之。事。在。之。存。伴。怖。畏。省。朦。昧。之。身。如。此。所。披。置。也。以。從。回。位  
上。以。上。可。書。四。位。篇。之。故。也。次。以。左。右。手。聊。押。出。置。硯。方。與。硯  
管。字。頭。置。之。書。五。位。篇。之。儀。可。在。知。也。次。取。所。卷。逆。之。紙。以。左  
手。如。易。持。之。以。右。手。取。易。取。副。之。紙。在。氣。色。干。上。卿。言。目。許。以



右手取簿取場右以同手取筆在現方之筆也願向座下方書之先式下  
名也或隨書突點於簿也是為不直書之先代下名也但不必然  
然仍今度不突點校以多又如也式部下名書之畢書年月日  
放錄紙放之至上方以左手取端紙下方併餘紙暫置座前以左  
右手卷下下名置座前次書兵部下名先卷下簿於四位程置之  
其儀同前可用式部下名餘紙也而纜一兩枚也仍目今一卷續  
紙本自以裏為面仍不及卷其儀同式部書之畢整餘紙不及及入  
視簿內左方兵部下名聊有書失事仍取式部統於座前切齊統  
加之也非珠作法凡於書失者改之事非雜事也次取簿於座前  
以左右手自與卷下直之至端五六寸之後以右手取端打雙九手  
上卷了置座前次披下下名先式部如元卷之以兵部下名卷籠  
式部下名袖內置之次以右手調現簿直之筆如元押下座下方初如

次取副簿並下名於簿近代人或入懷中或以簿懷中取副下名  
簿下下名重持之若獨相許於易然而依日記說兩卷共取副簿也  
並可取副款可舉知退右之揖起座矣追如初上卿前小揖  
以左手取簿置左方也次置簿並下名於前先取下名付帖取  
直迴以文首進之次取簿進之如前取簿納言置座前之後予小揖  
頗上卿被披見了取氣色之後退也而上卿先取簿氣色起  
候納言如形被披見了予示書可被校合之由納言被微咳如何  
抑予欲起納言前之時被示曰下名銘可被注式兵等字款予答  
依家說不書之由凡不可存件銘之由也術園自基平公記所見  
深心脚託也納言見了取簿被目予予退右是願膝行後本座須  
更退足揖起座退出以同納言行請印事先是可奏入眼位託款  
而直請印太不審家說已中務輔不參以藏人左近將監原為治



為代。去年如此件代。或用五位。少將或用外記。史之。抑入內者。書簿之時。或叙從五位下。第<sub>二</sub>次<sub>三</sub>也。或叙最末。今日最末被書之。於下名者。以入內者。雖為從下書。五位篇之例也。是雖外階。本自已為五位之故也。又豐原村秋。大神景藤者。各元將監也。外記注。式仍予書。載式部下名了。此事依不審。同納言無被答旨。大內記。向之。示曰。今日無叙。留宣下者。可為式也者。後日披見達幸御記之處。平治元年正月七日。兵叙人之內。藏人兵衛尉持盛列也。以之恩之本。自為武官者。雖不叙。留猶可注。兵下名歟。其上又左右近府奏。兵外衛等。皆叙爵之後。雖不帶武官。本為武官之故。載兵下名也。然者。尤彼兩人。可為兵也。大內記申狀頗不當。然而上卿不被成敗之間。予又強不申所存。任簿次第清書了。後日大外記師勝朝臣來之時。予談此事曰。予所命尤有謂。由記申狀甚

不可然。隨又觀本國友見外衛爵也。曰。可為兵叙人歟。云々。此事相違。予所存其故。去身依外衛。皆叙爵。仍為兵叙人。其後非叙留儀者。今年入內之時。可為式歟。但此旨不示大內記。

後日一見。故殿御記之處。或舊簿叙從三位人。肩注式兵字。是若以其叙從三位之人。稱載下名。四位歟。凡下名者。書載四位之物也。但此事不得他。所見。又進身無身儀。可勘知之事也。只又可書當時。四位已下也。可奪知之也。但予今按四位。奉議叙三位者。必不可書。下名。本自為公卿之故也。其自非奉議。四位叙三位之人。亦可書。下名歟。今日賴繼。重有房字。可書。下名歟。而內記不立次第。仍不書。下名如何。右大將所書之簿。凡付等。非注。名下置二寸許大字。書之。未嘗見也。為令。知內記。立次第之體。所注之也。簿書樣為後注之。



正二位

藤原朝臣家俊

正三位

藤原朝臣公賴

藤原朝臣雅也

藤原朝臣持忠

加茂朝臣在方

藤原朝臣教有

藤原朝臣親繼

藤原朝臣實熙

從三位

藤原朝臣賴純

源朝臣重有

藤原朝臣房平

正四位下

藤原朝臣為之

小槻翁祿内名

從四位上

紀朝臣行文

藤原朝臣雅行

源朝臣貞雅

藤原朝臣實教

從四位下

藤原朝臣永豐



正五位下

式五 小槻 宿禰 賴胤

式六 紀 朝臣 俊 豐

式五 藤原朝臣 隆 達

從五位上

式六 藤原朝臣 公 有

式七 藤原朝臣 放 雅

式八 藤原朝臣 基 繁

式九 安倍朝臣 有 季

從五位下

式一 忠 實 玉 寬 和 御 後

式十 藤原朝臣 仲 久 式 部

式一 源 朝臣 正 弘 式 部

式十二 源 朝臣 直 豐 式

式十三 藤原朝臣 親 宗 式

式十四 橘 朝臣 以 久 式

式十五 藤原朝臣 長 春 院 當 年 御 給

式十六 藤原朝臣 時 致 光 蔭 門 院 當 年 御 給

式十七 藤原朝臣 則 富 諸 司

式十八 三 善 朝臣 久 兼 諸 司

式七 平 朝臣 有 久 左 近

式八 中原朝臣 豐 久 右 近

式九 源 朝臣 信 安 外 衛

式十 藤原朝臣 友 定



式九 菅原朝臣継長

式十 小槻宿禰卿興

式十一 豐原朝臣村秋樂人

式十二 大神朝臣景藤樂人

式十三 槻木 連國友 入内

應永三十年正月六日

下名書 也。引於陣所書也。是清吉也。

式下名 自<sub>上</sub>置<sub>一</sub>寸五分。書四位字為書引入。加除之時。行同。廣置<sub>之</sub>。但片六位篇者。不然。只字字。可書也。

四位

小槻宿禰内名

紀 朝臣行文

五位

藤原朝臣永豐

小槻宿禰賴胤

紀 朝臣俊豐

藤原朝臣致雅

藤原朝臣基繁

安部朝臣有季

槻木 連國友

四世無位

忠更王

六位

藤原仲久

源 正弘



源直豐

藤原親宗

橘以久

藤原長春

藤原時致

藤原則富

三善久兼

菅原繼長

小槻御興

豐原村秋

大神景藤

應永三十年正月六日

兵下名

四位

藤原朝臣為之

藤原朝臣推之

源朝臣貞雅

藤原朝臣實教

五位

藤原朝臣隆遠

藤原朝臣公有

六位

平有久

中原豐久



源 信安

藤原友定

應永二十年正月六日

於六位階者不書尸。是。本位為六位之故云々。抑又所盛申一文之  
御硯蓋置。置。御座之樣。當時藏人等不覺悟。又頭中將所存不令  
明。仍同。方里。小踏。大納言。依。血相命。置之。云々。件置樣。為。後。同  
之。後置樣。不可然也。除目之時。  
因白被命。仍置。北方。云々。

御座

○因白

○大臣

御座

御座

大概如此也。此儀相違。多所存。盛申。又於御硯蓋。重硯管上。可置  
御座上。欽。本。御見。應保御託者也。可助託之。  
謹。按。之。古。末。叙。位。奉。宣。事。一。薩。成。託。載。不。此。所。如。之。  
儀式。嚴格。之。之。典。例。正。確。之。之。世。之。速。達。之。從。之。次。第。之。  
相。異。之。之。而。之。之。僅。之。存。之。之。之。之。之。所謂。告。朔。之。氣。之。之。過。



以下以明治維新ノ変革ニ至ル今勘解田小路子爵資生蔵  
人高辻子爵脩長田口正六位等ノ説ヲ聞キ茲  
ニ其畧式ヲ記セシメ叙位奉宣ノ事ハ上下ノ階級ヲ論セズ  
皆之ヲ藏人所及ヒ内記ニ一任セリ其地ノ於テハ  
外記亦其ル属サテ藏人所ニハ四位ノ藏人頭ニ名五位ノ藏  
人ニ名六位ノ藏人四名ニ之ヲ取扱ヒ来レリ古来藏人ヲ  
總稱シテ職事ト云フ皆奉宣事務ヲ掌ルモノトス凡ク叙位  
ノ論議ニニ様アリ一ヲ推叙ト稱シ一ヲ競望ト稱ス其推叙  
トハ上肯ヲ以テ叙セラルモ、ヲ云ヒ其競望トハ下ヨリ  
中文ヲ捧テ出願スルモノヲ云フ但レ推叙ニハ多ク其理  
由即チ仰セ詞ヲ付セラルモ、ニシテ今ノ特旨ト云フ辭  
令ヲ添、ラル、ニ同レ故ニ此推叙ハ猶ホ今ノ特旨叙位ノ

ゴトキモ、ヲ云ヒ其中中文トハ資格ノ先例ニ照シ父祖畧叙  
ノ年限ヲ計ニ其位階ヲ列記シ及フベキ文字ヲ望テ競望ノ職  
事ノ向テ出願スルモノヲ云フ其中中文ノ位階各一家ニ於テ一様  
ナラズト雖モ大体ノ皆奉宣折シ又極ニ三ツニ折リ掛ケ  
内ニ父祖ノ位階其進級ノ年月ヲ記シ而シテ自今ノ現位及  
ヒ望ハ所ノ位階ヲ擬シ別紙ヲ以テ此ノ上ノ包ニ其上下ヲ  
折リ掛キ其處ヨリ十文字掛キニ親世燃リヲ加ヘ之ヲ録シ  
テ封ヲナシ表ニ位姓名ヲ記シ職事ニ出スナリ職事ハ則ケ  
之ヲ纏ノ論議ノ例月ニ至リ同封ニテ内記ノ奉限任官ノ順  
序及ヒ父祖ノ先例ヲ計ハ考權ヲ行フ其進階ノ次第ハ從五  
位下初叙爵從五位上加級正五位下加級越、ニ從四位下ニ  
叙スルヲ例トス從四位上加級正四位下加級越、ニ從三位



二叙之而ノ正三位從二位正三位從一位ニ進ハテ例トス但  
シ其從一位ヲ極位トシ稱スルナリ何トナレハ正一位ハ現  
存者ニ授ハラザルノ例ナレハナリ右進級ノ例ニ照レ其奉  
限ヲ計ハ至尚ト着ルヘキモノヲ纏メ之ヲ議奏ニ出ス議奏  
ハ之ヲ内奏ニ勅同ノ手統ヲ為ス勅同トシ其中文ヲ撰家ニ  
下シ叙否如何ノ御下同式ヲ云フ但レ此ノ御使ハ藏人之ヲ  
勤ムルヲ例トス各撰家ニシテ異議ナキ時ハ且ク天裁ヲ仰  
テ心レテ口源ニ又吉面ニ其由ヲ認メ談奏ヲ經テ奉答ス談  
奏茲ニ於テ公然上奏ニ裁下ヲ請フ上乃ク御几照ヲ賜テ向  
テ之ヲ后藏人所ニ下知ス職事即チ口宣格ヲ作テ之ヲ大内記  
ニ回付ニ位記ヲ造テレハ大内記ハ即チ上卿ニ向テ其傳宣  
ノ時日ヲ伺定ニ而メ少納言ニ白テ請印ノ事ヲ下知レ及外

記方ノ召使ニ恒例ノ事ヲ下知ス其手統ハ下ニ託スルヲ以  
テ爰ニハ之ヲ畧スヘシ是レヲ公卿方叙位奉宣ハ略例トス  
然ルニ近代ハ別ニ位記ヲ造ラズ且其口宣格ノ之ヲ以テ叙  
位ニ来リシルヲ又之ヲ省略シ職事ヨリ檢テト云フモノヲ  
發シ叙位セラル、ウト、ナレリ 檢文ノ事ハ前ニ然レ其  
之ヲ認明セリ  
從一位ニハ少檢テ之ヲ用ヒス必ス口宣格ヲ以テ藏人自ラ  
其家ニ至リ傳達シ来レリ但レ從一位ニハ別ニ拜賀ノ禮ア  
リ之レ清華又下ノ例ナリトス其撰家ニ在リテハ往代ハ元  
服ノ月朔叙從五位下ナリ中古以降ハ正五位下又ハ從五位  
上ニ叙セラレ其正五位下ニ叙セラレタル時ハ日月中ニ一  
階ヲ越ハ從四位上ニ進シ其從五位上ニ叙セラレタル日ハ  
又ニ階ヲ越ハ從四位下ニ進シ其後各月中又ハ今年中正四



位下從三位ニ進階ス又ニ階ヲ越エルノ例アリ上階ノ後ハ  
正ニ位從二位正二位等連年或ハ中一章或ハ二三章ヲ經テ  
進ム又一章ノ例ナシ或ハ推叙ノ事アリ或ハ申交ヲ俸ルコ  
トアリ其從一位ハ大臣ニ任セラルタル後必ス推叙セラル  
ル極位ニ限リ拜賀ノ礼ヲ行フ又攝家ノ初叙位ニハ叙位使  
アリ其他ハナレ宣下ノ當日職事ハ其諸大夫ヲ禁中ニ呼出  
シ拜叙ノ事ヲ傳宣スル例ナリ又拜賀ノ礼トハ攝家清華及  
シ其他モ從一位ニ叙セラルタル時ニ限リモトス但位官  
ニアリテハ未議已上皆崇禮アリ攝家拜賀ノ途中ハ其行列  
ニ少將中將ノ殿上人先驅ス清華ノ大臣拜賀ノ時モ亦同  
其他ノ地下ノ官人先驅ス而シテ清涼殿ニ上リ御座ニ向テ  
拜舞スハナリ其拜舞トハ感喜極テ手ノ舞セ之ヲ踏テ知ラ

ナルノ状ヲ為スノ意ニシテ正ニテ立ニ体ヲ屈シ首ヲ垂レ  
篤ク供進而シテ午ヲ顛ハシテ左ヨリ右ニ三度体ヲ廻施ス  
ルヲ云フ  
順徳天皇建保六年十月原實朝右大臣ト為リ上皇ヨリ大臣  
拜賀ノ請具ヲ實朝ニ賜フ兼久元年春正月二十七日實朝任  
大臣ノ礼ヲ行フ鶴岡ノ相ニ謁シ遂ニ大恩ヲ謝ス其儀甚ノ  
備レリ天朝ヨリ遣ス所ノ卿大夫之ニ陪從ス時ニ公曉ノ變  
アリ拜賀ノ礼其重キコト此ノ如シニ位以下ハ納言家ニ至  
リ礼詞ヲ述ワルニ止ルモトス  
地下ノ叙位ハ外記ノ主管ニ屬シ其中文ニ亦押小路家ヲ經  
テ職事ニ出シ而シテ議奏ヨリ上奏裁可ノ上職事ニ下知シ  
而シテ口宣格ヲ式部ノ史生ニ授ケ位號ヲ造ラシム其請印



ハ夫位以下ハ以訥言ノ亭ニ於テ支殿外印ヲ持夫ニ外訥、  
史生之ニ捺印ス而シテ大外訥、自亭又ハ藏人、自亭ニ奉  
人ヲ呼出シ之ヲ傳宣ス然レ凡是ト亦近代ハ公卿ト同様口  
宣按、之ニシテ位訥ハ授ケラレヌ又神官僧侶、如キハ始  
メ口宣按ヲ授ケ後必又位訥ヲ授ケラル、ヲ例トス而シテ  
僧侶、宣旨ニ限リ壬生武、官發ニ於テ之ヲ違ヘルヲ例ト  
ス

叙位陣宣下式ノ事

高辻家所藏、訥録ヲ根據トシ近代行ハレタル所、例ニ就  
キ勅解由小路子爵資山口藩昌等、説明ヲ聽キ其式場出座  
諸公卿及ヒ太役、地下官人等行ノ所、次第ヲ誌スコト  
尤、如レ但レ以下各種、宣下式皆曰レ

陣トハ紫宸殿、東ニアル左近衛、陣坐ヲ云フ叙位ノ式  
ニ於テハ必ス此ノ座ヲ用ユルヲ例トス式目ニハ圓白太政  
大臣左右大臣内大臣奉議大中訥言等圖、如ク檯柱ヲ境以  
レシ階級、次第ヲ以テ之ヲ圖リ座ヲ為ス之ヲ陣、座ト謂  
フ茲ニ其次第ヲ記スルハ圓白太政大臣宣任門ニ面シ南  
方第一檯柱、後方ヲ首席トシ之ニ着キ次ニ左右大臣内  
大臣等、又其左方即チ北方ノ檯柱ニ副ヒ順序ニ短政ヲ為  
シ列座ス而シテ訥言方ハ圓白、右方即チ南方第一ノ柱  
ヨリ宣任門、方ハ一筋ニ階級ニ依リ列座ス其形狀ハ則チ  
圓白ヲ中央ニ各大臣ト訥言ト相對スル如ク、之ニ陣座ヲ  
造ルナリ此ノ訥言方ヲ儀仗、公卿ト云ヒ又之ヲ左近衛、  
陣ト稱ス其公卿中一人順番ヲ以テ勅命ヲ奉リ當日ノ式場



ヲ奉行スル者之ヲ上卿ト云フ即ケ口宣按ニ記名スル上卿  
何カトアルモ是レナリ此ノ上卿ハ納言方ノ上席ニシテ  
園自ノ右方ニ坐シ當日ノ事ヲ指揮ス少納言ハ主鈴ヲ從ヒ  
軒廊ニ居テ大内記少内記亦官及大外記官等ノ數政門外右  
方ノ所ニ坐シ外記及上史生ハ其左方ニ居テ而シテ津守官人  
ハ宿任門外ニ立テ上卿ノ傳令使ヲ勤ム而シテ清涼殿ノ閣下  
ニ藏人所出ノ門アリ藏人其門ニ立ツ而シテ大内記ニ屬ス  
ル并記方ニ召使少納言侍并侍等亦數政門外ニ於テ各其上  
官ノ末席ニ侍シ又此ノ式場ノ準備ニ於テハ大藏省主殿寮  
出納寮等備興ルモノトシテ此ノ大藏主殿掃部出納ト  
云フモ是レ實ニ其體アルニテ恰モ官名ノ如クニシテ  
相傳ノ家筋ナリテ家格トナシ居ル然レモ其大藏省ヲ持

家ノ其主人必ス大藏大忌ニ任セラレ主殿寮掃部寮見亦  
家傳ニ依テ主殿助掃部助等ニ任セラレ而シテ出納ノ家  
其人必ス内藏頭ニ任セラル例ナリトス又是等當日ノ職  
務ハ即ケ大藏省其器拘ヲ主殿寮其敷設ヲ掃部寮其酒揮ヲ  
出納寮其調度品終結物ヲ掌シ但シ行事所ノ者其全体ニ付  
之助成ニ向ヒテ官方ノ使部之ニ付偏ス其之ヲ僅ク時々  
上卿ノ先ノ職事ニ下知ス職事ハ大内記ニ下知レ大内記ハ  
乃シ外記方官方藏人方即ケ出納ノ藏人方トシテ藏人ニ下知ス之  
ヲ三管トシテ去リ然レトキハ各其當局ノ官人ニ下知ス大内  
令ニ載ス所ニ依リテ任シ其一班ヲ維持シテルモ此ノ事  
所謂告朔ノ餼羊ト云フニ過キサハナリ  
右準備ノ大体ハ其ノ如ク而シテ請印及ヒ宣下ノ手続ハ親



五位記宣下式、所ニ於ニ奉曲之ヲ誌ス一ニ  
清息宣下式、事

五位以上、位記、諸家執奏神階社家諸司諸家門跡諸大夫  
武家等、請印、皆内印御璽ヲニシテ火納言、序ニ於ニ之  
ヲ催ニ其位記、大内記之ヲ書ス向レテ中務大火輔、内氣  
同大内記、下知ニ依、皆内少納言、序ニ向、少内記ニ亦  
兼内大内記、命ニ依、大内記、序ニ奉リ位記ヲ請ニ向ニ  
テ正使、為、外記方、召使ヲ副使トシ武家ニ於ニ位記ヲ  
少納言、序ニ持奉ス主鈴、兼内少納言、下知ニ依、皆内  
内印櫃ヲ火納言、序ニ奉持ニ而レテ御璽ニ内ニテ少納言  
ニ進、皆内少納言、直ニ位記ニ捺印ス此請印、時中務大  
火輔、内良人位記請印ノ儀ヲ檢知ス右儀式終、皆内少内記

及ニ召使ハ之ヲ執奏或ハ職事、序ニ持奉ニ傳達、事ニ及  
フ之ヲ具大傳、身統トナス  
六位位下、位記、諸家執奏社家諸司諸家門跡諸大夫等請  
印、ハ外印太政官印ニシテ亦少納言、序ニ於ニ之ヲ催、ニ  
トス大外記、兼内少納言、命ニ依、外記史生已下文殿  
等諸役負、催ニ置、而レテ當日文殿、外印櫃ヲ持テ孰レ  
モ大外記ニ從、少納言、序ニ向、大外記、其請印ノ儀ヲ  
檢知ス但レ式部、史生、省、命ニ依、兼内其位記ヲ認、  
置、當内大少輔何レカ、序ニ持奉ニ而レテ式部、省、掌或  
ハ官、召使、兼内外記局、下知ニ依、大少輔何レカ、序  
ニ向、位記ヲ請、少納言、序ニ持奉、是ニ於ニ外記局、  
史生、之ニ捺印ニ畢、省、掌或ハ官、召使、ハ其位記ヲ執奏



家又職事持參

天保四年七月九日正六位下位記付催已方事

六位地下位記請印御順香乘度候也

七月十日為定

新卒少納言殿

大明年十一月中刻六位地下位記請命之

事可令商量然候也

七月十日為定

菅山納言殿

位記使御用候間明年十一月中刻有聲

代出勤之事可有御下知候事

七月十日式部大輔殿

使者

右任官錄名當十

青位記御用候間今日中史生被相權

可有御入未候事

七月十日式部大輔殿

使者

右若口式部錄名當十

初位宣下式事

神位記陣宣下由柱史抄見

宣下十其次第則左如

某神社宮司より小折紙を以て申請スル所ハ位階ヲ記スル

奏券ヲ經由シ職事ハ具狀ニ然ル時ハ職事ハ之ヲ議奏ニ移







天照 享保八年二月一日掃本人鷹、神跡ヲ授、正一位、  
叙、レ、  
上卿着伏座、  
次職事來仰、  
次上卿移着端座、  
次上卿令官人數賦、  
次上卿以官人召大内記内記夫賦上卿仰、  
次内記持奉宣命草位託等、  
次上卿披見畢賜内記内記候小度、  
奏聞、  
職事、  
次上卿復伏座仰可清書由於内記、

此同取出位  
記置在方

次内記持奉清書、  
次上卿披見畢内記退入、  
次上卿以官人召將監將監候小度、  
次上卿仰請印事將監退入、  
次掃部寮立於軒廊、  
次少納言主鈴將監等列立於下、  
次上卿以官人召外記仰云中務輔候哉外記申候由上卿仰云  
召外記稱唯退入、  
次中務大輔來進職上卿取出、  
賜位託輔、  
次少納言捧印、  
次中務輔退上位託寫於上卿、  
次上卿披見畢中務輔退入、

中務輔之  
下卷

宣命置右



次上卿以官人召内託賜宣命位託人若内託候小庭

上卿執弓搗代人以職事

奏聞内託以先内覽

職事 奏聞畢返賜以

次上卿後座内託置筵進入

次上卿以官人召外託同使未否亦託申候之由上卿仰云召世

使未載

次上卿賜宣命位託於使賜之建出

次上卿以官人召内託返賜筵

次上卿令官人輟職

次上卿起座

宣命

12 (三久保町 大塚橋)

天皇我詔肯示柿木神乃前示申賜位申之時波千載神歷

止毛禮適波而世示宗止之公私示敬礼座神靈德福高久神社

猶卓示依利又珠示前所念行又正一位不御冠示上奉刺紫

奉流因茲從四位下行轉從下即朝臣兼雄字差使又御位託

于令捧持又奉出周及狀于周食天天下平安示詞林繁榮示

天皇朝起于常盤聖盤示護賜比助賜止信申賜止波又申

享保八年二月一日

親五位託宣下式事

親三位託多ヲ受シ津宣下ノモトヲ然レトモ時ニ或

ハ消息宣下ノ事アリ

津宣下ノ時ニ於テハ奉行職事ヨリ勅肯ヲ奉レ周向以下列

禮ニハ公卿ニ向テ封書又ハ檢文ヲ以テ何日某親王何面







政門外ニ出テ少内記ヲシテ位記ノ覽ヲ奉セシハ大内記  
之ヲ受テ又入テ上卿ノ檢閱ニ供シ而シテ上卿ニ從テ清涼  
殿ニ向テ進ム上卿ハ南殿ノ階下ヨリ大内記ハ馳道ヲ横切  
リ弓場代<sup>イ</sup>ノ所ニ詣リ上卿ハ爲テ正シテ直立シ大内記ハ其  
尤ニシテ少シク後方ニ相フ此ノ時藏人所ヨリ五位ノ藏人  
出テ大内記ヨリ位記ノ覽ヲ受取リ直ニ清涼殿ニ昇リ  
養聞裁可ク得テ殿ヲ下リ之ヲ大内記ニ授ク大内記ハ乃チ  
上卿ニ從テ前路ヲ經テ下ル上卿ハ陣ニ着キ大内記ハ軒廊  
ニ入り位記ヲ少納言ニ授ク又敷政門外ニ出テ襦ヲ拭キテ  
侍<sup>ウ</sup>軒廊ニハ豫メ請印ノ臺ヲ設ケ少納言及ヒ主鈴爰ニ御  
璽ヲ奉ス少納言即チ御璽ヲ奉ス少納言即チ御璽ヲ鈴之  
テ上卿ニ奉ス上卿ニ奉ス上卿又其位記ヲ負檢之ニ覽ヲ

ニ納メ大内記ヲ召ス大内記ハ襦ヲ下ニ拭キ夫進ス上卿即  
チ位記ヲ授ク大内記之ヲ受テ退去ニ敷政門外ニ出テ覽ヲ  
手召使ニ授ク授クヨリ爲シ持テ此帯剣ヲ宿ヲ兼ツル人直ニ某  
宮ニ向テ從<sup>レ</sup>使<sup>レ</sup>之ヲ申宣下ニ儀式トナス大内記直ニ所  
當<sup>ル</sup>其藏ニ  
先ツ某宮ニ至ルハ内々ノ方ニ入リ諸大夫ヲ以テ恐悦ヲ甲  
シ位記ヲ持奉ル<sup>ル</sup>者ヲ告ク式始ルノ時襦ヲ下ニ<sup>レ</sup>而<sup>レ</sup>又襦  
ヲ下<sup>ル</sup>是<sup>レ</sup>其櫛下ニ至リ襦中門ヨリ入リ廊ノ櫛下ニ一揖シ  
次ニ易テ懷中ニ次ニ覽ヲ取リ奉ス之復殿ニ<sup>レ</sup>昇リ廊ノ薄  
帟ニ着キ筥ヲ座前ニ置キ先ツ爲テ取リ一揖シ次ニ是ヲ直  
ニ襦ヲ終テ待テ家司座前ニ来ル時又是ヲ直シ爲テ懷中ニ  
置テ持テ薄帟ヲ降シ筥ヲ俵位記ヲ家司ニ授ク向シテ爲テ



取リ程。獲ニ是ヲ直ニ振テ終ル須臾ニシテ家司空葛ヲ持  
参ス此ノ時又藤原ヲ降リ葛ヲ懐中ニ空葛ヲ取リ更ニ座ニ  
獲レ葛ヲ取リ一揖シ又葛ヲ懐中ニ葛ヲ持テ座ヲ起テ奉陪  
ヲ經テ廊ヲ降リ檀下ニ於テ背ヲ着テ空葛ヲ召使ニ授ケ葛  
ヲ取リ一揖シ順路中門ヲ出テ振テ退去ス從者使歸宅ノ  
後使ヲ以テ覽筭ヲ少内託ル身ニ返ス但其式式ニ嚴格ニ或  
ハ忌儀ニ之ヲ行フト雖其大儀ハ概不此ノ如シ  
消息宣下ノ時、於テハ奉行職事ハ兼日大内託テ禁中ニ拘  
キ某親王何旨ニ叙スル位託ル事覚悟アルハ一且ツ何日何  
刻某宮ニ持参ス一キ肯ヲ下知ス大内託ハ乃々上卿ノ下知  
ヲ持テズレテ請印ノ事ヲ催シ先ツ切紙ヲ以テ請印順番ノ  
少納言ヲ第一、少納言ニ向テ其回答ヲ得テ直ニ又切紙ヲ

以テ順番ノ少納言ニ向テ何日何刻親王位託請印ノ事商量  
アルハ一キ肯ヲ下知ス少納言ハ即ケ至鈴ニ向ケ當日何刻内  
仰櫃ヲ奉レ此ノ專ニ奉合ス一キ肯ヲ下知ス大内託ハ又切  
紙ヲ以テ中務大少輔ニ向ケ親王位託請印ヲ某少納言ノ序  
ニ催マ一キ肯ヲ告テ同時ニ中務省ニ出頭ス一キ肯ヲ下知ス向  
レテ使ヲ以テ外託方忌使ノ上首ニ何日何刻何早時親王  
位託御用ニ付先ノ序ニ出頭アルハ一且ツ請印託ル後其位  
託ヲ直ニ某宮ニ持参スルニ依リ束帯シテ隨從致ス一キ肯  
ヲ下知ス若シ又使部ヲ具ツル時ニ於テハ不使ハ必ス隨從  
使部ハ明宣ニ依リ之使ヲ以テ大外託ニ向ケ何日何刻某宮  
ニ奉向ニ付使部一人差出ナルハ一キ肯ヲ下知ス大外託ハ即  
チ書面ヲ以テ其旨ヲ上首ニ使部ニ達ス大内託ハ又使ヲ以



テ一臈、小内記ニ向テ覽筥一合ヲ差出ヌヘキ旨ヲ傳テ豫  
メ之ヲ受取ル内記局ニテハ、内記局ニテハ、ト云フニテ、其實少  
於テ大内記ニ柱記ヲ造ルモノトス。當月刻限石使ハ大内記  
ノ亭ニ向テ大内記ノ御衣ヲ着テ、御會位記ヲ授テ石使ハ其  
位記ヲ奉テテ少納言ノ亭ニ向テ少納言ノ亭ニハ、主給ハ向  
論中啓大少輔ノ内一人中務省一人太合向テテ、主給御要ニ  
向テテ納言之ヲ鈴ニ中務大少輔、内之ヲ檢知ス右請印記  
之ヲ覽筥ニ納レ石使ハ授テ石使ハ其位記ヲ又大内記ノ  
亭ニ待帰ル一同少納言ノ亭ヲ退散ス此ノ時大内記ハ尋常  
ノ束帯ニ着更ハ、前ヲ持テ帯剣ノ者ヲ石使ヲ從テ、石使ハ從者  
ニ持テ、某宮ニ向テテ下前儀、如シ此ノ位記ノ式位記ナリ  
入道親五位記宣下式ノ事

入道親五位亦陣宣下消息宣下兩様ニ行ケル末レリ向レニ  
其式依テ依親王ト異ナル所ナリ然レバ此位記ハ流部位記  
ニシテ、文体大ニ異ナルモノトス。文体ハ別但シ入道親王ハ  
初叙ニ當リニテ位記狀必ク新添ヲ用テ、故ニ例狀ナシ其手  
統、如キハ依親王ニ同シ  
内親五位記宣下式ノ事  
内親五位記ハ多ク消息宣下ノモノトス是レハ兼日議奏又  
ハ奉行職事ヲ以テ大内記ニ向テ脚内意アリ且ツ當日位記  
ヲ御在所ニ持入スルコトモ同時ニ御付ケラル以下手統皆  
前ニ同シ只其異ナル所ハ御在所ニ持入、上式、如ク行フ  
モ其家司ニ核テ向テテ家司ハ之ヲ受取リ、ハ上簾下ヨリ、  
女房ニ付レ之ヲ奉スルモノ之レナリ但シ内親五位記ノ式



位記ニシテ例状アリ別ニ

女五位記宣下式ノ事

女五位記ハ是レ亦消息宣下ナリ上卿ノ下知ニ先クナリ

本行職事ヲ以テ大内記ニ向テ御内意アリ大内記ハ先ツ切

紙ヲ以テ女房位記請印順着ノ者ヲ第一ノ少納言ニ同ク以

下前儀ト異ナシトナシ共ニ位記ハ后部位記トス而シテ

其状ハ必ク新作ヲ用フ

撰國家位記宣下式ノ事

申宣下ノ時ハ親王ノ儀式ト見エ異ナリ所ナシ而シテ消息

宣下ノ時ハ特ニ上卿ヨリ大内記ニ向テ下知アリ大内記ハ

先ツ切紙ヲ以テ堂上位記請印ノ事ヲ第一ノ少納言ニ同ク

其儀ニ方ニ申渡及ニ其母ニ持参スルノ式等親王ノ例ニ同

位記ナリ而シテ位記多クハ新作ヲ用フルノ例ナレバ時ニ

或ハ例状ヲ記スルコトナリ

華族以下堂上ヲ位記宣下式ノ事

是レハ消息宣下ニシテ上卿ヨリ大内記ニ下知スルニナリ

又外記方ノ召使ニ何ヨ何刻共ノ方ニ出頭アルヘキ旨ヲ通

レ向レテ位記ヲ書キ置クニトス當日刻限ニ至リ少内記

召使等大内記ノ母ニ向テ大内記ハ狩衣ヲ着テ向會位記ヲ

少内記ニ授ク少内記ハ之ヲ覽見ニ納メ順着少納言ノ母ニ

持参ス中務大少輔ノ内共請印ヲ檢知ニ申會合ス記ヲ叙人



序又職事ノ序ニ持奏ス上卿ノ下而シテ其傳達方ニ於  
テハ別般ノ儀式ナシ少内記ノ右傳達終リ之ヲ大内記ニ報  
ス此ノ位記ノ式位記トス而シテ位記杖多クハ新作ヲ用フ  
ト雖凡人品ニ依リテハ例状ヲ用フルコトアリ  
將軍家位記宣下式ノ事  
是モ亦陣宣下ノ事アリ然ルハ親王國家ノ式ニ  
多クハ是レ消息宣下ニシテ兼テ武家傳奏又ハ奉行ヲ以テ  
大内記ノ御内意アリ大内記ノ上卿ノ下知ヲ待スレテ直ニ  
少納言ニ伺テ同東叙位位記請印ノ事商量テハ一ノ旨ヲ下  
知ニ以下午統前例ノ如クト雖凡兼テ同覽寫ヲ少内記ニ取  
寄テ置キ向レテ外記方ノ召使上着ノ方ニ當同出頭ノ事

12 (芝久保町大藏所)

下知ノ是ニ於テ袖寄小奉書四ツヲ以テ傳奏又ハ奉行ニ附  
シ殿下ニ窺ヒ向レテ右位記ヲ書ス此ノ位記ノ料紙ハ總五  
枚同書料之ヲ調進ス流例ナリ  
當日朝限只使ハ大内記ノ序ニ伺フ大内記ハ狩衣ヲ着ニ位  
記ヲ覽寫ニ納レ之ヲ授ク召使ハ受テ是ヲ少納言ニ傳  
持奏シ請印ヲ受テ此ノ時中務大少輔ノ内之ヲ檢知シ中務  
將會合ス請印既シハ少納言ノ即テ召使ヲシテ武家傳奏ノ  
内覽ヲ乞ヒシノ向レテ召使ニ召使ニ授クル例トス但シ  
上卿ノ下知ニ從ヒ傳奏又ハ奉行ノ序ニ持奏セシム此ノ位  
記ハ必ズ新作ナリ同東ノ叙位者ニ於テハ御  
武家卿ニ家以下位記宣下式ノ事  
近代ハ必ズ消息宣下トス其儀同東ニ於テ歲々各諸大知及











下位記請印、事高量、ル、キ、肯、下、知、又、少、納、言、即、主  
終、下、終、紙、何、日、何、刻、印、書、持、夫、一、キ、下、知、又、大、内  
記、中、終、大、少、輔、何、日、何、刻、請、印、果、少、納、言、序、催  
ス、ハ、キ、肯、ウ、告、ク、又、使、者、ウ、以、シ、中、終、有、シ、出、頭、肯、下、知、  
而、シ、シ、少、内、記、及、外、記、方、召、使、何、日、何、刻、自、序、出、頭、致  
カ、キ、肯、ウ、下、知、而、シ、位、記、ヲ、造、リ、置、ク、ト、ス  
當、日、刻、限、少、内、記、召、使、大、内、記、序、何、フ、大、内、記、持、衣、ヲ  
着、シ、而、會、位、記、少、内、記、核、ウ、而、シ、果、少、納、言、序、持、衣、  
ス、キ、ウ、命、ス、且、ウ、上、卿、下、知、依、シ、誰、レ、序、持、衣、ス、キ  
肯、ウ、申、合、少、内、記、召、使、ヲ、從、少、納、言、序、之、持、衣、  
少、納、言、請、印、事、行、而、シ、中、終、大、少、輔、内、之、檢、知  
又、右、畢、ル、後、少、内、記、召、使、ヲ、從、果、序、持、衣、而、シ、使

112 (2) 大内記 大納言

宣、本人、ウ、時、出、之、ウ、傳、達、ス  
地下、内、人、高、異、ナル、ト、雖、氏、皆、是、式、位、記、ナリ、其、例、状、人  
高、依、シ、殊、異、アリ、即、テ、明、法、憲、法、状、筆、精、心、状、書、紙、蒙、状、奇、漢  
音、状、陰、陽、帆、天、状、天、文、教、法、状、特、命、錢、状、漏、刻、銅、史、状、鑿、炭、軒、状  
猶、史、刻、符、状、是、也、不レ、所、レ、詞、心、一、時、此、餘、人、高、以、悉、シ  
恪、勤、狀、ヲ、用、ル、ル、例、ト、ス、但、シ、何、状、雖、氏、加、級、特、校、字  
ハ、申、字、ニ、作、リ、辭、字、ハ、級、字、ニ、作、ル  
地下、ト、雖、氏、御、位、ニ、昇、レ、ハ、必、ク、新、作、状、ヲ、用、フ、又、回、位、已、下、ト  
雖、氏、御、七、詞、心、ア、レ、ト、キ、ハ、必、ク、新、作、状、ヲ、用、フ、ハ、ナ、リ、又、上、御  
倉、ニ、於、ケ、ル、者、ハ、近、來、必、ク、新、作、ナ、リ、ト、ス  
紫、束、標、ハ、内、記、式、ニ、曰、ク、三、巳、以、上、ハ、縹、紙、緋、標、新、綺、帶、黃、楊  
軸、五、位、已、上、ハ、白、紙、白、標、帛、帶、象、卦、軸、今、様、亦、同、シ



社家位記宣下式ノ事

桶直祝神主之類然レテ社家ト謂フ

社家ノ位記ニ亦式位記ニシテ地下位記ノ順序ト異ナル所

ナレ紫束モ亦同ニ

諸大夫位記宣下式ノ事

諸大夫ノ位記ニ亦社家ニ異ナル所ナリト雖且品輪王寺宮

諸大夫ニ於テハ武家ノ如ク小礼アリ向レテ諸大夫トハ四

位以下ノ稱ナリト雖且此ノ輩ノ御位ニ昇ルモ尚且大夫ヲ

稱スルナリ

女御位記宣下式ノ事

女御位記ノ多クハ是レ消息宣下ナリ但シ女御ノ叙位ハ臨

時ニ行ハルニモナレハ其時上御ヨリ奉行職事ヲ禁中ニ

始メ何ヨリ女御叙位ハ記ノ事覚悟アルヘク尚且何類其位記

ヲ禁中ニ持来スヘキ旨ヲ申シ渡ナル大田記ハ例ノ如ク其

順序ヲ昇ヘ衣冠指袴ヲ着ケ而シテ召使ノ少納言ノ序ヨリ

位記ヲ持還ルヲ待ク之ヲ持メテ從ヘテ直ニ夫内尚非藏人

ヲ隨ヘ非藏人口ニ向ツ安メ所ニ於テ召使ハ覽筈ヲ奉レ非

藏人ニ渡シ非藏人ニ之ヲ奉行職事ニ渡ス奉行職事ハ盤盤

所ニ於テ此ノ位記ヲ女房ニ傳達スレハ女房ハ女御ノ方ニ

持来ス云々

大内記ハ職事ニ渡シ空筈ニ返ルヲ着テ退出ス但シ其位記

ニ亦式位記ナリ紫束ノ様亦同ニ

女院位記近代此ノ位記アルヲ聞カス若シ共ノ位記アル



八則々女御位記、例、如、ト、六、

北政所位記宣下式、事

是レモ亦消息宣下ニシテ其手統ハ前例ニ同レ石使ハ少納言ノ亭ヨリ位記ヲ捧還ルヲ侍々石使ヲ從一東帯レテ同白ノ亭ニ向テ同白亭ノ儀式、一ニ親ムニ於ケルトキ、如シ但ス此ノ位記ハ式位記ニシテ其状ハ必ク新作ヲ用ケルモトトス

宮女位記宣下式、事

是レモ亦消息宣下ナリ統テ例、如ク、ニシテ位記状ハ必ク新作ヲ用ケル但シ御乳母命婦等ニハ並ニ例状アリ

天武天皇紀ニ壬申歲七月高市社辛狹社村屋社、三神ハ天

皇ノ御軍ヲ遊ニ賜ケ奉リ給ヘルヲ有レシカバ軍記ヲ後勅

レテ三神之品ニ登進シ以テ祠ル爲上アリ是ハ唯其社ハ

所刊ヲ上セ給ヘルヲ同クレ凡是レ即々位階ヲ奉リ給フ

事、起原ナルハ如シ

孝謙天皇天平勝安元年十二月八幡大神ニ一高比咩神ニ二

品ヲ奉ラレシルヲ是レ始メナリ而シテ二年正月ノ處ニ一

高八幡大神ニ封八百戸位四八十町ヲ二高比咩神ニ封六百

戸位四六十町ヲ充テ奉ルトアリ録令ヲ授ナルニ凡ソ食封

名一高八百戸ニ高六百戸ト見ハ又同令ニ一高八十町ニ品

六十町トアル制ノ數ニ合一リ是ヨリ後稱徳天皇天平神護

二年四月甲辰伊豫國伊曾乃神大山積神並ニ從四位上ヲ授

テ神戶各五烟ヲ充テ伊豫神野同神並ニ從五位下ヲ授テ神



戸各ニ烟トアリコリ次トニ此ノ改行ハレタリ  
神階ニ四品以上ヲ四階トシ五位以上十回階正六位上一階  
統ニ十五階トス但シ是レハ令外ノ御制ト知ラレバニ神位  
ハ各神ノ尊卑ヲ令ウモ、ニシテ人臣ノ位階トハ全ク別ナ  
ハス、トマ内記式ニ神位式、勅無位某神、今奉授某位ト下リ  
奉ノ字ヲ加ヘシハニモ王臣ノ位ト異ナレト知ハ  
ヘシ今云フ伊勢ノ大神宮ヲ始メ奉リ純國日前國懸大神ト  
トニ位階ヲ授ケ奉ラレ、トヤキモ、ハ至ニ尊ク御座ス故  
ナリ蓋シ親王ノ四品ハ諸臣ノ一位ヨリモ尊キヲ知レハ神  
階ハ五位六位ハ親王ノ一品ヨリモ尊カレハ然レハ一品  
親王ノ一位大臣ニテ六位ノ神ヲ保ルハ、敬ニ聖ニ遠フコト  
ナルコトナズ

12 (正六位上)

文徳天皇仁壽元年正月庚子天下ノ諸臣ニ詔シテ有位無位  
ヲ論セズ正六位上ニ叙スレ見エレ氏安時ノ太政省管符ヲ考  
コルニ高ニ等差アリ既ニ五位ニナリ給ハハ神ニハ更ニ一  
階ヲ加ヘ而シテ無位ノ神ニハ新ニ六位ヲ授ケ奉ラレシ  
モ、ト知ラレ其後追々加級ノ典アリニ後ニ正六位上ノ  
神ノ正六位上ニ成給ヒ從四位下ノ神ハ皆正一位ニ成給ヘ  
ルナリ

任子蔭叙ノ事

附華族嫡子叙位ノ起因

慶雲文武天皇二年十二月藤原不比等ノ第二子房前ヲ從五位下  
ニ叙ス

選叙令ヲ按スルニ凡ソ位ヲ授ケ者皆年二十五以上ヲ限ル







流ヲ式家ト稱シ、質・禱ヲ京卷ト稱ス、南家式家京家、子孫ハ共ニ極ハス、獨ニ房前ノ子孫ニ於テ藤氏ノ威權大ニ勝服セリ之ヲ北家ト云フ、然レ凡房前ハ固ト不比等ノ二男トハヲ以テ藤氏ノ嫡流ト認ム、ハヲ得ケルニ房前ノ初叙位ハ長男武智磨ニ前メテ、ハヲ以テ之ヲ考ツレハ、藤子任子ノ間係アリテ別ニ存スルモノ、アハカ當時ノ順序ハ未ナ之ヲ詳カニスルコト能ハス、  
九條家ノ系譜ヲ閱スルニ房前ノ從五位下ニ叙セラレタルハ正ニ二十四才ノ時ニアリ、又内膳ハ天應元年十月二十六才ニシテ從五位下良房ハ天長五年正月二十六才ニシテ從五位下トアリ、是レ皆藤子叙位ノ例ニ依テ叙セラレタルモノトス、又是經ハ仁壽二年正月十七才ニシテ藏人ニ任ヤラ

12 (正) 實錄 大藏院

ルナルニ藤原ニ依テ無位ナリトアリ、而シテ齊衡元年十月ニ至リ、待從ニ任セラレ、初メニ從五位下ニ叙ヌ、又忠平ハ寛平七年八月初ニ正五位下ニ叙ス、時ニ十六才トアリ、此ノ時代ニテ藤子ノ刻度及テ考選ノ法漸ク衰ハルニ至リ、以テ又師輔ハ建長元年九月十六才ニシテ從五位下ニ叙ス、中宮ノ簾子トアリ、通長ハ天元三年正月從五位下時ニ十五才、又輔通ハ長保五年二月正五位下時ニ十二才、而シテ長保ノ歲次ヲ寛弘長和ト云フ、冠位通考ニ曰ク考選ノ改ハ寛弘長和ニ至リ、全ク察シナリト云フ、時藤原氏ノ勢力ハ廟堂之上肩ヲ並ツルモノナリ、初ニテ羣貴ノ寵光ハ獨リ之ヲ專シレリ、以テ如此然レ、凡他ノ國風ニ亦藤子任子ノ制ニ依リ、自然ニ世襲ノ官ヲ為シ、公卿ノ家格是ニ於テ年成ル家格既ニ成リ、身分



從ヲ重クハハルハラヌ是即ノ公卿ノ嫡子ノ初叙ト雖  
凡勅授ノ位即々從五位以上ナラサルヘカラストナリル  
コトハ蓋シ勢ハ已ルハラサルモノアリテ存スヘシ向シ  
テ諸侯ノ嫡子モ亦此ノ權衡ヨリ推シ移リ初叙ニ從五位下  
ヲ授テラハルコトナリルハ又疑フ所ナカレバ故ニ  
後世公卿諸侯ノ嫡子ニシテ初叙皆五位ナルハ因襲ノ久シ  
キ其何レノ時代ヨリ行ヒレタムカヲ弁明スル能ハスト雖  
凡前陳ノ如ク實ニ寛弘長和ノ頃ナリ例ヲ同キク欲執レシ  
心ヲモ草族ノ嫡子ハ無官ニシテ叙位セラルルハ此ノ蔭子  
ノ例蓋シ其原因ト看テ大過ナカレハシ  
爰ニ近代迄ノ嫡子叙位ノ例ヲ聞クニ平公家ニテ元  
服前從五位下ニ叙シ向シテ其家格ニ依リニ三ノ叙位

12  
二五九條 大正十一年

フルモノアリ又六ノ叙位ニシテ元服ニ直ニ從五位上  
ニ進ビ又ニ章或ハ四章ニシテ次養ニ昇進ス其清華ハ二ノ  
ニシテ從五位下ニ叙シ元服前ニ正四位下ニ進ム例トス  
然ルニ攝家ニ於テハ元服前ニ決シテ叙位セラルルコト  
ナシ但シ元服ノ節初ニ從五位上ニ叙シ少將ニ任シ忽ニシ  
テ四位忽ニシテ三位トナリ一ノ章ニ三度モ昇進シテ中將  
ニ昇ルヲ例トス  
諸侯ニテアリテ平大名ハ元服即々乘出レト稱スル時從王  
位下ニ叙ス向シテ徳川幕府ノ家門連枝及ヒ十石以上ノ  
嫡子ハ元服シテ從五位下ニ叙シ即日從四位下侍從ニ叙位  
シ向シテ從四位上少將ニ進ムモノ任セシテアリ是レ公  
卿中攝家清華ノ家格ト其權衡ヲ執リシモノナルカ如シ







大神ヲ五鈴ノ川上ニ鎮座スルニ當ル日別、六世大若子  
良義為磯部河以東段令、飯野多氣、地ヲ畝シ以テ神領トス  
仍テ之ヲ神國ト名ツケ、糸川、一主領ヲ國ト稱シ、トル猶有尔  
、鳥墓ニ神廳ヲ置キ大若子ヲ神國造並ニ大神主ニ任セリ  
レ、皇仁天皇以下大同、是レ度會氏ノ神官ニ奉仕セリ、源由  
ナリ  
旌眩天皇廿二年太神主大佐々、六世河波良俊ノ子、勅ニ  
テ典受大神宮ヲ册波ノ與謝ヨリ小田原ニ遷マ、雄略天皇以  
帳籠則集、是ヨリ度會氏ハ大神宮宮置受大神宮外、二所ニ  
奉仕セリ  
武烈天皇大神主乙乃古、大佐々、男四人ニ姓神主ヲ賜フ  
事記ヲ四人分カス、長男ヲ示、敏波ニ男ヲ飛鳥三男ヲ水通四  
逸

12 (聖久傳則 大德皇御)

男ヲ小隻トシ、系譜是レ度會氏族中門流ヲ分ツ、始テ十  
リ  
孝德天皇、大政ヲ改新スルヤ大化二年國造以下凡ソ土地  
人民ヲ私有スル者ニ令シテ悉ク之ヲ官ニ遷シ天下ヲ奉テ  
郡縣ヲ制ニ歸セシメ、地方ノ政務ハ中央政所ヨリ國司其負  
ヲ流シ、期ヲ以テ交替ス、日本書紀、於テ神國亦鳥墓ノ神廳  
ヲ同ク大神官司、小田原ニ創メ、版式又神國ヲ割テ度會氏  
先、今郡多ニ郡ヲ置キ、大記、更ニ中央政府ヨリ中臣氏族ヲ大神  
官司ニ任シ、期日ヲ以テ交代ス、嘗ニ大化五年十リ、版式、意、版、意  
ヲ以テ度會氏族ハ奉テ大神主ニ任シ、神宮ノ祭祀ヲ管掌セ  
リ  
天武天皇元年大神主ヲ祭ニ稱宜ヲ置キ、度會氏族ヲ以テ之



任スル同ノ如シ乃ク飛鳥ノ五世也夫古ノ及ヒ見虫  
子ノ祿宜ニ任ス見虫ノシテ思受大神宮ニ奉任セシカ天武  
以下稱宜補任是ヨリニ宮身任ノ祿宜アリ既ニシテ祿宜志  
已夫子ノレ度會郡大領野守ヲ奉テ子トシ以テ其職ヲ襲ハ  
シハ祿宜志已夫以下皇字沙汰從是太神宮内ノ祿宜ハ野守  
ノ裔耶ノ荒木田神主氏代々之ニ任シ度會氏族ハ單ニ思受  
大神宮宗ノ祿宜ニ任スル例トスルニ至レリ  
度會氏族ノ度會神主ト稱スルハ和銅五年ニ姓度會神主ヲ  
賜ヒシヲ始メレシ至統日本紀祿宜補任後一條院天皇即位ニ  
當リ度會氏族ニ位一級ヲ賜ヒ共ノ位記ニ署シテ度會神主  
果トス自後是ヲ相稱スルニ至レリ  
武烈天皇ノ御代大神主乙乃古ノ男各門派ヲ立テ長男尔波

ノ流ヲ一門ト稱シニ男飛鳥ノ流ヲ二門ト稱シ三男水邊ノ  
流ヲ三門ト稱シ四男小季ノ流ヲ四門ト唱フ一門ニ以テ今其  
子孫ナシニ二門四門ノ二派ハ今ノ度會氏族是レナリ氏族中  
門派ヲ別クシ一ヲ神宮直代家ト稱シ松木久志本宮後檢預  
河崎ノ五家トシ一ヲ非直代地下檢祿直家ト稱シ多クハ直  
代家ノ分家トス其神宮直代家ト稱スル家ハ職正負ノ祿宜  
ニ任シ其職ハ勅旨ヲ以テ補ヒラレ位ハ從五位ヨリ次第ニ  
昇進シテ從二位ヲ先達トシ上女ヨリ今日ニ至ルバテ一モ  
他姓ヲ交エズ一家不幸ニシテ實子ノ時ハ之ヲ他ノ直代  
家ニ取リ藤原源平中臣等ノ貴姓ト雖氏之ヲ継承スルヲ許  
サレバテ命事志今松木氏但ノ華族ナリ  
伊勢内宮ノ荒木田氏族ハ垂仁天皇二十六年皇太神宮ヲ五



十餘川上ニ鎮座ス奉ルニ當リ度會姓ノ祖大君子ト荒木田姓  
ノ祖天見通命ト共ニ神宮ニ奉仕シ各稱宜ニ定メラルル惟  
天皇ニ十二年豐受太神宮ヲ丹波ヨリ伊勢ニ奉遷シ度會姓  
ヲ豐受大神宮ニ附シ稱宜ニ任セラル而シテ荒木田姓ハ依  
然皇太神宮ニ奉仕シ稱宜ノ如シ  
荒木田姓ノ遠祖ハ天見屋根命ニシテ天見通命ハ即ケ天見  
屋根命十二代ノ孫トス天見通命六代ノ孫ヲ寂上ト云フ成  
務天皇ノ御宇始メテ荒木田姓ヲ賜フ寂上十二代ノ孫ヲ石  
敷ト云フ之ヲ天見通十七代ノ孫トス而シテ天見通命ヨリ  
石敷ニ至ル世々稱宜ニ任シ来レバ石敷ニ男アリ長ク佐稱  
尊ト云ハ太神宮稱宜ニ任シ次ノ子孫ヲ一門ト稱ス次ヲ田  
長ト云ヒ同ク稱宜ニ任シ次ノ子孫ヲ二門ト稱ス

荒木田姓ノ系譜ヲ按フルニ天見通命ニ垂仁天皇御宇皇女  
倭姬命ヲ以テ御杖代トシ給ヘ皇太神ヲ所々ニ遷幸セシ  
給ヘ夕リ其時副從朝家ノ宣臣阿部武伴川別命和珥彥國彥  
命中臣大麻島命大伴武日命物部十千根命合テ五柱命ヲ使  
トシ終ニ五十餘川上ニ鎮座セシ給ヘ大麻島命孫天見通命  
ヲ以テ稱宜ニ定メ給ヘ事ハ延曆二十三年八月二十八日卷  
覽皇太神宮儀式帳ニ燦然タリ天見通命六代ノ孫寂上始メ  
テ荒木田姓ヲ賜フ寂上十一代ノ孫首磨始メテ連大跡位ノ級  
ヲ賜フ首磨ノ子石敷ニ男ヲ生シ長ク佐稱尊ト云ヒ次ヲ田  
長ト云フ佐稱尊ハ即ケ一門ノ祖ナリ其六代ノ孫ヲ最世ト  
云フ從テ從王位下ニ叙セラル祖ニ稱宜トハ例ノ如ク以下  
世々勅授ノ位記ヲ賜ヘ稱宜ニ勅補セラル



荒木田氏族、重代家ト稱スル者ハ一門ニ於テ沢田園田升  
向トス但ニ園田升向ニ各令家アリ又ニ門ニ於テ中川藤  
波佐八世末トス亦各令家アリ向シテ一門ノ宗家ヲ澤田ト  
トス是レ男爵ヲ授ケラレタル所以ナリニ門ニアリテハ其  
宗家トシテ中川氏ヲ推スト雖其正系ヲ云ハバ沢田氏ノ  
嫡流ニシテ血統連綿ノルモノニハ及ハサルナリ

補叙位ノ事

神宮編年雜事記ニ云ク補叙者正三位迄ニ被叙正補叙位共  
ニ正五位下ヨリ從四位下ニ越階ニ正四位上ヲ授位トス猶  
ホ加叙アルトキハ或ハ子孫ニ譲リ或ハ同姓ニ譲ルノ例勅  
免田記具ニ存ス云々  
推叙宜考記ニ云ク推叙宜ハ宇多天皇寛平九年十二月二十

二日被始置大官司檢非違使豐受太神宮推叙宜春彦被任  
也ト上古ノ推叙宜ハ補叙ト同ク宜旨ニテ補任セリタル  
故先ハ大内人ニ補ニ或ハ擬補叙宜ニ補ニ或ハ神祕官ノ官符  
ヲ蒙リ補叙代トナリ其宜旨ニテ推叙宜ニ補任セリ其例ニ  
補叙雅風是嘉祥三章三月九日任大内人兼平三章十二月四  
日兼任擬補叙宜同六章九月蒙本官符為補叙代天曆三章二月  
十三日宜旨為推叙宜ト然ルニ不レ以テ末トヨリカ推叙宜旨  
ヲ給ハシテ祭主ノ補任トナリ宜數モ數百人ニ及ハルニヨ  
リテ始トコワリテ先ハ推叙宜ニ補ニテ後ニ官符推叙宜内  
人物忌等ヲ兼ヌルコトナリテ是ヨリ後ハ推叙宜ハ内  
人物忌官符推叙宜ヲ兼サレハ受コリテ職掌ナク途官ノ  
時又公卿勅使御夫向ノ時奉勤アリ外ハ神事ニ供奉スル事



又云、権祿直ニ三種アリ、権祿直トバカリ、稱スルハ四位五  
位ニ叙シ、ル、権祿直ナリ、官符、権祿直ト稱スルハ、負數ニ人  
ア、國ヲ待テ、補任ニ職掌アル、権祿直ナリ、又擬符、祿直ト  
稱スルハ、六位ノ、権祿直ナリ、云々  
諸書ヲ按スルニ、正負、祿直位階、拜叙ノ、次第ハ、年齢ニ依テ、一  
様ナシ、ト、雖、凡、若、年、輩、ハ、從五位下ヲ以テ、祿直職ニ、轉、補  
セテ、レ、其、時、一級ニ、賜リ、テ、從五位上ニ、叙セテ、レ、順、年、ノ、加、階  
五ノ、年、中、三ヲ、經テ、正五位下ニ、叙セテ、レ、正五位上ヲ、叙カル  
、例ニ、テ、連々、五箇、年ヲ、經テ、正四位上ニ、叙セラル、但シ、五ノ  
年、ノ、余、御、代、始、ノ、恩、賜ニ、依テ、一階ヲ、賜フ、其、時、ハ、其、叙セテ、レ  
、年、コリ、五ノ、年ヲ、經テ、連々、一級ヲ、賜ハリ、テ、正四位上ニ、至

12 (正負、祿直、大正、昭和)

ル、又、公、卿、勅、使、奉、遣、ノ、御、時、或、ハ、古、代、祥、瑞、等、ニ、依リ、或、ハ、臨、時  
ニ、一級ヲ、賜フコト、見エ、柳、又、一、祿直ハ、從二位ヲ、以テ、先、途ト  
、ニ、祿直ト、正三位ヲ、以テ、先、途ト、シ、三、四、祿直ハ、從三位ヲ、以  
テ、先、途ト、シ、五、祿直以下、十、祿直ニ、至ル、ハ、正四位上ヲ、以テ  
先、途ト、ス、但シ、從三位ニ、叙セテ、レ、シ、輩ハ、正四位上ヲ、除キ、直  
ニ、上、階ヲ、賜フ、例、アリ  
、権祿直位階、拜叙ノ、次第ハ、四、代、祖、考ヲ、以テ、権祿直職ニ、補セ  
テ、レ、正六位上ヲ、賜フ、其、時、宗、爵ヲ、賜リ、テ、勿、論、從五位下ニ、叙  
セラル、然レ、テ、権祿直、後、人、數、ノ、中、五、人、ツ、毎、年、正、月、十、一、日  
、奏、事、始、ノ、加、級ヲ、給ハリ、テ、從五位上ニ、叙セテ、レ、連々、遂ニ、正  
四位上ヲ、先、途ト、ス、但シ、正五位上ヲ、除カレ、從四位下ニ、叙セ  
テ、ハ、例、ナリ、其、余、ハ、御、代、始、ノ、恩、賞ニ、依テ、正、負、祿直者、共ニ、



外一級ヲ賜フ然トモ既ニ從四位上ニ叙セラルレモ輩ハ之  
ヲ賜ハラス尚位正四位下以下、輩ハ件々時終ニ一階ヲ  
賜テ其例ナリ  
宣代權祿宜ハ祭主ヨリ權祿宜職ニ判補セラレ六位ヲ判授  
アリテ又四位ノ祖考ヲ注シ父祖ノ蔭ヲ以テ常爵ヲ願ヒコ  
宣授ヲ下ケレテ五位ニ叙セラルル荒木田氏人々譜代非譜代  
ノ區別アリ譜代ヲ宣代權官ト稱シ非譜代ヲ地下推任ト稱  
ス宣代ハ上古ヨリ累世正負祿宜ニ任セラレ家系連綿シテ  
絶ハサル家ノ子孫等ノ任シタル權祿宜ヲ謂フ此ノ權官ハ  
正負欠ケル時轉補セラレ候令三代四代乃至十代正負中絶  
シ權祿宜ノ位ニ継キ來ル條ニテモ轉補ヲエルナル是譜  
代連綿ノ神家ナレバナリ位級終章權祿宜トシテハ正四位上

正負中絶

ヲ宣下セラル正負ノ家号ハ七名即チ一門ニ於テハ沢田并  
而菊田二門ニ於テハ藤波佐八中川世木是レナリ  
僧侶官位ノ事  
推古天皇三十二年僧尼ヲ仇テ祖又ヲ改ツ者アリ詔シテ請  
寺ニ索ノ僧尼ノ法ニ違ハ者ハ將ニ重ク之ヲ深セントス而  
濟ノ僧上表シテ其大惡ヲ深レ而シテ其餘ヲ赦カント請フ  
之ヲ聽ク是ニ於テ始メテ詔シテ僧正僧都ノ官ヲ置キ僧ノ  
觀勅ヲ以テ僧正ト爲シ鞍部德積ヲ以テ僧都トシ僧尼ヲ  
檢校シ具サシキヲ造リ僧ノ度スルノ故ヲ録セシム是ノ時  
既ニ孝和十六所僧八百十六人尼五百六十九人ナリ  
天武天皇十二年僧正僧都律師ヲ置キ天下ノ僧尼ヲ統治ス  
ト律師ノ官蓋シ此ニ始メ高野天皇二年十月詔シテ特ニ一



階ヲ正一位、上ニ置キ法五位ト云フ之ヲ道鏡ニ賜ヒ百官  
ヲシテ礼拝セシムル此ノ日僧圖興ニ法臣位ヲ授ケ而シテ僧  
尼ノ度牒ハ皆道鏡ノ印ヲ用ケ先仁帝ノ時ニ至リ法部省ノ  
印ニ被ス淳仁天皇天平室字四年良弁慈訓等奏請ニ四位十  
三階ヲ判シ以テ三学六宗ヲ授キ十三階中ニ就キハ三色師  
位及ヒ大法師位ハ勅授位託式ニ准シ自外ノ階ハ奉授位託  
式ニ准セシト勅シテ其言ヲ採用スト之ニ僧位ハ始メナリ  
四位ハ統記ノ考證ニ石原氏曰ク入位任位滿位法師位合々  
ニ四階又大法師位アリ五位トナス於茲抄延暦十七年九月  
九月法部省解云々僧位ニ五階アリトアルハ是レナリ  
又曰ク傳燈修行誦持每色各四階合々十二階又大法師位  
アリテ十三階トナル按ズルニ天武ノ朝僧綱ヲ置テヨリ專

12 (正八條町大藏院)

又道徳ノ尊<sup>崇</sup>ニ復シ位階ヲ制セシ僧ニ位階アル蓋シ此ニ所  
ル  
勅授ハ四位五位奉授ハ六位以下ナリ以テ奉考ニ資スヘシ  
又清和天皇貞觀六年僧正眞雅僧綱ノ位階ヲ定ムルヲ請フ  
乃チ<sup>勅</sup>僧位ノ制本滿位法師位大法師位ハ三階アリ僧綱凡僧  
同ク此ノ階ヲ授ケ高鼻別々ナリ今三階ノ外更ニ法橋  
上人位法眼和尙位法印大和尙位ヲ制シ以テ律師以上ノ階  
ト爲ス宜シ法印大和尙位ヲ僧正階トシ法眼和尙位ヲ僧  
都階トシ法橋上人位ヲ律師階トスヘシト  
醍醐帝延喜ノ制滿位以上ハ勅授入位以上ハ判授ト見ユ  
後宇多帝弘安八年僧位書礼式ヲ定ム僧正ハ奉議ニ准シ法  
印法務僧都ハ並ニ四位殿上人法眼律師ハ五位殿上人凡僧







之ヲ行幸ノ時姫松トシ笑止ノ馬ニ乗リ供奉スル是レカ事  
ナリ之レハ三子ヲモクナラシムニテ三子ハ天子ノ護リニ  
シアル由ニ由納メ侍ル故トカテ幸毎ニ申文ヲ出シテ必ス  
五位ノ位ヲ給フナリ是レ皆ヨリ同シ名乗ヲ相傳ヒテ紀朝  
臣孝明トナシ最ト不思議ナルコトニコソトアリ但シ此大  
輪轉ハ女司以下七人輪轉叙爵ス外其物又ヲ追ハ中古以下  
絶ハ翠ノ中古女官ノ事ハ今之ヲ略ス  
ニ州同奏ニ曰ク親王及ヒ大臣ノ妻ヲ一位ニ叙セラルルハ  
先限多シ但シ大略ハ朝家ノ外祖母ノ人斯ノ如シ大中  
納言ノ妻ヲ二位ニ叙セラルル例又亦同シ出カテ  
外國人叙任ノ事  
舒明天皇十一年十一月新羅ノ客ヲ朝ニ饗ヌ因テ冠位一級

ヲ給フ

日本書紀ヲ按スルニ外國人ニ位ヲ授ケラルル事トモ  
始ニハトアリ  
日本書紀ニ曰ク皇極天皇元年八月百濟ノ賢達率長福ニ小  
使ヲ冠テ授ケ中客已下ニ位一級ヲ授ケ  
朝鮮群載ニ曰ク醍醐天皇延喜二十年三月渤海國大使信部  
少卿從三位紫璆ニ正三位ヲ授ケ  
愚按スルニ古來外國人ニ位ヲ授ケラルル事其例尠カラス  
ト臣氏近世ニ至リテハ絶ニテ看ル所ナレ維新以降勲等  
制ヲ設ケテ外國人ニ勲章ヲ授ケルノ例ヲ同カレシメ  
位記ヲ賜フ例ハ今令令行ハレス  
贈位ノ事 附外國人贈位ノ事



天武天皇二年五月大錦上及本賊臣卒ス至中ノ幸ノ方ニ由  
シ小紫位ヲ贈ル  
日本記ニ曰ク彌位ノ由此ニ由ルハト  
大室令ヲ按スルニ凡ソ使ッ絶域ニ奉レ賊ニ遭ヒ及ヒ海ニ  
没シ以テ死ヲ致シ應ナニ贈位スヘキ者ハ子孫ノ舊法一ニ  
生官ニ同シトアリ  
仁明天皇天長十年三月詔ス朕カ外祖從三位橘朝臣清外祖  
母從三位田口氏並ニ正一位ヲ追賜ス  
朝野群載ニ其位記状ヲ載セテ曰ク  
橘朝臣  
地唐貴戚、爵既隆而加榮、德蓋餘芬。人雖謝而追遠、且中朝典式  
資泉局

田口氏

命慶潛行。誕茲煥燿。拾川行闕。南郁桐流。飲若旧章。睦親新在。宜  
崇統贈。允迪追榮。  
日本記ニ曰ク天武天皇二年閏六月大錦下百濟沙宅眼明卒  
天皇思ッ降シ以テ外小紫位ヲ贈リ重シ本國ノ大佐半位ヲ  
賜フ  
藏人所一名藏事ノ事  
附非藏人出納所象瀧口ノ事ヲ辨ス  
堀城天皇弘仁元年始テ藏人所ヲ置テ藏人ハ事ヲ奏スル事  
ヲ掌ル長官二人ヲ須ト去ヒ四位ニ叙ス五位三人六位四人  
ヲ以テ組織ス帝御宇之間水旱風蝗大災幸大之レアリ疫元  
亦屢々行ハル毎ニ諸國ニ詔シテ賑恤甚ノ勤ハ又遊幸ヲ好



之五也 多々ハ 攝職、離宮ニ升ル事アレバ 則テ宣位ヲ朝  
堂ニ設ケ五位ノ藏人ヲシテ其側ニ居キ群議ヲ聽キ以テ奏  
スレハ故ニ之ヲ職事ト云フ職事ノ名是ニ由リ藏人ノ專稱  
トナレリ此時始メ左工門督巨勢野是右工門督藤原冬嗣  
ヲ頭ト為ス宇多天皇寛平九年別當ヲ置キ大納言藤原時平  
ヲ以テ之ニ任ス後第一等ノ公卿ヲ以テ此ノ職トナラセ  
ル朝法皇政ヲ仙洞ニ聽キ院ニ別當ヲ置キ外學園院實季又  
子之ニ補シ執事ヲ置キ之ヲ佐リ始メ院宣ヲ以テ天下ニ令  
ス是ニ於テ藏人所ノ政ハ院中ニ移リ記録所ハ文殿ニ移ル  
天子攝關ハ惟節會叙任等ノ禮式ヲ奉行スル、之又後朱雀  
帝寛徳二年記録所ヲ大政官ノ朝所ニ置キ上卿弁官及寄人  
ヲ定メ諸國ノ文券ヲ徵シテ度決ス是ニ於テ藏人所ノ政ハ

記録所ニ移リ其後院政始マリ仙洞ノ文殿ヲ其所トナ  
因テ文殿ノ政ト云フ之ヲ帝シテ其考ノ資ニ後醍醐天皇ノ  
御宇記録所ヲ復シテ親ク民ノ訴訟ヲ聽キ之ヲ偶臣ト石  
ニ經火ヲ討論シ玉フ藏人ニ人ノ四位ノ殿上人中清樞ノ職  
也辨方一人進衛方一人之ヲ補ス帝例ナリ凡ソ頭ノ當職ノ  
時位次ニ依リテ之ヲ諸侍臣トシテ着々其議ニ副ルハ必  
ズ之ニ任シ古未宣職ト為ス又大小ノ公事ヲ奉行スルハ同  
非若死才ノ輩競望スル能ハサルヤトス是ヲ以テ之ヲ思  
ハル未代ト雖モ清樞ト謂フヘキ歟昔ハ東三條兼家藏人頭  
トナリ從三位ニ叙ス後中納言ニ任スト雖モ猶モ藏人頭ト  
希代之例也  
五位藏人三人ハ五位ノ殿上人中名家ノ諸代孫ニ其器用ヲ



樞<sup>ニ</sup>補スハナリ為職ニ補スル者ハ次第ニ昇進スルヲ恒  
視トナス是ノ故ニ為職ニ補セラルハ、ヲ以テ出身ノ初ノ  
トス云々  
頭及ニ五位ノ藏人ハ禁色ヲ着ルヲ聰スヲ以テ拝賀以  
前ニ宣旨ヲ下ケル、例ナリ但シ本コト禁色ヲ聰スノ人ハ  
更ニ宣下ニ及ハレサルナリ  
六位ノ藏人四人宣化ノ諸大夫中放持ナラズレテ畧量アル  
ノ輩之ニ補ス地下ノ諸大夫多ク之ヲ以テ先途トス五位已  
後ト云モ藏人ノ五位ヲ以テ規模ト為スノ故ナリ藏人者年  
齒老少ニ依ラズ次第ヲ以テ上下ヲ定メ極蔭ニ至レ  
ハ必ズ巡壽ニ預ル若シ奉公ノ志アレハ其籍ヲ除キ更ニ未  
仕ニ加フルナリ六位藏人ハ禁中細々公事朝夕御膳等ノ事

ヲ奉行ス之ヲ曰下蔭ト称スルナリ四人曰ク今々奉行セシ  
ムル故ナリ六位ノ職事又禁色ヲ聰ス極蔭ニ至レハ菊座袍  
ヲ着ク云々  
聖上明覽弘化二年六位藏人四人ノ家ヲ載テ丹藏人小  
森典兼助丹波頼永正六位上左将監極蔭北小路中務大丞  
大江俊常正六位上東宮権少進新藏人藤嶋右兵衛少尉藤  
原助胤正六位上差次藏人細川左将監源常徳正六位上又  
藏人大夫ト云フアリ典兼兼ヲ持テ小森典兼頼之朝臣從  
四位下是レ近代ノ例ナリ  
非藏人ハ負教ナシ宣化諸大夫中未ノ藏人ニ補セラルノ間  
先昇殿ヲ遂ケル是ヲ非藏人ト云フ又非職ノ者ヲ云フ公事  
ヲ奉行セズ禁色ヲ着ケズ上宣下ノ職ナリ但シ藏人者頭



以下上卿奉勅宣ニアラス所謂内侍宣ナリ藏人頭已下  
六位藏人以上位署ニ書スルノ時其職ヲ書加フルハ是レ古  
来ノ例ナリ  
出納ニ小舎人以上皆重代經歷ノ輩及ヒ雜色良家ノ子ヲ以  
テ之ニ補ス  
所象ハ六位ノ侍中然ルヘキノ輩ヲ以テ之ニ補ス  
流口ハ藏人所ニ屬シ御所ヲ守ル武士ヲ云フ御行水所  
流口ハ掛テ置テ其口ニ勤番スル故ニ流口ト云フ上ノ見  
原ノ官位訓ニ禁中ノ流口ハ侍官ナリ凡ソ流口ハ五十九  
代年多帝ノ御宇始テ源平重代ノ侍武勇ノ達人二十人ヲ選  
ビテ帝ニ禁中ニ伺候シ清涼殿ノ東北兼香殿ノ西ノ流口  
ノ勤番セシメ是ヨリ代々二十人ヲ補テラレテ帝警固ノ

為ノニ其人ヲ擇ハルノ間重代佳名ノ侍多ク是ニ補ス云  
ハ又六位ノ侍ヲ擇ヒテ流口ニ十人ニ補セラルルノ中三人  
ヲ上臈トス一月ノ勤番セテ流口ノ事ヲ支記ス流口ニ依  
テ必ス凡右馬允ヲ兼ルル者官ノ流口ト云フト見ユ  
官位畧式ノ事  
凡官位相當者以官書千位上  
中納言從三位中納言也  
兼位相當官ニ以上者當依官位令例今正兼云著頭兼同著頭  
從五位上故ニ官共從五位上官而官位令例先云著頭同著  
兼位文武兩官相當者以文為正武為兼  
左少弁兼右近衛權少將正五位下凡二官共正五位下官也  
以  
為兼



官位不相當者。以位書于官上。有字

位。鼻官高。則加字。

從三位。樞。大納言。大納言也。正

官。鼻位高。則加行字。

正二位。行。大納言。大納言也。正

兼任不相當官。二以上者。於位下先高者。次鼻者。而加守兼行字。

從三位。守。大納言。兼行。春宮。樞。大夫。大納言也。三位。故。加。守

故。加。行。字。

兼任相當不相當兩官以上者。以相當官書于位上。余不論高鼻。

皆為兼官。書于位下。而加兼字行字。

左近衛。大將。從三位。兼守。大納言。行。兵部。卿。故。近衛。大將。相當官。

正三位。官。故。加。行。字。且。兼。字。故。印。卿。正。四

位。下。官。故。加。行。字。蓋。不。復。用。兼。字。也。

兼任京官與外官者。不論相當不相當。以京官書于上。蓋隨時或

有斟酌。其儀別記之。

從五位上。行中宮。大進。兼。近江。樞。守。加。中。官。大。進。從。六。位。上。官。故

無相當之官。必書于位上。如官位相當位署。謂之捧物

文章。得業。生。正。六。位。上。

攝政。關白。內。大臣。別。當。矣。議。征。夷。大。將。軍。

藏人。頭。五。位。六。位。修。理。右。宮。城。使。造。東。福。寺。使。

鑄錢司。防河使。施藥院使。內舍人。外國前使。

以下凡無相當之官皆同。

兼任捧物。二以上者。於位上。從其職輕重為序。而不用兼字。

關白。內。大臣。正。二。位。在。上。官。其。攝。政。關。白。書。位。署。事。姓。字。治。國。白。



公賴通

內大臣征次大將軍從二位  
在二官共無桐尚而內大臣文官近  
代之例以將軍  
府上去也

兼任持物與正官一者亦不用兼字

攝政太政大臣從一位  
從太政大臣正  
位也

別當從一位行充大臣  
充大臣正從二  
位也

兼任持物與正官二以上者於下之正官加兼字

內大臣充近衛大將從三位兼行東宮傳  
大將從三位官故在  
任下上東宮傳正  
位也

位上官故加行  
字且用兼字

散官不書前官惟書散位二字於本位上

散位從一位  
至前攝政及大臣以下自一位  
至初位無官之人皆用散位字

列姓尸名之法無高卑一也但於位署不用某朝臣其尸者同姓

而有異也其別畧見拾芥鈔

相當官位藤原朝臣名

不相當位字官小槻宿禰名

位行官質為縣主名

加臣一字於姓之上者是經奏覽之書及上表之位署必用之

墓碑之位署不論官位相當不相當惟託官位姓名之墓而不

用行字字若有兼官者雖先高者次卑者亦不用兼字者是所

令條之定也

給及位記更換之事

廷叙令曰凡位記ヲ失ミレハ所在ニ於テ陳牒ス本屬

奉司ノ長官其失由テ推シ狀ヲ具シテ者ニ申ス授換ヲ勘

官ニ申シテ更ニ給フ具ナク失落シテ重テ給ハル狀ヲ注ス



ト又曰ク凡ソ位記錯謬ニシテ改校スヘクハ五位以上ハ奏聞  
ス六位以下ハ判テ改ム並ニ授按ニ注スレアリ其手續ハ蓋  
シ近代ニテ實行ニ来リタルモノ、如シ

叙位者名簿ノ事

公式令ニ曰ク凡ソ官位ヲ注授セル所、司皆具サ  
ニ官位姓名任按ノ時年月貫屬章紀ヲ録シテ簿ヲ造シ其任  
官ノ簿ニハ貫屬章紀ヲ除テ官人連署シテ印記ス若シ轉任  
シ身死ニ及ビ事故アリテ理ヲ以テ任ヲ去ル者アレハ即チ  
簿ノ下ニ於テ朱ヲモテ之ヲ書注セヨ其考解及ビ犯罪除免  
スル者アレハ解免スルノ司モ亦解免ノ状ヲ録シ前ニ在リ  
テ簿ヲ造リ仍ホ免ノ任按ニ録報シテ簿按ニ除注セヨ若シ  
除解ノ人叙用ヲ得ハ叙用ノ司解ク處ノ所司ニ録報シテ簿

ヲ除テ未ノ叙セサルノ間本貫ニアリテ身死スル者ハ刑部  
ニ申シ注除セヨ其餘ノ色ハ職掌ニ依テ應ニ造ルヘキ者ハ  
並ニ此ニ在リ因ニ記ス叙位奉宣ノ所ニ叙位者名簿ノ式ア  
リ以テ参照スヘシ

有位者除名ノ事

獄令ニ曰ク凡ソ官人犯罪ニ因テ移配シ及ビ別動ニ見任テ解  
シニ若シ本罪除免及ビ官者ニカラサルモノハ位記各違  
例ニテラス凡ソ罪ヲ犯シ除免及ビ官者スヘキモノハ奏報  
スルノ日除名ノ者ハ位記ハ悉ク毀レ官者及ビ免官免所居  
官ハ唯見当免及ビ降至ノ者ハ位記ヲ毀ル降所不至ノ者ハ  
進限ニテラス應ニ毀ルヘクハ並ニ太政官ニ送テ毀ル式部  
ノ按ニ毀ル字ヲ注シ太政官ノ印ヲ以テ毀ル字ノ上ニ印セ











外印ハ一ノ中ハ又四印ハ五ノ上ノ御宣ヲ刺セ史生柁唯葉ニ  
 新キ印ヲ捺シ詔ヲ退キ申シテ曰ク印刺ウ上御少納言ヲ見  
 遣テ仰テ曰給ク少納言柁唯葉ニ史生ヲシテ寫テ外記ニ校  
 シ外記之ヲ取リ右ニ廻リ退リ史生印ヲ納メ柁ヲ捺シ退リ  
 次ニ次ニ少納言次ニ上御以下起出ス  
 前ニ述フルカ如ク令ノ制ニテハ鈴印ヲ請進スルハ少納言  
 職任ヨリ而シテ諸國ニ下ス公文ハ少納言印校ヲ奏請シ  
 訖リ主鈴之ニ印ス但シ軟符並ニ任記ハ少納言之ニ印スハ  
 例ナリニ職原抄ニ校レハ弘仁御藏人所ヲ過ク後其  
 職掌侍中ニ過ル仍シ少納言ハ只鈴印等ノ事ヲシテ掌ル其  
 職太政官中務省ヲ兼ヌハナリトヤリ先ノ中古以後ノ一変  
 ナリ

俸禄ノ事

附封戸位田職田切田等官奉齋等ヲ保  
 録ス  
 制度通ニ曰ク本朝俸禄ノ法通シテ之ヲ考フルニ禄封カ位  
 田職田奉給ニ五品ナリ禄ハ絹布ノ類ヲ給シ封戸ハ戸口ヲ  
 給シ位田職田ハ土地ヲ給ス皆町段ヲ以テ之ヲ計ル奉給ハ  
 官爵ヲ任スル者ニ給スルナリ然ルニ令ニ奉給ノコト見  
 ハズ於茂抄ニハ禄ノコトヲ載セス是レ古今ノ間実易アリ  
 ニモト見エ大概古今ノ変テ考フルニ上古ハ神明ノ世無  
 為ノ過ヲ以テ万民ニ臨ミメヒレヨリ後人文風ケ明カ  
 ニ禮樂興リ行ハル之ヲ大成シテ律令格式ヲ撰ニ玉フ其沿  
 革極盛ノコトハ具サレテ國史ニアラハルソレヨリ後或ハ



政ニリ或ハ廢レテ以テ後世ニ及フ孰レモ本邦先王ノ世ニ  
於テ其朝ノ礼ヲ斟酌シ古今ノ交通ヲ考ヘ水土ノ便宜ニ因  
テ損益取捨シ玉々ト知テルハナリ  
又於祿ノ制ハ祿令ニ詳ナリ先ウ一章中ヲニツテ今ヤ其春  
夏ノ二季ハ二月上旬ニ渡リ秋冬ノ二季ハ八月上旬ニ渡リ  
例トス春夏ノ祿トハ前年八月ヨリ正月ニテ内上日百  
二十日以上ニ及フモノヲ今章ノ二月ニ渡ルモノトス秋冬  
ノ亦之レニ準シ二月ヨリ七月ニテノ祿ヲ同年八月ニ渡ル  
ナリ上日トハ者ヲ勤ムル日ヨリトナリ祿トハ純綿布ノ四  
種ナリトハハ正役一位ハ純三十足綿三十疋布百端 百  
四十口ニテ正大小初位ニテ段々ニ等差アリ又一絢ヲ以テ  
綿一疋ニ代ヘ銭ニテ以テ 五口ニ代ルコトアリ例皆此

如シ  
令ニ曰ク凡ソ在京文武職事及ヒ太宰老岐封島皆官位ニ依  
リ祿ヲ給スト云々百官ノ職事アルハ孰レモ祿ヲ給スルナ  
リ祿トハ上ノ四種ニテ米粟ニ於テハ口ニテ以テテアラス  
凡ソ終封戸トハ古クハ民家ニ課戸不課ト云フコトアリテ  
家内ニ課丁一人アル以上ヲ課戸トシテ之ヲ計テ給スルナ  
リ課トハ役ノコト年十六ニテハ軍役ニ出ルニ因テ卒生  
一人ノ身前ヨリ役ニ庸布ヲ出ス之ヲ課丁ト云フ其課丁ア  
ル家ヲ課戸トハ云フナリ廿ニ古クハ一戸毎ニ租庸調ノ三  
ツアリ田租ハ二ツニ割テ一分ハ公儀ニ上テ一分ハ封戸ノ  
主ニ給セラレ封戸ノ位丁ニ其主ニ給スルナリ令ニ曰ク凡



封戸皆課戸ヲ以テ充ク調庸ハ全ク給テ其田租ヲ二分ト  
十一分ハ官ニ入レ一分ハ主ニ給スト是レナリ  
凡ク封戸ハ親王凡ク四段諸臣正一位ヨリ從三位職ニテハ  
大政大臣ヨリ參議ニテ孰レモ之レマツ内親王ハ減半ナリ  
大上天皇ニハ二千戸ト云フ令並ニ拾叅抄ニ詳ナリ  
又一國ニ封セラルハコトアリ廢帝天平宝字四年八月ニ先  
朝ニ贈正一位大政大臣不<sub>レ</sub>比等ヲ封シ淡海公トヤ<sub>レ</sub>勅ニ  
曰ク勲績蓋於宇宙朝未允人望宜依太公故事追以近江國  
十二郡封為淡海公官如故ト云ク是ハ後贈歸ト見  
ルナ<sub>レ</sub>北後封号九人アリ下之ヲ奉ル淡海ハ即チ近江ナリ  
國ニ封セラルハ何レモ名ニシテ實封ニハアラス  
封國公十人

淡海公<sub>不<sub>レ</sub>比</sub> 文忠公 美濃公 良房 忠仁公  
越前公 是經 昭宣公 信濃公 忠平 貞信公  
尾張公 實賴 清慎公 參河公 伊予 謙德公  
遠江公 兼通 忠義公 駿河公 賴忠 廉義公  
相模公 為光 恒德公 甲斐公 孝仁 義公  
又帳内資人事力アリ祿令ニ載セサレトモイツレモ公上ヨ  
リノワタリ人ニシテ在職ノ中ハ給事アルナリ帳内トハナ  
ドホリト訓ス親王ニ給ス一品ニ百六十人ヨリ以下四品ニ  
一百人ナリ六位以下ノ子並ニ庶人ヲ以テ之ニ当ツ資人ハ  
ツカヒビト訓ス大臣納言並ニ諸臣一位ヨリ從五位ニテ  
之ニ給ス一位ハ百人ニ位ハ八十人ヨリ以下從五位ハ二十  
人ナ<sub>レ</sub>減半ナリ其大政大臣ハ三百人左右大臣ハ二百人大







右食封、フト於不抄ニ載スル所合、文レ同シカラス合ニ  
 一高八百戸大政大臣三千戸左右大臣二千戸ソレヨリ以  
 下孰、モ戸數多ク然ルハ十リ於不抄ニハ一高六百戸大政  
 大臣千五百戸トアリテ其下ニ七百戸ヲ減ストアリ内大臣  
 中納言參議、令ニ載セズ令外、官トレハ十リソレヨリ以  
 下孰レモ減サズ沿革アリト見ヘタリ

位回  
 凡位回トハ位階ニ因テ之ヲ然ク親王凡ハ位回殿諸臣一位  
 ヲリ五位ニテ之レアリ女ハ三分、一ヲ減セラル親王ハ又  
 高回トモ云フ  
 一高 八十町 二高 六十町 三高 五十町  
 四高 四十町 五高 三十町

正一位 八十町 從一位 七十町  
 正二位 六十町 從二位 五十町  
 正三位 四十町 從三位 三十町  
 正四位 二十町 從四位 二十町  
 正五位 十二町 從五位 八町  
 外從五位 六町

職回

凡ハ職回トハ官職ニ就テ之ヲ然ク又ハ職令回トモ云フ大  
 政大臣ヨリ納言ニテ之レアリ  
 大政大臣 四十町  
 左右大臣 三十町  
 大納言 二十町











皆錦紫繡織及五色、綾羅ヲ用テ一日ノ服色ハ皆冠色  
ヲ用ツト十九年五月五日免田聖ニ桑獵ニノコトニ諸臣ノ  
服色皆冠色ニ随フニ各髻采ヲ着ク大徳小徳ハ並ニ金ヲ用  
フ大仁小仁ハ豹尾ヲ用ツ大禮以下ハ鳥尾ヲ用ツト見コ  
リ又本朝ノ制服ニハ礼服アリ朝服アリ制服アリ衣服令ニ  
此三等ヲ載セリ礼服ハ皇太子以下親王諸王諸臣各其差アリ  
大祀大嘗元日ニ之ヲ服セラル内親王四女王内命婦並ニ  
御官各其別アリ朝服ハ親王一品ヨリ四品ヨリ諸臣一位ヨ  
リ初位ニ至各其差下リ朝庭ノ公事ニ之ヲ服ス制服ハ無位  
ノ者公事ニ服ス令ノ集解ニ云ク無位ニ於テハ朝服ト云フ  
ハカラス故ニ制服ト云フト庶人ニ至通シテ之ヲ服シ只朝  
庭ノ公事ニハ之ヲ服ス其裁縫ノ体制一ニ朝服ト云フト其

詳カナルニ本令並ニ式ヲ考ルベシ但シ宮人ノ制服ハ少  
シク差別アリト云フニ其裁縫ノ体制一ニ朝服ト云フト其  
鳥羽上皇好シク恭儀ヲ修メ玉ヒ元大臣源有仁亦修飾ヲ善  
ク一時風ヲ化シ衣冠ノ裁制一変シ又朝服ニ綾アリ鳥帽ニ  
類アルノ類又公卿ノ差ヲ澁ノ脂粉ヲ施ス等ノコトモ此頃  
ヨリ始メリシモ、如シ  
茲ニ近代ニ至用ヒラレタリハ礼服藝服ノ類ヲ逐次ニ畧叙ス  
ヘシ束帯、袍ハ「ウ」ノキヌト言フ天皇親王臣下等差別ハ  
面々アレトモ皆色ノ紋カラシ差ニシテ其製ハ縫服有  
襪[履]無襪、ニ種ニ過キマ下襲トハ裾ノコトナリ裾ハ元來  
下襲ノ喬ナレハ一ツトシテ下カサネニ変ルヲナシ古ハワ  
バヒノルヲ用ヒモアナリ但シワバヒナラハ用エハ時ノ累



ヒアルヨレニテ別ニ切ハナク用ヒ玉フトナリ共長短ハ  
官位ニ依テ相違アリ表袴トハ一ハハカニ下ニ去ッ衣服令  
ニ白袴ト云ルニ是ナリ夏冬共ニ裏ッ付テルニ又トス  
又位階ニ依テ差別アリ赤大口ハ公卿殿上人地下ニ雖比夏  
冬、別ナク又奴袴ハ一名指骨ニ衣冠血衣等、時ニ用フ  
血衣ハ位階章路等ニ依テ色模様ノ差別アリ其外細長水干  
爲袴長袴狩衣血衣大紋布衣素袍トドニ朝盛ナクハ頃ヨリ  
武家政治ノ時迄迄々ニ出来レハ版ナリ  
十徳素袍ニ似ルハモ、ニテ昔ハ何人モ着タリシモノ  
ナハニ後世ハ醫者トド剃髪シノ者、ニ用フハ又ノトナ  
レリ肩衣ハハルクヨリテ万葉集ノ歌ニ見ユルヨシ  
用ケリ此ノ肩衣ニ袴ヲ付テニ縫上下ト云フ是レ武家ノ

帯版ナリ麻上下ノ素袍、袖ヲ截リシモノト云フ徳川幕府  
ノ頃ニハ大札ニハ東帯衣冠等ノ衣服ヲ着スレトモ通帯ノ  
礼服ト云ハハ一般ニ麻上下ヲ用セタリ  
装束要領鈔ニ曰ク東帯ハ袍以下ノ装束表袴ヲ着ニ石帯ヲ  
以テ束ヌルヲ東帯ト云フトアリ即チ其東帯ノ具トハ冠(至  
纒)懸緒袍大帷(自夏至秋赤白至春白至下襲草)襦(和訓)コカ  
ニ、スリニニ曰クキヌノ、ニ表袴赤大口石帯釵(紫釵)  
笏(和名佐久)拾扇襪履(靴)浅履(緒)大等ノ備具ニシテ、  
帯トハ云フナリ自丈雜記ニ云ク東帯トハ冠ヲカブリ草下  
繫袍ヲ重不其上ニ袍ヲ着テ裾ヲ付赤大口ノ上ニ表袴ヲ着  
ニ石ノ帯ニテ装束ヲタノ襪ヲハキ靴ノ指又ハ浅袴ヲハ  
キ笏ヲ持ツク云フナリ武官ハ平緒ニテ大刀ヲハタナリ夏



等、紫束、紫束國式、云々、青、繪、國、上、古、一、束、帶、十、  
 口、下、一、リ、コ、ワ、ク、付、ル、麻、大、十、五、口、用、フ、ハ、コ、  
 ト、ナ、リ、レ、故、紫、束、ノ、秋、ヤ、ワ、ラ、カ、ニ、ナ、リ、後、鳥、羽、院、ノ、  
 陶、日、ノ、衣、丈、ト、云、フ、事、出、来、テ、紫、束、ノ、秋、コ、ワ、ク、成、ル、ト、ナ、リ、  
 高、倉、山、科、ト、云、フ、事、家、ト、云、フ、事、其、レ、ヨ、リ、以、来、ノ、事、ナ、ル、  
 ハ、レ、天、神、ノ、御、影、像、ト、云、フ、事、今、ノ、紫、束、ノ、ゴ、ト、ク、コ、ワ、ク、  
 ナ、ド、立、撮、ニ、カ、ク、リ、語、リ、ナ、リ、道、貞、公、在、世、ノ、頃、ハ、紫、束、  
 ノ、形、ク、ヤ、ワ、ラ、カ、ナ、リ、束、帶、衣、冠、直、垂、等、ハ、皆、公、家、ノ、紫、束、ナ、リ、  
 武、家、ノ、故、家、ニ、ハ、コ、ウ、ス、公、家、高、倉、山、科、家、ニ、故、家、ア、ル、ナ、リ、  
 總、持、ス、ル、ニ、服、制、ノ、事、ハ、古、人、ノ、尤、モ、心、ヲ、用、ヒ、タル、モノ、ニ、  
 シ、蓋、シ、衣、裳、冠、冕、ノ、設、テ、ハ、貴、賤、ノ、高、ク、分、ケ、人、ノ、物、ニ、異、ナ、ル、  
 所、以、ナ、リ、故、ニ、古、ノ、ヨ、リ、聖、王、之、ヲ、重、シ、ス、易、ク、系、統、ニ、云、ク、黃、

帝、堯、舜、禹、衣、裳、而、天、下、治、蓋、取、諸、乾、坤、ト、古、未、傳、フ、ハ、ト、コ、ロ、此、  
 文、武、天、皇、大、宝、元、章、三、月、勲、位、ヲ、制、シ、正、冠、正、三、位、ニ、始、マ、リ、進、  
 冠、從、八、位、下、ニ、終、ル、合、セ、テ、十、二、等、ニ、  
 正、三、位、勲、一、等、從、三、位、勲、二、等、  
 正、四、位、下、勲、三、等、從、四、位、下、勲、四、等、  
 正、五、位、下、勲、五、等、從、五、位、下、勲、六、等、  
 正、六、位、下、勲、七、等、從、六、位、下、勲、八、等、  
 正、七、位、下、勲、九、等、從、七、位、下、勲、十、等、  
 正、八、位、下、勲、十、一、等、從、八、位、下、勲、十、二、等、  
 何、藤、長、胤、曰、ク、唐、ノ、高、祖、武、德、七、年、始、テ、令、テ、定、メ、官、階、ヲ、制、シ、



上柱國の武騎尉は至十二等を勲官とし、官の勲アル  
是れより始り、上柱朝の制も亦庶の制に倣ひ、十二等を  
置り、然し其皆勲義等と云ふは、制名を別り、後又行ハレ  
明制復り、文武の勲を合し、云ふは、  
勲按スルは、凡そ勲位は勅授、奏授の二様あり、判授あり、  
十二等其勲三等以上を勅授、トレ十二等以上を奏授、トラス  
之れ位階は比スレハ、勲六等内外五位以上は准シ、勲十二  
等内外六位外七位以上は準スル也、トス  
國史、職方、周スレハ文武の朝に至り、忍壁、親王、藤原不比等  
命に更ニ天武、令り修定ス、官名位号を改メ、位記ヲ以テ  
冠位を易メ、始り官位相當アリ、賞功ハ勲位十二等を設  
キ、官位ハ濫皮の防々云々

冬良公御用者勲位ハ戰場に出テ其勲功ニ依テ、十ナレハ位  
ナリ、一等コソ十二等ノ階アルナリ、勲一等ハ正三位ノ相當  
ナリ、以下ハ下ニ見、タリ或ハ勲位ハ又位ヲ兼帶スルナリ  
アリ、勲位ハカカリトキハ黃袍ヲ着スルナリ、又位ヲ帶スル  
トキハ位袍ヲ着スルナリ、タトハ勲一等ハ七位ヲ帶セル  
縁、袍ヲキテ正三位ノ下從三位ノ上ニ列立スルナリ、  
定基卿着勲位コレハ軍功ヲ以テ被叙、候位ニ候畢竟申セハ  
出位ニテ候自一位至初位、又位ト申候上古ハ以軍功得此位  
候右大臣共備、貞共備、天平宝字八年誅惠美押勝、賜勲二等此  
類ニ候神社ニ勲位候ハ祈軍即審、トキ勲位奉ラレ、ニテ  
候、安勲位、純申候、時代ト甲申無之候、仁也ヨリ寛平延壽延長  
ノ同、太平ノ日久シキ至義平將軍官送、時藤原忠文賜節鉞



候得共不暁其裁自中途歸洛候ニ無其賞候天慈用依古字諱純信  
陷而所候得共海賊ノ義ニ候ハ小野好古之大切ナリ  
一位ノ沙汰ニテハ不及類ト在候其後頼義義家朝臣等聲貞  
任武衛被命勅命ニテハ候得共實ニ報私讐候ハハコレ  
又勲位ノ下ニハ及ビテハ候故イワトナリ絶中候ト在候曰  
勲位ト申事イハ、又勲位トハ或ハ武勇ナリトイ功下レ工  
ハ四位五位ニ叙レテ日キ官職ニイワルハキ事ナリ其弓  
馬ノ道ハナリ道ニテ能候得共殿上ノ役ニナリ又然工ハニ  
禄ヲイフニ功日ノ位ノ早ク申候位階ハ三十階勲位ハ二  
十八階ナリ云々  
公卿ノ事ニ候ハ、攝政園白及ヒ三公ハ是レ公ナリ敬  
職厚欽ニ曰ク公卿トハ攝政園白及ヒ三公ハ是レ公ナリ敬

12 (芝久保町 大要局)

一位及ヒ三位巴上ハ是レ卿ナリトテハ官位訓ニ奏議ハ四  
位ト雖長獨ノ卿、如キナリ但シ召名ハ獨ホ四位ト稱スル  
カコトニ上混雜ニシテ六ノハ非ナリ攝政園白太政大臣左  
大臣内大臣准大臣ハ皆公ト稱スルナリ中納言ハ從三位大  
納言ハ正三位ナリ然レニ羽林名家ノ中ニ於テ其器量高官  
ニ任ヌハナリ人ヲ昇進セシメ度思召ナル、時高官ノ欠ナリ  
ニ餘儀ナリ大中納言ノ間ニ沈淪、又ハ晚達ヲ尉ノ始  
クニ位或ハ從一位ニ叙セラル其時ハ位高ク官卑キニ依  
テ官ヲ辞シ前官ノ大納言ニ成リ敬一位敬二位ト云ヒ是ヲ  
卿ト稱ス凡ハ三位以上ハ卿ト稱スルナリ又奏議ハ其職太  
政官ニ居テ公卿ト天下ノ事ヲ参リ議スハ職分ナルニ依リ  
曰位ノ奏議ト雖長獨ノ卿ト稱スルナリ又和漢三七因會ニ月















瀬ト云フ水無瀬。七條、所尻、櫻井、山井、五氏トス。芥九ヲ高倉  
家ト云フ。高倉、堀川、樋口、爲小路、四氏トス。而レテ高倉家ヲ  
不致ノ家ト爲ス。以上清華ノ久我、高橋、及レ大臣家ノ中院ヲ  
源氏トシ、其他ハ皆藤原姓ナリ。第十ヲ村上源氏ト称ス。久我  
家ハ流ナリ。六條、若倉、十種、東久世、久世、梅渡、安倉、植松、八氏  
トス。第十ニテ宇田源氏ト云フ。庭田、綾小路、五辻、大原、慈光、本  
ノ五氏トス。第十一ヲ花山源氏ト云フ。白川、神祇伯、家邊、シ  
ナリ。第十二ヲ清和源氏ト云フ。之ヲ竹内氏トス。第十三ヲ菅  
原家ト称ス。高辻、五條、康橋、東坊城、清岡、桑原、六氏トス。但シ  
高辻家ハ世襲、文章、松土、五條家ハ相摸、家ナリト云フ。第十  
十五ヲ平家ト爲ス。西洞院、平松、長谷、文野、石井、五氏是レナ  
リ。第十六ヲ清原家ト云フ。能橋、伏原、澤山、三氏トス。第十七ヲ

安部氏ト云フ。土御門、倉橋、二家トス。而レテ土御門ハ世々  
陰陽頭ニ任スルヲ以テ例トス。第十八ヲ大中臣氏ト称ス。ル  
藤波、神祇、大副、家邊、シナリ。第十九ヲト家、即チト部、姓ニシ  
テ吉田、神祇、權、大副、家邊、シナリ。其同姓ニ萩原、錦織、藤井、  
三氏アリ。第二十ヲ丹家ト云フ。錦小路、氏アリ。第二十一ヲ江  
家ト称ス。之ヲ北小路、氏トス。右村、上原、氏ヨリ江家ニ至ル家  
数、三十八ニシテ之ヲ總計スレハ公卿ノ家ハ百三十七家ナ  
リトス。

官務局務ノ事

雲上、明曉ニ曰ク。及レ正、西局、近代、大史、ハ左右ヲ兼メ、之ヲ官  
務ト云フ。外記、上首、之ヲ局務ト云フ。仍ホ今、西局ト称ス。地  
下、官人、棟梁、ナリト。押小路、大外記、師、徳朝、臣、正、曰ク。位、下、掃部



頭助教等ノ兼々其嫡子ハ新大外記師身朝臣從四位下造阿  
正トカリ又壬生官終以寧前祿正四位上左大夫兵部權大輔  
主殿頭修理東大寺大佛長官等ヲ兼々其嫡子新凡大史輔世  
從五位下トアリ是レ近代ノ例ナリ

德川家本宗及ヒ三家三卿ノ事

將軍家德川氏ヲ本宗トシ尾州紀州水戸ヲ三家ト云ヒ田安  
清水一橋ヲ三卿ト云ヒ今皆德川氏ヲ稱ス  
國主諸候ノ事 德川氏ハ十八國主ト云フ  
國主ハ前田ト小島津藤澤細川肥後黑田筑前淺野德川毛利  
長州鍋島肥前池田田原藤堂津和野松平越前池田備前伊達  
奧州輝祖質河阪小内ト依有馬松久高木佐和久保川  
杉羽州ノ十八家ト云フ

於万石以上ノ諸侯ノ事

於万石以上ノ諸侯ノ事 一、家名知下細字ハ藩地  
柳原馬廻小笠原小倉久松松山酒井堀尾南部盛岡大久保小  
田原松平高松河井並田立花柳川堀田松倉阿部福山河部白  
川酒井土佐箱根長津野弘前伊達宇和島前田大聖寺前田富  
小島田代清川新藤田戸田大垣松平忍松平津山奥平中津  
井羽一木松平明石於万石宗對五州於万石以上ノ松平是利  
川於万石以上ノ松平以上三於二家ト云フ  
田原家諸候ノ事 但シ其他家ニ派ルル家ハ無クハ  
田原家トハ四而ニ進ムルハ家柄ヲ云フ即チ松平白旗松平  
不問毛利與前本多照原大河田與橋加藤永ハ松平松平  
免城毛利與前本多照原大河田與橋加藤永ハ松平松平  
上田松平茂ハ本多國崎本多田中本笠原唐津箱根新井戸田







無城諸候事

但位從五位下以上

無城諸候 一 城ヲ築ル力ナク陣屋ヲ以テ城ニ代用シ居ル  
 諸侯ノ去リ即チ鍋島小城 鍋島運池 細川高願 細川守正 細川  
 冬回部 池田重奴 池田鴨方 小出國部 木下重守 安部國部 鍋島  
 春島 佐竹 秋田 新 糸部 大 清 酒 井 伊 勢 崎 保 科 知 野 池 田 若 尾 九  
 鬼 後 部 國 齋 見 市 橋 西 三 路 大 岡 是 羽 大 給 田 口 池 田 生 板 京  
 極 忠 岡 森 三 日 月 松 平 宗 元 内 藤 湯 長 谷 渡 邊 伯 太 平 田 野 打 輪  
 垣 小 上 小 内 齋 田 堀 田 宮 川 大 久 保 藤 野 山 中 加 納 一 宮 久 高 島  
 森 米 倉 倉 久 松 多 古 東 三 上 酒 井 宗 房 藤 京 極 若 小 長 桐 小 泉  
 土 方 局 野 方 田 三 利 米 津 大 綱 伊 東 岡 田 谷 小 家 奥 田 須 坂 小 口  
 年 少 前 田 七 口 市 青 木 解 田 南 部 七 子 丹 羽 三 章 上 杉 齋 米 田 松 浦  
 田 年 新 津 輕 黑 石 加 藤 龍 光 北 條 依 小 立 花 三 池 有 馬 吹 上 京 極

多 辰 津 奥 田 推 大 織 田 芝 村 松 平 奥 川 松 平 母 里 龍 腹 橋 井 稿 葉  
 館 小 井 上 島 岡 本 莊 高 富 柳 沢 黒 川 酒 井 敦 貞 本 多 小 崎 小 笠 原  
 千 車 大 岡 田 大 平 高 木 母 南 井 上 下 喜 永 井 榊 羅 柳 澤 越 後 三 建  
 部 林 田 森 川 生 實 内 田 小 見 川 新 莊 林 生 一 柳 小 野 一 柳 小 松 柳  
 生 原 生 田 沼 小 久 保 小 笠 原 安 志 又 上 八 十 五 家 卜 一

諸大夫事

諸大夫ハ職原抄ノ名家ノ殿上人及ビ諸大夫ノ五位之ニ任  
 ス又ハ地下ノ諸大夫之ニ任ス又ハ六位ノ諸大夫之ニ任ス  
 等アリテ公達ノ諸大夫ノ相并對シテハ諸大夫下ルナリ公  
 達ハ代々侍從ノ列ニテ大臣納言ニテ昇リシ程ノ人ノ子孫  
 ノ身柄ヲ六ツ一方ノ諸大夫ハ非侍從ナリ人垣圍大臣ノ侍  
 所ニ候ニ恪勤ニテ其力ヲ藉リテ昇リ身柄ヲ去リ職原抄ニ



六位ノ諸大夫之レニ任エトアルハ諸大夫ノ家柄ノ人ノニ  
ハ六位ノハトキ任官ニハモクテナリ次ニ諸大夫侍ノ  
相立ニシテハ稱呼ナリ諸大夫ニ堂上地下ノ差別アリ而シテ  
地下ノ諸大夫ハ執柄大臣ニ付候シテ其力ニ籍ノテ昇進ス  
ル人ニシテ恪勤奉公ノ從テ侍ニ給ル所アリ侍ノ本  
執柄家ノ家人ナリ家人ノ中ニ又若クハ貢人トシテ諸司  
諸國ノ判官立典ニ任セラレ又五位ノ位ニ叙スルモノアリ  
テ諸大夫ニ給ル易ニ畢竟ハ諸大夫ハ本ヨリノ公人侍ノ初  
ノハ家人ニシテ後ニ公人ニナリハ差別ナリ其レハ延享天  
曆以前有来リシモノニ白川鳥羽ノ御代ナリ至リテ漸ク  
家柄ノ名トナリテ元暦以來ハ其跡ハ迹ノ事トナリテ肥後  
浮沈ハナレバ尚ホ某甲某乙ハ諸大夫某柄某丁侍ノ家ノ品

是リテ今時親王大臣ニ付候テラレハ諸大夫ハ一向家人  
ノ様ニ見エレト本ハ公人ニシテ而シテ良家ナルカ多シ  
此家ニ稱スル處ハ四孝草ニ今諸大夫ト云フハ五位ノ通稱  
ナリ無信ヨリ某字トテテ受領ト云フ受領シレノレナリ則  
テ諸大夫ト云フナリ職原抄ニハ諸大夫ニ五位六位又四位  
モアレバ之ニ別録ナリ武家ノ制法ハ違ハリナリ  
武家要覽ニ文政元年八月都テ城主ノ嫡子ハ諸大夫ナリ一  
從五位下ニ無城ノ嫡子ハ諸大夫者若キ寄嫡御奉者嫡子社  
奉行嫡大坂御堂番嫡ナリ又無城ニテ代々嫡子諸大夫松前  
志摩守方石以下ニテ代々諸大夫柳原越中守方石以下諸大  
夫ハ御役駿府御城代伏見奉行御側御高守居大御番頭御書  
院番頭御小姓組番頭御三卿家元孫ノ等頭大御目付所奉行







今升津祇園社 吳前 花咲荷社

右 中院家

古渡船荷社 尾張 正親所家

五小 今成光明寺 智恩寺 聖源寺

法華寺 丹波 西宮 尾張東照宮 長神宮

若宮八幡社 家尾取 芝羽社 大塚 貞福寺 石見

月照寺 攝摩象頭山 金毘羅 方廣寺

南宮社 司美濃大平宮司 下野

右 武家傳奏

西八幡大通寺 聖學社

右 中山家

石清水八幡宮 本國寺 成就院 清水

報恩寺 紀伊 法印白光院 加州 白小長吏 八邊本

右 願極家

宇佐八幡宮 永源寺 近江

右 烏丸家

出雲大社 長命寺 近江 七親音院

大念佛寺 根州 法隆寺 高源寺 丹波

右 攝津家

妙心寺 甘露寺 甘露寺 甘露寺

敏舟院 清涼寺 暖城 淨華院 帶照寺 丹波

大雲院 松林院 淨花院 內證誠寺 越前 越

右 石黒山院家

仁志社 藤森社 上御靈社 泉涌寺



大德寺 總持寺 永平寺 越前南禪寺

金地院 方行相模誠照寺 越前慶光院 伊弉

善光寺 上人住深田寺 長門國今寺 因防

聖願寺 同福寺 皆養寺 八幡正法寺

長壽堂 奥如堂 清水執行 室滿寺 日向

西大寺 向部金蓮寺 四糸道場 御影堂

右 初修寺家

津島社 尾張廣隆寺 大桑智積院 妙顯寺

國泰寺 越中高野小學侶 正法寺 皇山

神主社 家尾川國府 志御殿 八幡宮 尾城 西

右 清閑寺家

寺本寺 西教寺 法華堂 也堂 身延 史久遠寺

右 島城家

米地寺 依木木止 高野家

大報恩寺 大野 口辻家

新玉津島社 上冷泉家

三津八幡宮 根津 養泉家

興聖寺 妙因寺 理滿願寺 同福

右 鷲尾家

一宮 尾法 秋葉山 達州

右 油小路家

離宮 八幡宮 大山崎 櫛笥家

妙滿寺 今城家

吉祥院 天滿宮 長尾 天滿宮 醍醐



右 五條家

安樂寺 筑紫 東安樂寺 下 松森 久滿宮 長崎

大坂 天滿宮 長谷 本願寺 大和 龍松院 車下寺

常樂寺 天滿宮 長樂寺 平岡社 家水 連家 内河

法雲寺 以上 高辻家

芝野 小善光寺 別當 大親進

右 章室家

平野社 西洞院家

熱田 誓願寺 尾張 金崎寺 近江

右 持明院家

伊勢 西宮 大溪 八幡宮 伊勢

右 藤原家

松尾社 所 稻荷社 大原野社

小塩 小膳持寺 日御岩社 出雲

右 外諸國 於 伯白川家 所屬 社數多 其他位奏 十

神社 亦 自川家 所奏 二 一 了 了

竹河 不動院 竹河 安樂寺院

右 高倉家

古河家 於 諸國 大中小 神社 並 社官 統奏 其 見 奏

及 七 諸家 所奏 外位 奏 十 神社 並 社官 等 亦 所奏 二

毛 十 且 以 神祇 道長 職 家 以 依 全國 神社 並 社

社官 追 進 一切 掌 以 諸社 社家 於 官位 何

何方 侍 奏 二 神道 位 授 矣 無 位 社家 裝束 等 儀

有 同 家 下 知 隨 一 青 規 定 七 二



土御門家、後陽道管領、家ノハ、依ッ陰陽寮執事且ッ諸  
 國天文曆道天社神道及ヒ陰陽家ノ輩ハ同家、下知、隨  
 支配、度々一々昔規定ヘラハ  
 愚按スルニ諸社諸寺、各依養テルハ、獨ニ武家ニ封スル武  
 家依養テルニトシ、今其僱養スル所、條件ヲ誓フルニ蓋シ  
 尤、件ニ外ナラサルハ、神社ニテリテハ、神位、奉宣祭  
 典、執行其勅使及ヒ官司祿宣主與等、任官叙位又ハ社格  
 社祿ニ關スル等、事又寺院ニテリテハ、大師國師禪師等、  
 貴師又ハ僧官僧正位、宣下及ヒ寺格寺祿等、關スル事皆  
 其受持、家ヲ經テ執養シ各其手續ニ從クモ、  
 十ハカ如シ、



